

未知座小劇場第39回イベント興業上演台本

...	闇黒光作品集 大日本演劇大系 連続上演
...	第五章 大阪物語 re:vi:si:o:n-2
...	番外 独戯
...	序の章 明月記

[総合目次]

..	大阪物語 revision-2	11100
..	独戯	1180
..	明月記	1197
..	後記	149
..	資料・演技について	73

大日本演劇大系・第五章

大阪物語 revision-2

[登場人物]

..	女 1	打上花火
..	女 2	曼珠沙華
..	鍋島	もりぐち泉
..	釜田	たかはしみちじ
..	刈田	京三三
..	熊野	そらとれみ
..	五色	きく夏海
..	山ちゃん	語呂巻力

[目次]

..	[1]	0
..	[2]	0
..	[3]	0
..	[4]	0
..	[5]	0
..	[6]	0
..	[7]	0
..	[8]	0
..	[9]	0
..	[10]	0
..	[11]	0
..	[12]	0
..	[13]	0
..	[14]	0
..	[15]	0
..	[16]	0
..	[17]	0
..	[18]	0
..	[19]	0
..	[20]	0
..	[21]	0
..	[22]	0
..	[23]	0
..	[24]	0
..	[25]	0
..	[26]	0
..	[27]	0
..	[28]	0
..	[29]	0
..	[30]	0
..	[31]	0
..	[32]	0
..	[33]	0
..	[34]	0
..	[35]	0
..	[36]	0
..	[37]	0
..	[38]	0
..	[39]	0
..	[40]	0
..	[41]	0
..	[42]	0
..	[43]	0
..	[44]	0
..	[45]	0
..	[46]	0
..	[47]	0
..	[48]	0
..	[49]	0
..	[50]	0
..	[51]	0
..	[52]	0
..	[53]	0
..	[54]	0
..	[55]	0
..	[56]	0
..	[57]	0
..	[58]	0
..	[59]	0
..	[60]	0
..	[61]	0
..	[62]	0
..	[63]	0
..	[64]	0
..	[65]	0
..	[66]	0
..	[67]	0
..	[68]	0
..	[69]	0
..	[70]	0
..	[71]	0
..	[72]	0
..	[73]	0
..	[74]	0
..	[75]	0
..	[76]	0
..	[77]	0
..	[78]	0
..	[79]	0
..	[80]	0
..	[81]	0
..	[82]	0
..	[83]	0
..	[84]	0
..	[85]	0
..	[86]	0
..	[87]	0
..	[88]	0
..	[89]	0
..	[90]	0
..	[91]	0
..	[92]	0
..	[93]	0
..	[94]	0
..	[95]	0
..	[96]	0
..	[97]	0
..	[98]	0
..	[99]	0
..	[100]	0

【 1 章 】

人が乗っても大丈夫な円卓がある。
この音楽に和太鼓のリズムが重なる。
廃屋の中はシトシトしている。薄暗い。湿気が多い。雨上がりの木立のように、水滴がいたるところからポトリポトリと垂れている。さびた金属をつたつて落ちてきたのだろう、やけに茶褐色だ。ときおり、鉄の軋む音がする。また、ガラガラとも鳴る。ここはやけに大時代的だ。大きな土管が地上から突き出ている。その上を見ると、土管が天に向かって伸びている。これはどうやら、煙突がこの地上で折れ、上部が天にぶら下がっているといったところだ。
女1、女2 襦袢で登場。やがて人々も各所から麻袋を持ち、背負って登場。他にも何か背負っている。
もつ少し世界定めにこだわろう。
ここは、三次元的な処理ができないが、古びたバス停がある。気を持たせた言い方をすると、まっとう行き先は…… 人生と同じように不明なのだ。

だ。
強烈な残響音。地上の煙突から土煙が上がる。

女1は、後ろ向きの歩行。ゆっくり動き始める。円卓に上る。そこは自分の場であり、日本であり、地球であり、宇宙。身体がその境界と渡り合う。円卓からゆっくり落ちる。
この「ゆっくり落ちる」全体は、独特であり記憶の底に残る。
再びテーブルに上る。再び境界を飛翔しようとする。一瞬限界が敗れる。…… ようである。破裂。自身の内部。縮小。濃度が増すことにより引力が発生する。ついに自身が自身の重さに耐えられない。破裂。カオス。
女2は歩行。おかもちを持っている。
この間、救急車行き過ぎる。電車が通り過ぎる。ヘリコプターが舞って行き過ぎる。街の喧騒。登場した人々はこの世界定めの場に住み着こうとしている。そのような一連の動き。
この人々は純白のウエディングドレスである。鍋島、釜田、刈田、熊野、五色、山ちゃん達である。なお、この鍋島、釜田、刈田、熊野、五色は自分がオカマと思っている、あるいはそれを自認する二婦人達である。山ちゃんバツクバツカーよろしくリョクサツクを背負っている。バツクバツカーから容易に連想されるが山

ちゃんは女形である。こつなるとこはタイのカオサン通りかもしれない。

なお、多分あまり関係ないが、宮城県蔵王山の刈田岳・熊野岳・五色岳の三峰に抱かれた円形の火口湖を「お釜」といふ。

女2は舞台上、下手のだいじん柱近くの框の上に盛り塩。これから行われる戦場での武運長久を祈り、厄災退散と大地の豊穰を祈り五穀をまく。儀式は終わる。

女2 東西、口上あい勤めます。

女1 ……

女2 天におわす我らが大神様よ、種々の木の実を盛った神饌を高くかざして供えん。今、この祭壇の前にかしづき申し上げるは、名も無き流転流浪の河原者の口上なれば、一夜のいくばくかの慰みとして、聞きとどめおかれんことを。ただ、物語の神あらば、直ちに出雲の国より立ち返り、いで現れよ。今、平成の世の神無月、豊穰の世の開襟を失笑されるは、それもまたよし。これより物語るは、罪深き我らが願い、大地の願い、ふところ深き海原に浮かぶ漂屑なれば、一夜の宴の酒の肴に供されることもあるうが、ゆめゆめその真に受けての世迷いことにあたつは、これ世の習いにあらず。古来、古より物語らんとする幾多の民は、われらが運命の喜びと悲しみを仰せのとつり黙々と語り続けてきたこととく、このようにこの祭壇の前にかしづく下僕も

また、幾多の民に習い共に、わが運命の喜びと悲しみを、誇り高き言葉で言上たてまつらん。願い叶うならば、天におわす我らが大神様よ、その天上に光り輝く夜空の星のごとくこのひと時を、安らかに見守りたまえ。厄災あらばこの世のすべてとともに 遍くご加護のあらんことを。

と、一升瓶のラッパ飲み。残りの一口で酒じぶき。

女2 いざ物語らん。

空襲警報鳴る。

釜田 (対空灯火よろしく懐中電灯を照らす。ハンゲル) 退避、退避、退避！

人々のうち何人かは対空灯火よろしく懐中電灯を照らす。蝋燭も灯す。

鍋島 (ハンゲル) 息をころしましよつ。何一人にも考えず、ついでに思いを殺してみせましようか。それでも余る思いがあつたらば、ならぬ私も殺しましよつ。会えぬあなたに会えまする。だから何一人にも考えず、まずは息をころしましよつ。

五色 (ハングル) あんたら、いつまで蠟燭つけてん。何考えてんや。
刈田 (ハングル) まずは息をころすことや。
熊野 (ハングル) しゃべったら息ころされんやろ。スースー逃げてるやん。
刈田 (ハングル) 逃げ足の速いやつちや。
五色 (ハングル) 無駄口たたくんやない。
刈田 (ハングル) どこを叩いてるゆづんや。ここか、それともここか？
鍋島 (ハングル) いやらしい話になんで。
熊野 (ハングル) あんたなに考えてん。
山 シー……

六人の「シッー、シー、シーシッー」でくさりその場を包む。

五色 (ハングル) 静かになつたところで、アーや。
刈田 (ハングル) 一息か？休憩やな。
釜田 (ハングル) はよつ蠟燭消しいや。どこから光漏れるかわからんやん。攻撃的になつたらどないすんや。
鍋島 (ハングル) 鎌ちゃん……
釜田 (ハングル) なんや鍋やん。
鍋島 (ハングル) 聞えるやん。たぶん焼夷弾で丸焼けや。こんなゴーゴーゆづの聞いたことあらくん。風が、炎を巻き込んで、また巻き込んでる劫火の轟音や。外は屋間のようなも知れんな。

山 ゴー、ゴー……
釜田 (ハングル) 聞きたない。
刈田 (ハングル) どこ見てゆづてんや。何であたしの顔が汚いや。ええ加減にしいや。つくりがいいさかい、化粧してないだけや。
釜田 (ハングル) 聞きたない、何も聞えへん。まったくいつの話してんや。いまは草木も眠る丑三つ時でつせ。
五色 (ハングル) とりあえず、蠟燭消しいや。ゴチャゴチャゆづてんと消しッー！
刈田・熊野 (ハングル) あかん！これはうちの希望の灯火や。
鍋島 (ハングル) 時化てんなあ。
刈田 (ハングル) あんたのおソソとはちやう。
鍋島 (ハングル) おっしやいましたやないか、ないか。
熊野 (ハングル) せめて、こんな暗いとこ居るときは、せめて、こつして灯しとかな、見失うやない。そらな、屋間は周りの明るさにかまけて、気にならん。あんたかてそうや。でもな、こつ周りが暗いとかなんね。暖かい灯りやる。

と、三人はハングルで「道頓堀行進曲」(日比繁次郎・作詞 塩尻精八・作曲)をアカペラで歌う。五色は口で伴奏中心。

赤い灯青い灯 道頓堀の
川面にあつまる恋の灯に

なんでカフェーが忘らりよか
酔つてくだまきや あばずれ女
澄ました顔すりやカフェーの女王
道頓堀が忘らりよか

釜田 (ハングル) 風前の灯や。真つ暗なつても知らんで。
鍋島 (ハングル) こらッ！ゴチャゴチャゆわんと、すつき
り自己破産せえッ！
熊野 (ハングル) あかん。この恋の灯火消したら……
五色 (ハングル) 消したらどやゆつんや。
刈田 (ハングル) 消してもつたら、
刈田・熊野 (ハングル) うちらもつオカマやない！
五色 (ハングル) なんと！
婦人達 (ハングル) うちらオカマや！
山 あては女形や。
婦人達 (ハングル) 太古の昔からか？
山 この世の生業や。
婦人達 (ハングル) それで！
山 切ないほどの、人に悟られぬ、芸や。
婦人達 (ハングル) ゲイとオカマはどう違う！
山 字が違う。操の立て方が違う。
婦人達 (ハングル) それだけか？
山 女形には芸がある。
婦人達 (ハングル) 女形は芸者か？
山 女形は女とは違う！

婦人達 (ハングル) そつや、オカマは女やない。
刈田・熊野 (ハングル) だから、この恋の灯火消したらあ
かんのや。
五色 (ハングル) とはゆつても蠟燭は消しいや。
刈田・熊野 (ハングル) 希望の灯火は、
五色 (ハングル) そつゆつても、
釜田 (ハングル) シー！
五色 (ハングル) なに？
鍋島 (ハングル) シッ！
釜田 (ハングル) シー！誰か来る！
鍋島 (ハングル) シッ！
釜田 (ハングル) シー！
五色・刈田・熊野 (ハングル) シッ！

六人の「シッ！、シー、シーシッ！」でーくそ
りその場を包む。

釜田 (ハングル) 灯りをけしてッ！
刈田・熊野 (ハングル) エッ！
鍋島 (ハングル) 蠟燭を消して！
五色 (ハングル) もつ、ややこしい。ア！
山・刈田・熊野 (ハングル) キヤー

あたりは、暗くなつたかと思つたが女1が喋つ
ている。

女 1

... Where are you going.... (やがて夜空を見上げ)
..... 北極星、こぐま、ケフェウス、カシオペア、ペル
セウス、はくちょう、アンドロメダ、ペガサス、みず
がめ、くじら(と星座を追って視線はそれなりに動く)
..... 夜目遺目笠の内、そんな戯言もとつに縁ない身と
なったこのばばでも、順に星々をこつして仰くと、不
思議と昔のことが想い起こせますのじゃ。さて、今夜
はどんな話をしましょうかのつ。(ゆっくりペルセウ
ス仰ぎ、そして指差す)..... ペルセウス..... わしはわ
しのばばさまにペルセウスの話を聞いたことがある。
それは恐ろしい話じゃった。怖くて怖くて、朝まで一
睡もできなかったほどじゃ。..... 昔、アルゴスにアク
リシオスという王がいた。王にはダナエという娘がい
た。あるとき、王アクリシオスは、「娘ダナエに子供
が生まれると、殺される」という神のお告げを聞いた。
これを恐れた王は娘ダナエに男が近づくことのできな
いよう、城のなかとじこめてしまったのじゃ。
アクリシオスがほつとするのもつかの間、大神ゼウス
は、城の塔の窓からさびしげに外を見ているダナエを
見そめ、黄金の雨となって降りそそぎ、思いをどけて
しまった。つまり、一発やってしまったというわけじ
ゃ。
だから、ダナエはペルセウスを産んだ。王アクリシオ
スはおどろき、娘ダナエと孫のペルセウスを小船に乗
せて海に流してしまった。運よく、母子を乗せた船は

セリボス島に流れつき、島の王ポリュデクテスの弟子
イタトスに救われた。そこでペルセウスは、りりしい
若者に成長した。ところが、島の王ポリュデクテスは、
美しいダナエに思いをよせていたため、ペルセウスが
邪魔でしかたがなかった、そこでポリュデクテスは言
葉たくみに、地の果てに住む怪物ゴルゴンを退治して
くるよう、ペルセウスにしむけてしまった。
ゴルゴンは、髪の毛一本一本が蛇になっていて、あま
りの恐ろしい形相に、その顔を見たものはたちどころ
に石になってしまつたという女怪だ。
ペルセウスは、知恵の女神アテナから作戦をさずかり、
伝令の神ヘルメスからは、翼のある靴と杖を借り、地
の果てオケアノスにやつてきた。そして、直接ゴルゴ
ンの顔を見ないよう、青銅の盾に姿を写しながら、眠
っているゴルゴンたちに近づき、そのうち不死身でな
かったメドゥサをみごとに退治した。
ペルセウスがメドゥサの首を切り落としたとき、ほと
ばしる血の中からつまれたのが、天馬ペガサスである。
ペルセウスは、メドゥサの首をひつさげ、天馬ペガサ
スにまたがると帰り道を急いだ。
このときメドゥサの首はおびただしい血に染まってい
た。見開かれたままの目は、ペルセウスを見ているよ
うであった。メドゥサの髪の毛は、ほとばしった血に
よつてよじれからみつぎ、それはまるで髪の毛一本一
本の蛇が大蛇に変身したようであった。その大蛇の数
は、十六匹。ペルセウスはあまりの恐ろしい形相にこ

の十六匹を一つずつ殺し、切り捨ててしまったのじゃった。青銅の蛇を造り旗竿の先に掲げるには、もう時は遅かったのじゃ。

……

女 2 それは異様な光景じゃった。十六のうちの一つの話をしよう。

女 1 ……「この野郎、ふぎけた野郎だ！」

女 2 といながら、顔面と腹部を一発ずつ殴った。カ一杯殴ったため、寺岡氏は鼻血を出した。この私の殴打がきっかけとなって、皆が寺岡氏の頭や顔を激しく殴った。

そのあと、私の後ろに立っていた森氏が寺岡氏の追求を始めた。森氏は、新しい組織作りができなかつたらどうするつもりだったか、組織を棄つ取つたらどうするつもりだったか、などと追求し、森氏の追求に応じて私たちは、

女 1 婦人達 「どうなんだ！」

女 2 「はつきり答えろ！」

女 1 といながら、寺岡氏を殴った。そして、寺岡氏が、森氏の追求に、

女 2 「坂東さんと調査に行った時、坂東さんをナイフで殺して逃げようと思った」

女 1 「警察の顧問をしている叔父さんに情報を売って助かる道を確認するつもりだった」

女 2 などと答えた時は、さらに激しく怒り、寺岡氏をめちゃくちゃに殴った。あまり激しく殴るため、寺岡氏が

倒れないよう胸ぐらをつかんでいた私まで殴られる有様だった。

森氏は、一通り追求し終わると、今度は、権力との関係を追求し出した。しかし、寺岡氏は、それをきつぱりと否定した。

すると、森氏は、私に、

女 1 「後ろで寺岡の手を持って押さえてろ」

女 2 と指示した。私は、寺岡氏の後ろに回り、寺岡氏の両手を後ろ手にして持ち、押さえた。森氏は、寺岡氏の前正座すると、再び権力との関係を追求したが、その際、いきなり寺岡氏の左腿に細身のナイフを刺した。寺岡氏は、

女 1 「うつつ」

女 2 とつめき声をあげて上体をよじらせた。私は、そこまで激しく追求する森氏に驚き、そんなことしたら、このあとどうするつもりなんだと思つたが、それだけ激しく追求する必要があるのだからと考え、そうした思いを打ち消した。そして、寺岡氏の体が倒れないよう一層力をこめて寺岡氏の体を押さえ、森氏とともに追求した。

だが、寺岡氏は、権力との関係を否認し続けた。途中から、永田さんが追求に加わつたが、その時、森氏は、ナイフを抜き、坂東氏に耳打ちした。坂東氏は、寺岡氏のそばに坐ると、

婦人達 「この野郎」

女 1 「本当のことをいえ」

女 2 といつて、ナイフを寺岡氏の左腕の付け根に刺した。それでも、寺岡氏は、権力との関係を否認した。こうした追求のため、寺岡氏の足の下から血がしみ出して来たばかりか、腕からも血が流れて来て、私の手や袖口が真っ赤になった。そのあと、森氏は、寺岡氏の前に立つて、寺岡氏をにらみつけていたが、しばらくすると、重々しい口調で、

女 1 「お前の行為はこれまでと異なり、反革命といわざるを得ない。死刑だ！」

女 2 といつた。私たちは、反射的に、

女 1 「Object ion！」

女 2 ……

女 1 「I want to make a splendid nation」

女 2 何だと！

婦人達 「異議なし！」

女 2 と答えた。

私は、その時まで死刑など考えてもいなかったが、森氏の死刑の提起に以外な感じはせず、死刑に賛成した。それは、寺岡氏の問題を敵対的なものとみなしたからである。しかも、私は、死刑を厳格な規律のために必要な革命的制度と思っていたので、死刑そのものに反対する気持はまったくなかったのである。この時、寺岡氏は、目をつぶり、じっとしていて死刑の決定に動じなかったが、心中はいかばかりであつたらう。

私は、寺岡氏を後ろで支えながら、どうやって死刑にするのだらうと森氏を見ていると、森氏は、誰かから

アイスピックを受け取つて、寺岡氏の前に立て膝で坐り、静かな口調で、

女 1 「お前に死刑を宣告する。最後にいい残すことはないか」

女 2 といつた。寺岡氏は、小さな声で、

女 1 「革命戦士として死ねなかつたのが残念です」

女 2 と答えた。森氏は、寺岡氏のセーターとシャツをまくり上げて胸をはだけると、

女 1 「お前のような奴はスターリンと同じだ。死刑だ」

女 2 といつて、アイスピックを心臓部に刺した。しかし、一度では絶命しなかつた。すると、森氏は、全体を見まわした。おそらく、誰が自分に続くのか確かめようとしたのであらう。私は、どのみち殺されるのなら早く殺してしまった方がよいと考え、また、このような誰もやりたがらない任務は党のために率先してやるべきだと思つていたので、

女 1 「よし、俺がやる」

女 2 といつて、そばにいた大槻さんとN氏に寺岡氏を支えるのを代わつてもらい、森氏からアイスピックを受け取つて寺岡氏の心臓部を刺した。血はまったく出なかつた。私は二度、三度と刺したが、絶命しなかつた。すると、青砥氏が私に代わつてアイスピックで刺した。やはり絶命しなかつた。私は、脊髄の付け根の延髄を刺せば即死すると聞いていたので、

女 1 「脊髄の付け根を刺せばいいのではないか」

女 2 というと、誰かが寺岡氏の首の後ろをアイスピックで

女1 刺した。それでも絶命しなかった。
女1 「植垣、首を締めろ」
女2 と坂口氏がいった。私は、寺岡氏の後ろから両手を彼の首にまわして締めよつとしたが、締めきれなかった。吉野氏が、
女1 「ロープで締めた方がいい」
女2 といひ、誰かがサラシを持って来た。私たちは寺岡氏を早く絶命させようと必死だった。サラシを寺岡氏の首にまいて、吉野氏や山本氏、大槻さん、長谷さんたちが両方から引つ張り上げて首を締めた。寺岡氏の体は、数分の間、けいれんしていた、そのうち、けいれんは間遠になり、止まった、青砥氏が寺岡氏が死んだことを告げた。サラシがはずされると、寺岡氏の体はくの字のようになつて床に崩れた。
女1 2 ……
女2 このようにして、一つづつ……一つづつ……一つづつ……一つづつ……
最後に十六の墓標が残つた……
女1 …… Where are you going……

女1・2の語りをかき消すように二人婦人達のハンド・クラップ入る。全員ハンド・クラップとなる。

暗闇の中で声がする。

釜田 (ハングル) さー行きませ。もうすぐや！今夜もい

てこましまつせ。鉄、ブリキ、トタン、真鍮、何でもええからな。袋一杯なつたら、闇夜にまぎれて消える、ええな。

鍋島 (ハングル) 教えといたる、今日の刃計りの値は銅が一番やった。が、スゲベ根性出して袋につめたら、身動きとれへんで。助太刀当てにしたら、互いに命取りや。オカマはオカマらしく自分の面倒は自分で見る。ええな！

婦人達 (ハングル) ええよ！

釜田 (ハングル) 本当やな！

婦人達 (ハングル) オカマに二言はないよ！

釜田 (ハングル) オイドの穴がゆるゆるになつて、皺くちゃになつても！

婦人達 (ハングル) もともと皺くちやや！

五色 (ハングル) 今夜は、人の死に水取つたらあかん。

刈田 (ハングル) 明日の朝、猪飼野のくず鉄屋で顔合わせられたらめっけもの。

熊野 (ハングル) 大阪府警のカキどもに撃ち殺されるもオカマの花道。

婦人達 (ハングル) 命があつたらまた会いまひよか！

と、散会の旨。

釜田 (ハングル) 待ちッ！

婦人達 (ハングル) ……

鍋島 (ハングル) 鎌ちゃん、どうかしたか？

釜田 (ハンゲル) 散会は、もつちよいとまちいや。鍋やん、今日は何日や？

鍋島 (ハンゲル) …… 鎌ちゃん、今日は大阪大空襲の月命日や。

釜田 (ハンゲル) 二名算！

鍋島 (ハンゲル) 忘れておました。

五色 (ハンゲル) それがどないしたん。

鍋島 (ハンゲル) もつすぐ来るやろ。救世主が。

刈田・熊野 (ハンゲル) 救世主？

釜田 (ハンゲル) 男の胸で熱い鼓動を聞き取るように、息こころして耳澄ますんや。もつポツポツ聞えてくるころや。

鍋島 (ハンゲル) シュ、シュ、シュ……

刈田・熊野 (ハンゲル) シュ、シュ、シュ……

五色 (ハンゲル) なんやねん、そのシュ、シュ……

釜田 (ハンゲル) 草木も眠る丑三つ時、大阪大空襲の月命日、静寂のしじまを押しやつて、シュ、シュ

刈田・熊野 (ハンゲル) シュ、シュ、シュ……

鍋島 (ハンゲル) シュ、シュ、シュ……

五色 (ハンゲル) シュ、シュ、汽車か？

刈田 (ハンゲル) 蒸気機関車や！

釜田 (ハンゲル) そつや、あの東西線を突き進んで、京橋で止まる。御霊が、ホームで待つてるんや。来んわけにはいかん。

五色 (ハンゲル) なにゆうてんや。始発はまだや。まして蒸気機関車とはそらないわ。

鍋島 (ハンゲル) シュ、シュ、シュ……聞えてきたで。

熊野 (ハンゲル) うそ、ウソ、そんなあほな。

蒸気機関車の音近づいてくる。

釜田 (ハンゲル) そのあほが、もひとつオマゲで、やって来るのが満州鉄道のアジア号だつたらどないする。

五色 (ハンゲル) なんか来る！

釜田 (ハンゲル) 車窓から、煌々ともれる灯りが、この大阪砲兵工廠の鉄くずの山を照らすときが、散会の時やで。ええな。

鍋島 (ハンゲル) 車輪の軋むその音に乗つて、鉄の山を駆け巡るんや。蒸気がボイラを泣き叫ばせる。大阪府警のガキどもが、京橋向いて最敬礼の身動きできぬ、その間を縫つて、いてこましたるんや。時間はないで。ちよつとの間や。今日は、無礼講や！

熊野 (ハンゲル) うそ、ウソ、シュ、シュ、シュ……来た！

鍋島 婦人達 (ハンゲル) 散会や！

婦人達 (ハンゲル) 行こか！散会や！シュ、シュ、シュ…
…シュ、シュ、シュ……

蒸気機関車の轟音に汽笛を伴つて行き過ぎる。
鉄体を軋ませ止る。蒸気と騒音にまぎれて、婦人達は散会して退場。

【 2 章 】

ノートパソコンから着信音のベル鳴る。集中する二人。
再びノートパソコンから着信音のベル鳴る。

女2 懐かしいな。

女1 えッ？

女2 懐かしい。

女1 うそ。

女2 本間、千代子や。

女1 え、あたし浜田光夫？

女2 なにゆってんや、それやとあたしが吉永小百合か？

女1² 奥さん、オウジヨウしまっせ、鹿のフン。

女2 鳴ってんで。

女1 へえ。

女2 そやから、鳴ってんで。

女1 うそ。

女2 本間……懐かしいな。

女1 あの呼び出し音、なつかしいん？

女2 懐かしいないか？

女1 あたしはいつものことやから。

女2 そらまそつやな。

女1 ボケてへんやん。

女2 ボケてるようなツッコミやがな。

女1 所詮ボケ・ツッコミの二元論は日常会話の限界をアウフヘーベン、

女2 ほう、奥さんゆわはるやん。

女1 バウムクーヘンの歴史は非常に古く、今から約二百年程前に誕生し、芯棒に生地をかけ焼き上げる製法は古代ギリシャにまでさかのぼるといわれております。一層一層丁寧に焼き上げることから、長寿・繁栄をイメージし、結婚式やお祝い事に欠かせないバウムクーヘン。切り口が木の年輪のように見えるため、木(Bois)のお菓子(ドゥーゼ)と名付けられ、現在では「お菓子の王様」と呼ばれるようになりました。確かな眼で選んだ良質な素材を使い焼き上げることはもとより、バウムクーヘンのふるさと、森の国ドイツ……はい、やっつとでましたドイツ。アウフヘーベンもバウムクーヘンも単なるドイツ語やという語源を求めてやってまいりました。

女2 亦エ。どこにいくん。

女1 しょうもないといつのはドイツや。

女2 キビシイ！……いやまあそらな、志百年の大計からみれば、日常会話の脈絡など、目クソ鼻クソ。

女1 あかん。ちゃう。そのいい加減はない。ユーハイムやで、横浜から船に乗って神戸についた。いや、高知から船に乗って神戸についた。ともあれ、まだ先は長いやろ。喋りながら、行き先見つけるんもテクニクや。

女2 ほう、耳もクソすんで、でも奥さん、そんなの便所に
入ったとこ、見たことないわ。男便所か、女便所か？
女1 あんた、会話が一行ずれてる。
女2 なに回りくどいこと言うてんや。私なんか、この目尻
んとこ、毎日、バームクーヘンぶら下げてます。
女1 函館から船に乗って神戸に着いた、ここは港まち女が
泣いてます、五木です。
女2 スベツてますで、五木はん。
女1 三行前の訂正をしたんや。
女2 横浜から船に乗って別府に着いた、ここは小雨まち女
が泣いてます。
女1 函館から船に乗って東京に着いた、ここは日暮れまち
女が泣いてます。
女2 いつ横浜でるんや。はよう神戸にこんかいー
女1 あんたはなんにこだわってんだす。
女2 だから、鳴ってんで。
女1 もう止んでるわい。
女2 ウソ？
女1 ホンマ。
女2 じゃ、いつから鳴ってんの、この呼び出し音。

ノートパソコン開く。音楽。

女1 鳴ってへんで。まったくあんたの、往年性認知症は手
におえん。
女2 あんたには聞いてない。

女1 じゃ、誰に聞いてんや。
女2 あの呼び出し音を鳴らしている、まだ見ぬあなたに。
女1 二度目は郵便配達に聞きなさい。
女2 あたしがあたしに聞いてどうすんの。

七、音楽に乗って、婦人達登場。

蔵王三山 May we ask it, too?

女1 No use. It is not good.

釜田・鍋島 I want to ask.

山 We have lost our way.

女1 Go to a police box!

婦人達 We like policeman.

女1 (フットサル・エクササイズ決まる) 皆さん、お疲れ様
でした。私はジーコです。(動き決まる) じゃ、ジー
コかてけなげに日本語のワンセンテンスや。オマリー
でおま。駐車場ありまけん。がんばらんかい。

山 道に迷ったのかもしれまけん。

婦人達 道に迷ってしまいました。

女2 どこから来たん。

それぞれあらぬ方向を示す。

女2 しゃんとせえ、優勝でけんかったんや。どつしてや。
もつええ。あつちから来たんなら、こつちく行者なは
れ。

ブツツかりながらそれぞれへ。

釜田 ちゃう。そやない。しゃんとしなはれ。
女1 どこで関西弁覚えたんや。
女2 あんたのは関西語ちゃう。生まれはどこや。
熊野 長崎から船に乗って神戸に着いた、五木です。
女1 あてつけみたいにうまいやないか？
五色 道に迷ってはいけまへんのんか？
女2 ちゃう、道に迷ってはいけまへんのか？や。
鍋島 あの、人生の道に迷ったのです。
釜田 人生を踏み外したのかも知れませんが。
女1 2 なんやて？
婦人達 道に迷ってしまいました。
女1 2 で？
婦人達 こちからやって参りました。
女1 2 ほう？
婦人達 あっちでは勝つつもりです。
女2 だから優勝でけなんだんや。
女1 パーペきに喧嘩売ってる。そやろ、なんぼ顔が白いか
らて、喧嘩売んなら、血相かえなあかんやん。
五色 売ってはいません。できるなら、人生を買いたいと思
っていたのです。
釜田 はいはい、人生は売り買いするもんやオマリです。
女2 ねえちゃん、無理したらあかんわ。
鍋島 はいはい、では参りましょつか？こちから参りました

ので、あちに参ります。
刈田 わたしは、こちから参りましたが、本当に、こちから
来たのでしょうか。やがてあちらに参りますが、それ
はどこに参るのでしょうか？
釜田 女には構うな！
熊野 どこにおん。
鍋島 そんな暇、あらへんやん。
五色 そちかて、いけませ。
刈田 それをいえば、向こうかて選択肢やる。
釜田 カマかけとんな。このわたしにカマかけるのか。
蔵王三山 そんな大声でカマカマゆつて、何が楽しい。
釜田 私は釜田や。
鍋島 わたしは控えめな鍋島や。
女1 おい、ここにおんやろ。
女2 あんた、3テンが遅いわ。
女1 ばあちゃんにはカマえるやろ。
釜田・鍋島 生物学的な女にの残骸に興味はないわ。
鍋島 あんたなんで、面と向かってカマなんてゆつん。
釜田 それは、あたしがいう。この釜田がいう、カマつな。
女1 迷える人生があるつちはいい！

間

刈田 刈田、あつけにとられて、
熊野 熊野、二の句がつけず、
五色 五色、朝ぼらけの王が飛んでいく！

鍋島 だから、
刈田 霧氷……
熊野 霧氷……
五色 霧氷……
釜田 知らんで、どないしてくれるん。
女1 なんやねん。
鍋島 なんやねんとは、なんやねん。こらん、詳らかに見て
こらん。も一つ努力して心眼で見なさい。あんたの、
あまりの、常識的な、礼を失した、御託言に……
釜田 迷える人生があるうちはいい！
鍋島 恥すかしやないか、ないか。自責の念が、絶対零度—
—
釜田 摂氏マイナス二七三・一五度。この状態に近づくこと
はできるが、到達することは理論的に不可能なのを、
知つてのことでおますのか。
鍋島 そんな論理を覆し、今見事に絶対零度たす、ないか。
釜田 ただいま、絶対零度を演劇的に解決しておます。
刈田 刈田、摂氏マイナス二七三・一五度。
熊野 熊野、摂氏マイナス二七三・一六度。
五色 五色、摂氏マイナス二七三・一七度を四捨五入で摂氏
マイナス二七四度。
刈田 刈田、四捨五入で摂氏マイナス二七四度。
熊野 熊野、同じく四捨五入で摂氏マイナス二七四度。
鍋島 はい、揃いました。
蔵王三山 ビツキーン！
女1 2 なんや、どないしました？

釜田 論理値を突破してしまいよりました。
婦人達 ビキビキビツキーン！ビキビツキーン！
鍋島 お待たせしました。
蔵王三山 (歌う)……

霧氷 霧氷
思い出は かえらない
遙かな 遙かな
冬空に 消えた恋
霧の街角で 告げたさよならが
僕を 僕を 僕を 泣かす

と、アカペラ。釜田と鍋島は口で伴奏。『霧氷』
宮川哲夫・作詞、利根一郎・作曲から。

釜田・鍋島 はい、拍手。
女1 2 ……
鍋島 お婆ちゃんたち、不満なようなので、もう一度行きま
す。
釜田 ハイ、本番テイクツウ、三、二、(一、〇)……
蔵王三山 霧氷 霧氷
女1 2 もうええ！
女2 東北の一番上の左上や。
女1 え？
女2 いや、一つ下。
女1 2 ……
女1 あきた(秋田)。

女2 あんさん、いったいこれなんだんねん。
釜田 絶対零度の演劇的な解決が、いま芸術に昇華してしま
いよりました。
鍋島 わからへんの？至福の瞬間に立ち会ったんやないか、
ないか。

女1はなぜか匍匐前進。

女1 アタフタ、あたふた……
釜田 なにしてんや。
女2 キビシイ、んちゃう。
鍋島 婆ちゃん何してん？
女2 ハイ、ゆうたり。
女1 老這（狼狽）、してんや。
釜田・鍋島 （あんどり）……
女2 ほらスベりました。
釜田・鍋島 ……
女2 見たままやん。ご推察いたします、あんたらの気持ち
はようわかる。まあ、一つは捻らなあかんわな。でも
どないしょ。なんとしよ。知らん。もつ知らん。あん
たは、何十年変わらんつもりや。少しは成長しいや。
女1 あたいの好みやろ。
女2 嗜好の話やおまへん。
女1 あたいのセンスやからほつときや。
女2 個人の問題にしたらあかんわ。
女1 アイデンティティや。

女2 アイデアとアイデンティティはちやうやろ。
女1 なにゆつとん、同じカタカナ文字やろ。
女2 それや、年取るとそういうゴジツケを平気でぶつ放す。
それはもつ兵器や。若い者に言い訳でしまへん。
女1 ……言い訳させてくれる力キがあるつちはいい……く
るなら来てみなはれ！そんな追憶が、とぐるを巻いて、
このあたいに押し寄せるなら、こうして両手を広げて、
今でも立ち塞がつて見せましよう！

と、背を向け襦袢の両袖を広げて立ち塞がる。
音楽。

女1 こうしてまどろむとね、うまくいく。そんな時よく夢
をみる。もつ特技なの。……今から2400年前、ギリシ
ヤの哲学者デモクリトスは、身の回りの物を小さく小
さく切つていくと最後にどうなるのだろうかと考えま
した。もつこれ以上小さくならない原子を推論しまし
た。いまでは素粒子と呼びます。エネルギーの粒です。
わたしは素粒子の粒ですか？

音楽変わる。襦袢の衣装転換。「大阪物語・こ
ゝろ」の衣装に変わる。女1は歌つ。同時
に女2、釜田・鍋島は踊る。刈田・熊野・五色
は絶対零度の体勢のまま場所を移動する。

君がいた夏は 遠い夢の中

空に消えてった 打ち上げ花火

君の髪の毛の香りはしけた
浴衣姿がまぶしすぎて
お祭りの夜は胸が騒いだよ
はぐれそうな人こみのなか
はなれないで出しかけた手を
ポケットに入れて握りしめていた

君がいた夏は 遠い夢の中
空に消えてった 打ち上げ花火

『夏祭り』（作詞・作曲 破矢シンタ）から

釜田・鍋島 オイ！何やこれは！気持ちいいか！
女2 年寄りの冷や水もキツクリ腰やないか。
鍋島 婆ちゃん、いったいどこまで引つ張り廻すんや。
釜田 これ見てみ、さっきから、づーと置きっぱなしで、ど
ないするつもり？
鍋島 何とかせえ。
釜田 絶対零度の中で凍てついたままや。
鍋島 もつずーと前から限界や。
女1 もつと動け！
釜田・鍋島 あかん、ピキピキピッキンや。
蔵王三山 ピッキン！（と動き）
釜田 動かんでええ。

鍋島 やめなはれ！砕ける！
女2 ピキピッキン！
蔵王三山 ピッキン！（と動き）
釜田 動かんととき。
鍋島 玩具にすんやない。
女1 2 ピキピキピッキン！ピキピッキン！
蔵王三山 ピッキン！（と動き）
女1 ピキピッキン！
女2 若者よ、体を鍛えておけ！ピッキン！
蔵王三山 ピッキン！（と動き）
釜田・鍋島 スタンディングオーバーション！
鍋島 至福の瞬間に立ち会ったあなたの熱い思いを、その手
のひらに包み、割れんばかりの拍手に載せて、そつと
差し出してください。
釜田 熱き貴方の賛同が、絶対零度の女王たちの、凍てつい
た心を、その内部から、涙のしずくのように溶かすで
しょう。
鍋島 そしてしつかり、その心に焼き付けましょう。この方
々が大阪のおばちゃんです。殺しても死んでくれない、
大阪のおばちゃんのプロトタイプです。
釜田 熱き拍手を。
鍋島 このために私たちは長い旅をしてきたのです。
釜田 今一度、熱き拍手を、アンコール！
山・蔵王三山 ……わたしは遠い西方の果てからこの地上の
国へはるばると旅してきた。わたしがこの国に到達す
るまでの過程には、幾度か死を覚悟する拙い運命の嘆

きをもったものだが、それゆえにこそ、幼少のころ聞いたこの国の風光の名媛、人情の温純敦厚、そして清潔にして礼儀正しい民族性などは、わたしの内部ではほとんど絶対化されていた。たどりつくまでに費した苦勞のかずかずをまったく無意味にしないためにも、この国は無限に美しくなければならなかった。この国の人々はいま果たして憧れというものを理解するだろうか。わたしは幼くして夢にこの国を憧れ、古くマルコ・ポーロの名指した黄金は、この国の人々の胸中にこそ輝いているにちがいないと信じて疑わなかった。憧憬、なんと懐かしい言葉だろう。それはつねに裏切られるために、あたかも懊悩の書のように欲望の尊につくものとはいえ、それあるゆえにまたわたしは様々の苦難のうちにもみずからを見捨てることがなかった。多く異邦を憧れる少年の心情が、その国の現実よりはその国の過去の栄華に、汗と脂の匂いよりは保存された遺跡の無機的な美に向かうものとはいえ、少なくともこの国では、一輪の花にかける哀惜の情や、一碗の茶の香りに確かめあう心の交わりを今も見喪っていないとわたしは聞いていた。（高橋和巳『遥かなる美の国』から）

……

山 （ドイツ語）いこか。こことちやうやる。

釜田 （ハンゲル）来るところを間違ったよつです。さあ、まいりましようか。長居をしすぎたよつです。（日本語）どうぞ。

鍋島 さあいこか。ゆつてんや。

女₁ 2 ……

山 （ドイツ語）クランケ、ES細胞知ってますか？

釜田 （ハンゲル）ES細胞知ってますか？胚性幹細胞ですね。胚盤期という発生初期の胚の一部であるため、受精した胚、つまり初期の赤ちゃんを殺して入手します。これは、倫理問題をはらみますね。（日本語）どうぞ。

鍋島 知らんのやつたら、お黙り。知らんそつです。

釜田 何もゆつとらへんやん。

鍋島 ES細胞なんか知らへんやる。顔みたら分かるやん。

女₁ ……

女₂ EHエリックやつたら知つてんで。親戚か？

鍋島 無理すんな。

山 （ドイツ語）クランケ、ES細胞欲しいんや。

釜田 （ハンゲル）皆さん、ここにあつたかも知れないES細胞を求めて、長い旅の末やつてまいりました。（日本語）どうぞ。

鍋島 ここにあつたかも知れないES細胞を求めて、長い旅の末やつてまいりました。ビジネスプランですよ。あなた方の未来かもしれまへん。ありつべき、もう一つの人生をお届けできるかも知れません。安打スタンドはホームラン。

女₁ 2 ……

鍋島 知らんのやつたら、お黙り。

山 （ドイツ語）クランケ、それは希望です。

釜田 (ハンゲル) 皆さん、あなた方のES細胞が、絶対零度に凍てついた、この方々の記憶を氷解したかもしれないのです。でもためでした。無駄足でした。(日本語)どうぞ。

鍋島 大阪グランドアザー、婆ちゃん、さよなら。できるならまた会いましょう。離別がいつも寂寞を携えてやってくるとはいえ、悲しむことはありません。誰も再会がないとはいえないのですから。悲しみは乗り越えるために、私たちの前に試練としてさし出されます。耐えましょう。風雪には忍耐です。孤独に耐え、それを美学に昇華しましょう。押忍、もつこころでは忍耐とは希望です。風雪が五ミリメートルの氷解に姿を変えたならば、それは雨あられ、雹と呼びましょう。パンサーのごとくすばやかった風雪は雹に豹変します。このとき耐えるとは、美意識を内包した闘いとなるでしょう。学術的に申すまでもなく、それは、雹は文学に豹変したのです。パラタイムチェンジ。忍耐と希望と人生のレトリックを深く理解していただきたい、と申しています。

釜田 意訳しすぎやろ。ワンセンテンスやで。むちゃくちややん。

蔵王三山 ピッキーン！ピキピッキーン！（と動き）雑談はやめて、お願い。

鍋島 閑話休題。南氷洋の海水をもろともせず、風雪に耐え、海面にヌックと立つ氷山が、わたくしたちの視界に五センチメートルを超える勇士を見せたとしても、海面

上のその勇士はおよそ七分の一にすぎないのです。とゆつてんや。

山 (ドイツ語) クランケ、それは記憶です。

釜田 (ハンゲル) 皆さん、それは記憶です。(日本語)どうぞ。

鍋島 そうです。それは記憶です。だが氷河期は一万年前に終わったのでしょうか。終わつてはいません。現在は氷期と氷期の間の間氷期であるに過ぎません。だからわたくしたちは、凍土の中から染み出た、海水にまみれ出た、解けてしまった、記憶でしかないのです。これは、神のあだなす錯誤であります。視界、五センチメートル下をとくとご覧あれ。やがてわたくしたちは、きつとあそこに帰るのです。あの氷塊の中で抱かれるのです。まかり間違つてしまった、魂の記憶とおさらばして、豊方の亡骸は、凍てつくのです。もう一つの人生のために、といつてんや。

釜田 魂など消し飛びます。が、その肉体というクッ袋は間違いです。

鍋島 間違つとは、タイミングがおつとらんとちやつで。間と間のある間がちやつといつとんのや、といつてんや。

釜田 ゆつてへん。

鍋島 いま、ゆつたやない。

釜田 うちばゆつた。

鍋島 それでええやん。

釜田 だから、べらべらいいすぎやろ——

女1 オイ、おばはん。

女2 何や？

女1 おい、ねえちゃん！

女2 ・ご婦人達 なんや？

女1 どっちでもええ。一度でしやべつたりや。まどろっこしいやろ。なにしてんや。

鍋島 正確にゆわなあかんやろ。

女1 ワンクッション、ツウクッション、なにゆいたんや。

釜田 あんた、ちょっと来い。そんな単純に物事を判断したらあかんやろ。(女1の耳元で。小声ではない) もう阪急は阪神や。ハイどうぞ。

女1 (鍋島の耳元で。小声ではない) 阪急は阪急で、阪神は阪神や。阪神は阪急やないやろ。

鍋島 (女2の耳元で。小声ではない) 北半球も南半球も氷が解けて、海面水位が上昇しとります。このままやと、大阪は大丈夫やけど、まもなく東京は水没します。遷都を真剣に考えなあかんやん。緊急な政治課題でおます。いや、これホンマ。

女2 (刈田・熊野・五色の耳元で。小声ではない) 北で飛び込むんやったら菅根崎の森を抜け淀川までいかんならん。南は道頓堀やが、橋の上に鉄柵できてもたやろ。まあ、あんたなにゆとん、それもこれも優勝してからののはなしやろ。来年来年、でもまっこと心配や。あれ、これがホンマの取らぬ虎の尻算用やなあ。

蔵王三山 ビキビキピッキーン！ビキピッキーン！氷解！

山 (ドイツ語) 話にセンスもなければ脈絡もないなあ。

女1 ……

釜田 (ハングル) アホの相手は止めて、ぼちぼち行こか。(日本語) どうぞ。

鍋島 もう阪急は阪神や。

釜田 どつや、驚いたか。異国間対話ナビゲータをあまくみるんやない。

鍋島 異国間言語を股にかけ、国境をさすらつインストラクター！

鍋・釜 アリゾナ州のアンコール・ライフ・スミチオン・モンサント財団からやってまいりました。

婦人達 ビキビキピッキーン！ビキピッキーン！道に迷ってしまいました。ポリボックスを探しているのではありません。人生に迷ったのです。

山 (ドイツ語) 行こか！

釜田 (ハングル) 記憶は思い出ではありません。人生の掃き溜めに捨て去ることを忘れてしまった生ごみなのです。いずれは酵素によって分解が始まります。それがお嫌なら、当、アリゾナ州のアンコール・ライフ・スミチオン・モンサント財団にお任せください。冷凍睡眠を格安の値段でお届けします。それでは大阪のおばちゃん、また会いましょう。(日本語) どうぞ。

鍋島 音楽！

と、副つそつな音楽。ご婦人たち、ゆつくりとした動きで、音楽に乗って退場。このとき、トパンコンから着信音のベルが徐々に大きくな

る。やがて、ノートパソコンからの着信音のみとなる。

[3 章]

女2 鳴ってんで。

女1 そやな。

女2 ずーと、鳴ってんで。

女1は受話器をとる。なおこの受話器はノートパソコンの近くに置かれていた、ワイヤレスヘッドホンマイクである。

女1 まもなく開局です。マイクテスト、チェック、チェック……

着信音のベル鳴るなか女2がシンセサイザーで演奏する『レットイットビー』が流れるはじめる。

女1 それではオープニングに、今日までのメール投票、集計結果第一位です。歌います。

空は澄みきり 蒼く 果てなく広く
あの思いは 海に なかれ出る
人生とは そんなものだと

なんちゃってね Let it be

Let it be, let it be, Let it be, let it
be

Whi sper words of wisdom
Let it be

星をみあげる 心がおおきくなるね
そこはきくと 無限 だからね
人生とは そんなものだ
なんちゃってね Let it be

Let it be, let it be, Let it be, let it
be

Whi sper words of wisdom
Let it be

女1 それではお待ちかねのインターネットラジオを始めま
す。不定期国立ラジオ放送局の開局の時間が、今日も
やってきました。もつまでにアクダスしていただいて
いる、全世界のリスナーの皆さん。お元気でしたか？

Let it be, let it be, Let it be, let it
be

Whi sper words of wisdom
Let it be

だから軽く シヤンブしてみるし
あつけなくおそろばできるものね
人生とは そんなものだ
なんちゃってね

Let it be, let it be, Let it be, let it
be

Whi sper words of wisdom
Let it be

星をみあげる 心がおおきくなるね
そこはきくと 無限 だからね
人生とは そんなものだ
なんちゃってね

〜略〜

Let it be, let it be, Let it be, let it
be

Whi sper words of wisdom
Let it be

女1は歌い終わると、女2のエントリーングの演
奏の中、女1の次の台詞を始める。女2は演奏

が終わると退場。
右記の歌詞は意識したものです。

女1 リスナーの皆さん。お元気でしたか？ お変わりありませんでしたでしょうか。相変わらずの騒がしいシャンプーで、いや石鹸で、いやいや世間で、ホイ、快調のオヤジギヤグ三段論法とばして、相変わらずのわたしです。それでは早速、ブラジルにお住まいの、あと十年で六十才になるおじいチャマからの、テキストチャットが届いています。日本のお孫さんへのメッセージです。ご紹介しましょう。みつちゃん、聞いているかな。人生残り少ないかも知れないおじいチャマから、あと五十年も生きなければいけない、幼少の君への暑い厚いヨタ・カの星です。
……五尺七寸、極めて健康、……。……静寂。いま、この物言わぬ漆黒の闇に、身体を委ねながら、いまだ出会うぬ多くの人々へ、来る日を夢見て試験電波を発信します。CQ、CQこちら7Mヘルツ、出力5^{ワット}、試験電波発信中、J E 3、……いやコールサインはありません。メリット5で極めてクリアな方、特にメリット1の混信中のあなた、タヌキなどやめて発信願います。
みつちゃん、悪いけど君のあと十年で六十才になるおじいチャマのほつが混線しているようです。でなかったら、十年一昔前のハム無線によつて、インターネットラジオが電波ジャックされたのでしょうか。インタ

ーネットが電波かだつて？ そんな細かい話しはさておいて、電磁層に擦られ迷子になた7MヘルツがCQ、CQと出会いました。そんなプロトコルがあるかだつて。言うに事欠いたその杓子定規は三寸五分の尺貫法ですか？ いいではないですか、パンダが歩くんですから、そんないい加減な無理を言うてはいけません。十数年さまよつた電波の波動が、私の鼓膜を揺するなんて、それはもう無理難題に決まっています。無難をまともに受け答えさせるのですか？ リスナーのやさしさはどこに行つたのでしょうか。君も砂の中に銀河が見えないクチですね。

……十数年、……それはもう二音、……ずいぶんと遠くへ……思えば日々は多くの年月を数えてしまいました。ついに昭和と平成を股にかけた、名状しがたく横たわつてしまつた大いなる流れを、心の中であれ、皮膚であれ、美しい沈黙に秘めながら、日本と世界の状況を眺めてきたあなたに、心からのメッセージを贈ります。

……「わたしが訴えているのはあくまでも平和であります。その崇高なる原則は犠牲であります。同胞たちよ、漆黒の時間が深まれば深まるほど、夜明けは近い、ファイナル……こんな痛みはまだ通用するのでしょうか？ 通用するなら、発信願います。

みつちゃんまだ聞いていますか。君のあと十年で六十才になるおじいチャマは少々ヤケ気味ですよ。火傷しない程度に聞いちよくれ、

……わたしは今日まで生きてきました。一回コツキリの生しが生きることしかできないながら、だがそれを、決して他人とは取替えのできない固有の理由で。あなたもまた、そのようにして大いなる流れの中で、美しい沈黙……それはあたかも、いまこのように漆黒の闇に閉ざされながらも（天空高く一本の指を大らかに突き上げる）ひとたび天空高く舞い上がればそこは満点の煌く星座、数え切れぬ星の輝きがあると信じられるほどの確かな思いを込めた沈黙……そのような美しい沈黙を秘めてきたのであろうと、わたしは今、そんなあなたに思いを馳せます。そこではあなたはきつと、十全に孤立し、自由に食べ、十二分にクソをし、そして考えて生活している個人でありたかったのだと確信します。ですからあなたは、勇気に徹しぬく諦念を、孤独という寂寞を、ものの憐れという憐憫をこそ、美しい沈黙に秘めさせなければならなかつたであらうと推察します。ときあたかも、大いなる流れのなかで美しい沈黙を秘め、なおその美しい沈黙に、勇気と孤独とものの憐れを、あらかじめ名付けることを諦観してしまつたロマンとして秘めることで、二重の秘め事を秘めてしまつたもの言わぬ、それは大いなる流れではなかつたのでしょうか。だが、いえだからこそわたしはあなたに宣告します。もう帰るべきロマンはないのだと、美しい沈黙と引き換えに、帰るべきロマンの通路は取り払われてしまつたのだと。未だ命名されず無名性の中で佇む美しい憂愁の沈黙よ、大いなる流れと

はかくもしたたかであります。

CQ、CQCQ、いまだ出会うぬ美しき憂愁の沈黙よ、こちら7Mヘルツ、出力5ワット、試験電波発信中、JE3……いやコールサインはありません。試験電波発信、発信願います。このメッセージが……「わたしが訴えているのはあくまでも平和であります。その崇高なる原則は犠牲であります。同胞たちよ、漆黒の時間が深まれば深まるほど、夜明けは近い」ファイナル……と叫ばざるを得ない回こつに、信じられぬほどの星空があるとはいいがたい痛みを……いや正確には、そこにはメッセージを発するその裏からそのメッセージを信じられぬという、痛みがあります。もうここではきつと、痛みこそメッセージなのであります。ついに痛みとは（いい切ろつとするが、言い切れない）……そして痛みとはッ！……！

クリアー5、いやクリアー1、このメッセージをメッセージ下さい。星座の煌く乱反射にも似て、電波の赴くままに、メッセージ下さい。痛みこそメッセージなのであります。そして痛みとはッ！

こちら試験電波発信中、漆黒の闇をこのメッセージが覆い尽くさんことを祈ります。きつとそのとき、そのときこそ、美しき沈黙は、あらかじめ失われた言葉を、ついに発するでしょうかッ！

混線の雑音。電子音。乱反射。

女 1 CQ CQCQ いまだ出会うぬ美しき憂愁の沈黙よ、
こちら7Mヘルツ、出力5^{ワット}、試験電波発信中、J E
3.....いやコールサインはありません。試験電波発
信、発信願います。発信.....痛みとはッ！ッ！
発信ッ.....発信ッ.....発信ッ.....

混線の雑音。電子音。乱反射のカットアウト。

女 1 はい！ みつちゃん楽しく聞いてもらえましたか。君
のあと十年で六十才になるおじいチャマからの単純明
快なメッセージでした。このほか、やたらとメッセー
ジきてますが、全部昆虫、いやムシ。続いてニュース
です。隣のちっこも美人じゃないけど色が白くてカウ
イイ美代ちゃんが高校二年生になりました。次は密告
です。向かい隣の遷厩迎えた善次郎さんは、まだ朝立
ちがあります。すばらしいけど下ネタの密告は最低で
すね。では時間までニュースです。内閣はこのほど、
文部科学省から提出されていた臨時法案を、午後の閣
議で了承し、明日から開かれる臨時国会の、衆議院本
会議に法案として提出することを決定しました。この
法案はわが国の標準語を東京弁から、関西弁に変更す
るという極めて大胆なものとなっております。国民的
なコンセンサスもないなか法案が、臨時国会期間中に
決議され、参議院に送られるかどうかはあたりまえな
がら、危がまれています。

.....

.....たくさん..... あなたはなくしましたか。.....わ
たしはわからないくらいたくさんなくしたのだと思っ
ます。かと言って、なくした分を埋め合わせて余る何
かを手に入れたわけではないのです。でもそんなに気
にせずに.....今日までやって来たのですから。大丈夫。
ほら、聞こえるでしょ。耳を澄ますと、微かですが聞
こえますよ。懐かしい音や、思い出したくもないあの
音も。目を閉じてもいいですよ。瞼のうらに見えるか
も知れませんか？ でもね、泣くのはやめて.....もう、
泣くのはやめましょう。わたしにはどうにもできませ
んから。.....涙は流していいことにします。少しだけ
なら構いません。.....そうして元気がでたら.....なく
したものを忘れましょう。

人々の歓声が聞こえているはずだ。が、それは
女の頭から外したヘッドホンから流れるクラシ
ック音楽。やがて、その音楽は女の声を打ち消
して、大音響でその場を覆う。しばらく流れる
音楽。

女 1あの唐突ですが、幸せ、ですか？今でも..
..悔いはありませんか？それは、悔いなどあり
ませんね.....これから、だから.....ありませんか？
そうですね.....ありませんね.....そうです、きっ
とありません。だから.....これからもね.....わたし
は、もちろんありませんよ。.....あなたはどつですか？

だから……あの、幸せ、ですか？ クエストヨシマ
ーク……てんてんてん

女は先程のヘッドホンワイヤレスマイクをつけて
いる。

女 1 あなたは幸せですか？ ……携帯電話の呼び出し音が
なると、わたしの音なんかじゃないと判っているのに、
バックに手をやるわたしが嫌いです。朝起きて、月曜
日だと判っているのに、今日は何曜日だったかしらと、
ふと思ってしまうわたしが嫌いです。電子メールは、
嫌いです。電車の中で化粧をするのは嫌いです。嫌い
だ嫌いだというわたしは、もつと嫌いです。朝靄の中を
駆けていく新聞少年の、白い吐息が、きつとわたしは
嫌いです。もつと嫌いなのは、バイクに乗った新聞お
じさんです。階段をバタバタと、早く起きると走り回
る、朝の五時半の足音が、本当は一番嫌いです。カト
リーヌ・ドヌーブの『昼顔』は嫌いです。女性専用車
両は、乗るのですが理由なく嫌いです。二キビ面の、
ませたガキのギラギラした視線は嫌いです。パジャマ
に着かえての、あすは不燃物と三度唱えるわたしは嫌
いです。雨は嫌いです。だから、井上陽水の『傘がな
い』はもつと嫌いです。満員電車の、ニコチンとアル
コールの混ざった人息きれは嫌いです。牛乳の匂いは
むかしから嫌いです。こんな風に嫌いですと数える数
ほどに、嫌いなものはないのに、嫌いだとあげつらつ

わたしが。嫌いです。

女は一枚一枚トランプを見る。

女 1 朝のスッキリした目覚めは遠い昔だね、レースのカー
テンを射す朝日が、わたしの微熱を逆撫ですると、決
ってその日は憂鬱な一日。布団を頭までこつやって被
って……しばらく死んだふりをすると……

やけに長い静寂。

女 1 まどろむとね、つまくいく。そんな時よく夢をみる。
もつ特技なの。……今から2400年前、ギリシャの哲学
者デモクリトスは、身の回りの物を小さく小さく切っ
ていくと最後にどつなるのだからつかと考えました。も
つこれ以上小さくならない原子を推論しました。いま
では素粒子と呼びます。エネルギーの粒です。わたし
は素粒子の粒ですか？

[4 章]

このとき、街並みの向こうから音楽を従えて、女性の郵便配達員（女2）が近づくのが見える。白いヘルメット、ブルーの半袖の上着、紺のスボン、腰に巻きつけた例のカバン、七枚剥ぎの足袋。能役者が橋掛かりを登場といった呈。だが女2は檻褌である。

刈田、熊野、五色がこれに従って登場する。彼らは、白いヘルメット、ブルーの半袖の上着、紺のスボン、腰に巻きつけた例のカバン、七枚剥ぎの足袋などが、それぞれ意味なくウエディングドレスとマッチしている。この刈田、熊野、五色はワンポイントの持ち物で「阪神タイガース」ファンと判るものを着けたり、あるいは持っていたりしている。

女2 Macbeth!

七橋掛かりで。やがて登場。

女2・蔵王三山 Macbeth!

女2 Your face, my thane, is as a book where men

May read strange matters. To beguile the time,
Look like the time, bear welcom in your eye,
Your hand, your tongue. Look like th'innocent fl
over,

But be the serpend under't. He that's coming
Must be provided for; and you shall put
This night's great busi ness into my di spat ch,
Which shall to all our nights and days to come
Give solely sover eign sway and mast erdom

《マクベス夫人》ねえあなた、あなたのお顔は
まるで本のよう、だれの目にも怪しい内容を読
みとられてしまつ。世間を欺くには

世間と同じ顔つきをして、目にも、手にも、口
にも、

歓迎の色を浮かべることですよ。みせかけは無
邪気な花、

でもその下には蛇を恐ばせる。せつかくお出向
きの

お方には、たつぷりご馳走しなくては。ねえ、
今夜の大仕事を手早く片づけるのは、全部わた
しにおまかせなさいな。

首尾よくいけば、これから先に続く二人の長い
昼と夜、

至上の王権、支配権は一人のものになるのです。

《マクベス夫人・坪内逍遙訳》……「ルビあ
なた、貴下、ルビ、貴下のルビかお、面

へルビは誰の眼にもへルビふしぎ、奇怪
へルビな事の書いてあるへルビほん、書籍
へルビのやつに見える。へルビはた、周囲
へルビを欺すには周囲とへルビおんな、同
へルビじよつにしていらつしやい。目にも、
手にも、歓迎のへルビこころ、意へルビを
示して、罪のない草花と見せかけて、其蔭の
へルビまむし、嬢へルビになつてゐなくち
やいけません。さ、来る人の待ち受けをせにや
なりますまい。今夜の大切な仕事は万事わたし
にお任せなさいまし、未来永遠に無上の権力を
得ると得ないとは、それで済むんですから。

女1 If it were done when 't is done, then 't were well
It were done quickly. If th' assassi nation
Could trammel up the consequence and catch
With his surcease, success, that but this blow
Might be the be-all and the end-all, here.
But here, upon this bank and shoal of time,
We'd jump the life to come.

《マクベス》やつてしまつて
それでやつたことになるのなら
早くやつた方がいい。暗殺といつこの大きな網
で
将来を一網打尽にたくり寄せる。あの男の息の
根を止めて
成功をもぎ取る、それができるのなら、ただの

この一撃で
一切合切のけりがつくといつのなら、この世で、
そうだこの世でだ、時の海に浮かぶこの狭い砂
州の現世で、
それなら来世のことなど構つものか。
《マクベス・坪内逍遙訳》(独白)やつてしまえ
ば、それで事がすむのなら、早くやつてしまつ
たほうがへルビい、可へルビい。暗殺とい
つ一網をへルビくだ、下へルビしさえすれ
ば、一切の結果をへルビら、羅へルビし尽
くしてしまくるものなら、此一撃でいつて万事
が終局となるものなら、それが此世での、「時」
のへルビにちらぎし、此方岸へルビ、此浅
瀬での終局であるのなら、未来なんかへルビ
かま、閑へルビつた、つはないんだ。

女2・蔵王三山 (笑い).....

女2・蔵王三山 Fair is foul, and foul is fair,
Hbver through the fog and filthy air.

《魔女一回》きれいは、きたない。きたないは、
きれい。
泳いで行つこよ、霧でよんだ空の中をよ。
《魔女三人・坪内逍遙訳》へルビきれい、清
美へルビはへルビきたない、醜穢へルビ、
醜穢は清美。
狭霧や穢い空気の中をへルビと、翔へルビ

はひ。

.....

女2 Met thought I heard a voice cry 'Sleep no more.
Macbeth does murder sleep', the innocent sleep.
Sleep that knits up the ravelled sleeve of care,
The death of each day's life, sore labour's bath,
Balm of hurt minds, great nature's second course,
Chief nourisher in life's feast --

《マクベス》叫び声が聞こえた気がした、「も
つ眠りはないぞ、
マクベスが眠りを殺したぞ」、無心の眠り、
もつれた心労の糸玉を濃やかにほぐしてくれる
眠り、
昼間の生くの安らぎの死の床、つらい労役を終
えた沐浴、
心の傷の軟膏、大自然の供する豪華な馳走、
人生の饗宴の滋養の一皿----
《マクベス・坪内逍遙記》何処かで、ルビ
な、呼号、ルビ、こてる声が聞こえるやうに
思ふた、「もつ安眠は出来んぞ！ マクベスが
安眠を殺しつちまった」と。.....あの、罪の無
い、心の、ルビ、もつれ、纏、ルビ、れを、ル
ビ、いい、好、ルビ、い、ルビ、あんばい、塩

梅、ルビ、に整えてくれる安眠を、其日々々
の生の、ルビ、じやくめつ、寂滅、ルビ、とも、
労苦の、ルビ、ゆあ、浴、ルビ、みとも、傷つ
いた、ルビ、こころの、精神、ルビ、の、ルビ
ぬりくすり、薬膏、ルビ、とも、大自然が
、ルビ、きもち、供、ルビ、する、の、膳、とも、
生命の、ルビ、おも、主要、ルビ、な滋養物と
もいづくも安眠を.....

女1 That tend on mortal thoughts, unsex me here,
And fill me from the crown to the toe top-full
Of direst cruelty, Make thick my blood,
Stop up th' access and passage to remorse,
That no compunctious visitings of nature
Shake my fell purpose, nor keep peace between,
Th' effect and it. Come to my woman's breasts
And take my milk for gall, you murdering ministers,
Where'er in your sightless substances
You wait on nature's mischief. Come, thick night,
And pall thee in the dunest smoke of hell,
That my keen knife see not the wound it makes,
Nor heaven peep through the blanket of the dark
To cry, 'Hold, hold!'

《マクベス夫人》かじく悪霊たち、今こそわ
たしを女でなくしておくれ、
私の全身になみなみど、頭の上から爪先まで

残忍と冷酷を
漲らせておくれ、わたしの血をどろどろにして、
憐れみに通ずる血の管を塞いでしまつのだよ、
せつかくの恐ろしいもくろみに、良心の呵責な
どが
揺さぶりに入つて、なまじ実行を押しとどめる
ことの
ないように。さあ人殺しの手先ども、わたしの
乳房に
取り付いて、甘い乳を苦い胆汁に変えておくれ、
お前らは
目に見えぬ姿のまま、この世の悪事という悪事
に
手を貸しているのだから。そしてたれこめた夜、
お前は
地獄のどす黒い死の煙を死人をくるむように厚
く纏つのだよ、わたしの鋭い刃の切つ先がえく
つた傷口を見ないで澄むように、
天が暗闇の帷の切れ目から覗き込んで、思はず
こつ叫んだり
しないように、「やめて、やめて」
《マクベス夫人・坪内逍遙訳》さアさ、恐ろし
いヘルビたくらみこと、企事ヘルビのヘル
ビかいそく介添ヘルビをする精霊共よ、
早く来てヘルビわし予ヘルビを女でなく
してくれ、頭から足の爪先まで、醜い、残忍な

心で、ヘルビいつぱい充溢ヘルビにして
くれ！ 予の血をヘルビこころ凝結ヘル
ビせてくれ、憫れむ心なんか動いて、ヘル
ビむこころ酷ヘルビい企をぐらつかせたり、
実行の邪魔をしたりしない為に！ さア、此の
女の胸へ入つて来てくれ、やい、人殺しをヘル
ビしこと職ヘルビとする精霊共よ、此の
甘ッたるい乳を苦いヘルビたんじゅつ胆汁
ヘルビに萎ツちまつてくれ、目に見えない
姿をして、人間の悪事を手伝つヘルビおのし
ら汝等ヘルビ、今何処にあるか知らない
が！ さア、真暗な夜よ、ヘルビおのし汝
ヘルビも来て、暗闇地獄の黒煙で、押し包
んでしまつてくれ、予の鋭い剣に己が切るヘル
ビきすぐち創口ヘルビを見せないために、
天がヘルビくらやみ昏闇ヘルビの幕越し
に隙見をして、「待て、待て！」と呼ぶよう
なことがないために。……

女 2 I am settled, and bend up
Each corporal agent to this terrible feat.
Away, and mock the time with fairest show,
False face must hide what the false heart doth k
now

《マクベス》よし、決心はついた。そつとなつ
たら
全身の力を引きしぼつてこの恐ろしい大仕事に

とりかかろう。
 さあ行こう、時を欺くのは美しい装い、
 偽りの心中を隠すのは偽りの顔。
 《マクベス・坪内逍遙訳》ぢや、決心した。全
 力を引絞つて、此怖ろしい仕事に取り掛かろう。
 さ、さ、あ、ちく。何事もないような顔付きを
 して人目を欺こう。心に偽りがある時は、
 へルどかほ、面へ、ルどを偽りで包んでゐにやな
 らん。

女一 Whence is that knocking?
 How is't with me, when every noise appals me?
 What hands are here? Ha! they pluck out mine eyes.
 Will all great Neptune's ocean wash this blood
 Clean from my hand? No, this my hand will rather
 The multitudinous seas incarnadine,
 Making the green one red.

《マクベス》あの音はどこから?
 いったいおれはどつなつたのだらう、音という
 音にこび上がる。
 ああ、なんといつ手だこれは? うー! 目の玉
 がえぐり出される。
 大わたつみの果て知らぬ大海原でこの手を濯い
 だなら
 血の穢れを清らに洗い流してくれるだらうか。
 いや、この手の方が波また波のはるかな連なり

を唐紅に染めなして、
 紺青を赤一色に変えてしまつたらう。
 《マクベス・坪内逍遙訳》や、何処かで叩く?
 ……どつしたのだ俺は? 音のするたびに
 へルどびくびく、悸々へ、ルどする。……
 (手を見て)あ、何といふてだ? えッ! 目の
 玉が引摺り出されさうだ。へルどだいネブチ
 コーン、大海神へ、ルどの大洋の水を傾けて
 も、此の手をへルどきよ、浄へ、ルどゆるこ
 とは出来まい。いやいや、あの限りのないへル
 ど、あを、碧へ、ルどい涙が、へ、ルどかへ、
 却へ、ルどつてへ、ルどまっか、真紅へ、ルど
 になつちまふだらう。

樋田三三 Think of this, good peers,
 But as a thing of custom 'Tis no other,
 Only it spoils the pleasure of the time.

《マクベス夫人》いめんない皆さん、
 いつものことですのよ。なんでもありません、
 申し訳ないのはせつかくの楽しみを台なしにし
 てしまつて。

《マクベス夫人・坪内逍遙訳》(人々を制して)
 皆さん、あれは只ほんの癖だと思つて下さい。
 まつたくへ、ルどさ、然へ、ルどうなんですか
 ら。只、折角の興を醒まして、まじとば。

女一 Avaunt and quit my sight! Let the earth hide the
 e!

Thy bones are narrow less, thy blood is cold;
Thou hast no speculation in those eyes
Which thou dost glare with.
What man dare, I dare;
Approach thou like the rugged Russian bear,
The armed rhinoceros, or the Hyrcan tiger,
Take any shape but that, and my firm nerves
Shall never tremble. Or be alive again,
And dare me to the desert with thy sword;
If trembling I inhabit then, protest me
The baby of a girl. Hence, horrible shadow,
Unreal mock'ry, hence!

《マクベス》 出て行け、消える！ お前は土の
中のものだ！
お前の骨に髄はなく、血は冷え老っている。
そうやって睨めつけているお前の目には
ものを見る力などないはずだ。
《マクベス》 男にやれることならなんでもやっ
てみせる。
毛むくじやらかなロシア熊の姿で出てこい、
角で武装した犀、ヒルケーニアの虎、
いまのその姿でさえなければ、おれの筋肉は
微動だにするものか。生き返って戻ってきても
いいぞ、
それで剣を抜いて無人の荒野で決闘を挑んでみ
ろ、

少しでも震えるぞまをみせたら、乳くさい小娘
と
ふれて回るがいい、失せろ、恐怖の影法師、
存在しないまやかしの姿！
《マクベス・坪内逍遙訳》(亡霊に)ハルビさ
が、退、ハルビ、れ！ 目通りを避ける！ 地
の中へハルビはひ、入、ハルビ、うちま、く！
ハルビ きさま、汝、ハルビ、の骨には髄が無く、
汝の血は冷たく、汝の目には物を見る力は無い
筈だ、そんなにじろじろ見つめたつて。
《マクベス・坪内逍遙訳》(亡霊に)人の敢えて
する事なら、何でもする。すさまじいロシア熊
の姿で来い、角の生えたハルビさい、犀ハル
ビ、なり、ヒルケーニアの虎なりの姿で来い。
其姿さハルビよ、止、ハルビ、してくれ、ば、
、此ハルビしつかり、堅固ハルビ、した筋肉
が仮にも慄へるたつな事はないのだ。でなくば、
生き返つて来て、ハルビあれち、荒地ハルビ、
で真剣勝負をハルビさが、挑、ハルビ、め。其
時、若しハルビふる、慄、ハルビ、へて引、籠
つてゐるようだったら、俺を小娘の人形だと悪
口しろ。退れ、怖ろしい影め！ ハルビくつ、
空ハルビ、なハルビ きぶつ、偽者ハルビ、
め、退れ！

蔵王三山 What sights, my lord?

《ロス》 見えたとは何か？

《ロウズ・坪内逍遙歌》何を見て、七おろしや
るのぢぢぢぢぢぢぢ

女1 Macbet h, Macbet h, Macbet h.
Macbet h shall never vanquish ed be unt il
Great Bir nam wood to high Dunsin an hill
Shall come agai nst hi m
《幻影2》マクベス、マクベス、マクベス。
《幻影3》いいか、マクベスに敗北はあり得な
い。
バーナムの大森林がダンシネインの高い丘めが
けて
攻めてこぬ限り。
《幻の二・坪内逍遙歌》マクベスよ！ マクベ
スよ！ マクベスよ！
《幻の三・坪内逍遙歌》マクベスは、あの大き
なバーナムの森が、ダンシネインの高い丘の上
へ、攻め寄せて来ないつちは、ヘルビいくさ
戦ヘルビに負けるということはないんだか
ら。

女2 Yet here's a spot.
Out, damned spot, out, I say. One, two. Why
then, 'tis time to do't. Hell is murky. Fie, my
Lord, fie, a soldier
and afraid? What need we fear who knows it, when
none can
call our power to account? Yet who would have th

ought the old

man to have had so much blood in him

《マクベス夫人》まだここにしみがある。

《マクベス夫人》消えておしまい、このいやな
しみ、消えて。一つ、二つ、

そつら、時間ですよ。地獄はなんて暗いんだろ
う。どうしたの、ねえあなた、かりにも戦にで
る男でしょう、それでこわいの？

だれに知れたつてこわいことなんかあるもので
すか、わたしたちを非難できるものなんていや
しない。でもねえ、あの老人の体にこれだけの
血が流れていただなんて。

《マクベス夫人・坪内逍遙歌》(独白)まだこ
にヘルビしみ、汚点ヘルビが附いている。

《マクベス夫人・坪内逍遙歌》(独白)え、厭
いなヘルビしみ、汚点ヘルビ消えつちま
うと言へば！ ……一つ。二つ。おや、ちやヘル
ビもつ、最早ヘルビ時刻なんだ。…地獄
は暗い凄惨な処！ ……まア、何ですねえヘルビ
あなた、貴下ヘルビは！ ……ヘルビいく
さになん、武人ヘルビでありながら、こんな
ことが怖くつて？ ヘルビけど、気取ヘルビ
られるのを恐れる必要はないぢやありませんか？

主権者を裁判することが出来る筈はありません
のでも。……けれども、誰だつて、老人
にヘルビこんな、如是ヘルビに沢山血があ

らつとは、思いがけてやしない。

刈田・熊野 What is that noise?
 《マクベス》 なんだ、あの騒ぎは？
 《マクベス・坪内逍遙訳》 や、あの騒ぎは？

五色 It is the cry of women, my good lord.
 《シートン》 侍女たちの声のよつです。
 《シートン・坪内逍遙訳》 婦人たちの泣き声で
 知らせます。

女1 I have almost forgot the taste of fears.
 The time has been, my senses would have cooled
 To hear a night-shriek, and my fell of hair
 Would at a dismal treatise rouse and stir
 As life were in't. I have supped full with horrors;
 Direness, familiar to my slaughterous thoughts
 Cannot once start me.
 《マクベス》 おれは恐怖の味を忘れてしまった。
 以前には、夜の叫び声を聞けば
 五感が凍りつき、恐ろしい話には
 髪が命あるもののように縦毛立った
 ものだった。だが恐怖という恐怖をなめ尽した
 いま、
 殺戮の思いに慣れ親しんだこの胸は、どんな悲
 惨にも
 驚くといつことがない。
 《マクベス・坪内逍遙訳》 怖ろしいという味は、

殆ど忘れてしまった。……夜の叫び声を聞いて
 冷水を浴びるように感じた時代もあった。凄
 話を聞くと、へルビかみのけ、頭髮へルビ
 が逆立って、いきてゐるように、動いたことも
 あった。随分怖ろしい目にも逢つて見た。今ち
 やア人殺しにも慣れてしまったので、どんな怖
 ろしいことも、もう俺をへルビ おびやか、脅
 へルビすには足らん。……

女2 Wherefore was that cry?
 《マクベス》 なんの騒ぎだ？
 《マクベス・坪内逍遙訳》 や、あの騒ぎは？

蔵王三山 Wherefore was that cry?

と、女2は電報を渡す。甲電である。刈田、熊
 野、五色は甲電を投げる。
 女1はこれを受け取り読む。

女1 The queen, my lord, is dead.
 《シートン》 陛下、お后さまがお亡くなりだ。
 《シートン・坪内逍遙訳》 お妃がおへルビかか
 れ、死去へルビになりました。

女2が甲電を読むように台詞が始まる。やがて、
 女1の甲電を読む台詞が重なる。

女1・2・蔵王三山 She should have died hereafter;

There would have been a time for such a word.
Tomorrow, and tomorrow, and tomorrow,
Greeps in this petty pace from day to day,

《マクベス》いつかは死ぬ身であった。
そんな知らせを聞くときもあること思っていた。
明日、明日、明日、
時は小きさみな足取りで一日一日を這うように、
《マクベス・坪内逍遙訳》(へルじ きせん) 喟
然(へルじ)として)やがては死なねばならな
かったのだ。いつかは一度(へルじ)そ、然(へルじ)
ういつ知らせを聞くべきであった。……明日が
来たり、明日が去り、又来たり、又去つて、
「時」は忍び足に。

女1 To the last syllable of recorder time,
And all our yesterdays have lighted fools
The way to dusty death. Out, out, brief candle,
Life's but a walking shadow, a poor player
That struts and frets his hour upon the stage,
And then is heard no more. It is a tale
Told by an idiot, full of sound and fury,
Signifying nothing.

《マクベス》時の記録の終の一語にたどり着く。
昨日といつ昨日は、阿呆の為に、塵に返る死く
の道を
照らしてきた一筋の光。消える、消える、束の
間のともしび、

人生は歩き回る影法師、あわれな役者、
舞台の出のあいだだけ大威張りでわめき散らす
が、

幕が下りれば沈黙の闇。たかが白痴の語る
一場の物語だ、怒号と狂乱にあふれていても、
意味などなにひとつありはしない。

《マクベス・坪内逍遙訳》小刻みに、記録に残
る最後の一分まで経過してしまふ。総て昨日と
いつ日は、阿呆共が死んで土になりに行く道を
照らしたのだ。消える消える、束の間の(へルじ)
ともしび、燭火(へルじ)！ 人生は歩いてあ
る影たるに過ぎん、只一時、舞台の上で、ぎっ
くりぱったりをやつて、やがて(へルじ)もつ、
最早(へルじ)噂もされなくなる惨めな俳優だ、
(へルじ)ばか、白痴(へルじ)が話す話だ、騒ぎ
も意気込みも(へルじ)えら、甚(へルじ)いが、
たわいもないものだ。……

女2 I should report that which I say I saw,
But know not how to do it.

蔵王三三 But know not how to do it.

《使者》この目で見たとおりを報告いたしま
すが、
はて、どう申し上げたらよいものやら。
《使者・坪内逍遙訳》御前様……確かに見えま
したことを御注進申し上げるのでございますが、
何と申し上げて(へルじ)い、可(へルじ)い、か存

じません。

女2 As I did stand my watch upon the hill,
I looked toward Birnam and anon, methought,
The wood began to move.

蔵王三山 The wood began to move.

《使者》丘の上に立ちて眼張りをいたしており
ましたとこそ、

バーナムの方に目をやりますと、それが急に、
どうもその、

森が動き始めましたので。

《使者・坪内逍遙訳》丘の上で眼張りを務めて
をりまして、バーナムの方面を眼ましたとこそ、
どうやら森が「ルビ」い「ルビ」動「ルビ」き出し
ましたやつに存じました。

女1 Liar and slave.

《マクベス》でたらめを言つな、たわけ。

《マクベス・坪内逍遙訳》「ルビ」こそ、嘘「ルビ」
を「ルビ」つ「ルビ」吐「ルビ」けー

女2 Let me endure your wrath, if't be not so;

蔵王三山 Within this three mile may you see it coming.

女2・蔵王三山 I say, a moving grove.

《使者》お怒りはいもつともで「ルビ」しますが、
でたらめでは

「ルビ」しません。

この三マイル近くまで迎つてきております。

あれは動く森で「ルビ」します。

《使者・坪内逍遙訳》もし間違つてをりました
ら、しんなお怒りでも受けます。が、御覧な
だいまし、ここから三哩の処をやつてまゐりま
す。くい、森が「ルビ」い「ルビ」動「ルビ」いて
「ルビ」まゐり参「ルビ」ります。

女1 If thou speakest false,

Upon the next tree shalt thou hang alive
Till famine cling thee; if thy speech be sooth,
I care not if thou dost for me as much.

I pull in resolution, and begin

To doubt th' equivocation of the fiend
That lies like truth. 'Fear not, till Birnam wood

Do come to Dunsinane', and now a wood

Comes toward Dunsinane. Arm, arm, and out.

《マクベス》それが偽りならば

お前を干ばしにしてくれず。真実なら

わたしに同じことをしてくれて構わん。

待てよ、信じすぎでは危ついで。真実めかして

嘘を言つ悪魔めの二枚舌がそろそろ

怪しくなつてきたからな。「怖れるな、バーナ

ムの森が

ダンシネインに攻めてこぬ限り」、それがいま、

ダンシネインに

向けて森が動いた。よつし武器を取れ、武器を、

打つて出るぞ。

《マクベス・坪内逍遙訳》もし嘘だと、すぐ手
近の木に、ルビ きさま、汝、ルビ、を吊るし
て、餓死するまで、ルビ、う、打、ルビ、ッ
ルビ、ちや、棄、ルビ、つてもくぞ。事実な
ら、俺を、ルビ、ち、然、ルビ、うしたつて
ルビ、かま、閑、ルビ、はん。……俺の決心
がゆるんで、疑いが起こりかけた、悪魔めが、
両義語で、ルビ、ほんたつ、事実、ルビ、ら
しい嘘を吐いたのかも知れん。「バーナムの森
がダンシネンくやつて来るまで怖れるには及
ばん。」と、ころが、今、森がダンシネンくや
つてきた。……武器だ、武器だ、ちや、打つて
出る。

- 女2 Aa.....I am sorry, I must be going because there
is no time.
《日本語》あの……悪いと思わんとしてな、時間
がないんやけど。
- 女1 Wait. Wait. Please waiting for a moment, and Mr.
postman.
《日本語》なにゆつてんの、もうちょっと待つ
てや、///スター・ポストマン。
- 蔵王三山 No! I am a nai I woman.
《日本語》ちや、メール・ドーマンや。
- 女1 Oh it has not understood at all. Are you a Lady?
《日本語》ウー、女てか、信じられくん。
- 女2・婦人達 Give me a break.

- 《日本語》勘弁してや
- 女2 I am a nai I woman.
《日本語》女や
- 女1 Oh You are a woman nai I clerk, Mrs. Robinson.
《日本語》女、郵便屋、それホント、///
マス・ロビンソン
- 女2 What do you say? What is Mrs. Robinson?
《日本語》なにゆつてんの、///マス・ロビン
ソンはだれや。
- 女1 U u u u o r, U u u o u o r, Hei Hei Hei, Hei Hei Hei
《日本語》(ウーウーウー&ハイハイハイ)ウー
ウー、くくく、くくく、……
- 蔵王三山 U u u o u o r, U u u o u o r, Hei Hei Hei, Hei Hei H
ei
- 女2 I am Ms.
《日本語》未婚やー
- 女1 Oh Ms Ms Mistake. Certainty? The truth? It is un
bel i evabl e!
《日本語》///ズ、///ズ、///ズホー、どや、だ
れか信じるん。
- 女2 The joke is stopped.
- 蔵王三山 Your joke is the same as your face, and the
hobby is bad.
《日本語》おの、おの、冗談は顔だけにちや、
だんえな、
- 女1 My figure is unrelated, Mrs. Robinson?

《日本語》 川だス・ロジハ入ハ、顔は関係ない
んちやいままか。

女2 I am not Ms. Robinson. Please play without permission. And, it obstructed it.

蔵王三三 It returns, and good-bye.

《日本語》 川だス・ロジハ入ハやない。ちの好
きにやえ。知らん。

女1 Wait. Wait. Please do not return.

《日本語》 じめん、ちよこと待って。そじに匿
てや。

七、女1は電話の受話器をとる。

女1 Roux, Riririn, Pplu, Roux, Riririn, Pplu, Hello, Hello. Please wait a little because it is a visitor inside. Is it good?

《日本語》 ルー。ブルル、リリリン、もしも
し、あの用事なんで、ちよこと待ってください。
お願い。

七、急に女2く。

女1 Sergeant Jenkins, be wait. Do not go because it becomes a foreign countries escape.

《日本語》 シエイキンス軍曹、待てー。何処に
行くんや。それは脱走や。

七、再び電話に。

女1 Hello, I am sorry. It prints with what. Can you speak Japanese? I cannot speak Japanese. However, it manages to talk about the Kansai language. No, it is not a Kansai valve. It is a Kansai language. The trouble was put. We wish to express our gratitude for your consideration. Are you Mr. Godo?

《日本語》 もしもしすいませんでした。御用は
何でしょう。あの、日本語喋れますか？ あた
しダメなんですけど。けど関西語やたらいけ
ます。いえ、関西バルブ(弁)ありません。関
西語です。問題なければ関西語でお願いします。
は、ありがとうございます。

半音お声が、いつもより下がっています。お体が悪い
のではありませんか？ ……マスター！それではお言
葉に甘え、関西弁で報告させていただきます。いえい
え、恐れいります。わたしなんそは、暮る年波に負け
まして、とんといけません。

女2 What happened?

《日本語》 なんですんねん。

女1 はっ！ 大変失礼しました。最近通信事情が安定せず、
ときおり河内弁が乱入して参ります。一時の混線です
ので、ご容赦ください。はっ！ 熱海よりこちらに参

りまして、はや二十年となります。つつがなく勤めに励んでおります。とは申しまして、いまだ関西弁になじめず、不肖、ルビどころまきちから、語呂巻べルビ、力不徳のいたすところであります。何を申されます。いえいえ、大阪出身のマスターの、足元にも近づけません。近づくどころか、大和川のペドロに足を取られて、道頓堀川から浮かび上がれない始末であります。女子供のいたす電子飛脚に手を染めましたが、キーボードの上で、器用すぎる私の指先が、素人同然の駆け出し漫才師の持ちネタより早く、眼にも留らずすべりまくるものですから、関西弁インブットメソッドがゆうことを聞いてくれません。ノートパソコンなど川原の草スキーで遊ぶ、袖口が青鼻こすり付けてテカテカに光った悪力キにくれてやるのがちよつどでありました。それ以来私が、口ずさんでおりますのは関西語であります。

マスター！ ただいまより関西語にきりかえます。
関西語！

女 2
女 1

そつであります。マスター！ ご記憶でありましようか？ ちよつど十年前の一月十七日、午前5時46分、関西弁が関西語になった瞬間であります。東京一極集中の弊害、地方都市無視の防災体制の遅れがもたらした、不条理な事態と犠牲者でありました。ご存知のようについに昨今も、日本の標準語を東京弁から、関西弁にという法案が審議されていますが、関西語は自立しなければなりません。関西は東京の属国ではないのであり

ます。生ぬるいのであります。たかだか一国の中で、標準語の位置を狙つてなんといたしますか。マスター！

関西語は独立しなければなりません。独立してこそ犠牲者は浮かべれます。また、それでこそ独立国、関西は国語を持つことになるのであります。はい、ご安心ください。このほど憲法草案を起草いたしました。なすけて生駒草稿。前文、本文、付記とも一文「すべては疑いつる」であります。もちろん進行中であります。関西市民希望者で投票を行つております。得票6433、ただいま一位「レット・イット・ビー」。五票差で「六甲おろし」、十八票差で三位、河内首頭「河内十人斬り」が続いております。いずれかがはれて、市民に口ずさまれる国歌になつると、一言があるものではありません。今の私の日々は、独立記念日の式典で、供される「マクベス」上演の練習に余念がありません。はい、不肖、語呂巻力が「マクベス」を演じます。国家独立とは、影に日にさまざまな軋轢があるものであります。強引な戦略戦術もございませぬ。不肖、語呂巻力、すべての責任をとり、人民裁判の断頭台の露と消える覚悟であります。まこと私に相応しいマクベスの最後であります。私はついにそのようにして、マクベスとして関西市民を信頼し、その市民の未来に希望を託すものであります。どうして私だけが生きのべられましようか？

女 2
ハイハイ

七、女2は電報を渡す。祝電である。

女1 I pray you, speak not; he grows worse and worse;
Question enrages him. At once, good night.
Stand not upon the order of your going,
But go at once.

《マクベス夫人》 いいの、話しかけないで、ど
んどん悪くなりますから。
質問するといらだつばかり。すぐにお引き取り
を。

退出の順序などはどうか一切お構いなく。
さあさあ、早速に。

《マクベス夫人・坪内逍遙訳》 どうぞ、ルビ
なにに、何、ルビ、も言わないで下さい。だ
んだん様子が悪くなる。問答をするに、尚ほ
ルビ、げき、激、ルビ、します。……すぐお
開きにしませう。退席の順序なんぞにや、ルビ
かま、閑、ルビ、はず、さ、すぐにお、ルビ
さが、退、ルビ、り下さい。

女2 Good night, and better health
Attend his majesty.

《レソックス》 それでは失礼を。陛下のご回復
を
心よりお祈りいたします。
《レソク・坪内逍遙訳》 さよつなら。陛下が速
やかに御全快遊はされますよう！

蔵王三山 A king good night to all.

《マクベス夫人》 皆さまお休みなさいまし。

《マクベス夫人・坪内逍遙訳》 では、どなたも
御機嫌よう！

女2・蔵王三山 Good night, and better health
Attend his majesty.

《レソックス》 それでは失礼を。陛下のご回復
を

心よりお祈りいたします。

《レソク・坪内逍遙訳》 さよつなら。陛下が速
やかに御全快遊はされますよう！

七、女2は電報を渡す。弔電か？

女2 とりあえず今夜で最後です。残業でやってんやないの、
あたしの好意なの。オールドイングリッシェ勉強なん
であたしが、せんならんのや。そやろ、昼に配達指定
して悪いことないやろ。別にあたしが届けんでもええ
やん。自分で自分に電報出すのは、そらあんだの勝手
やさかい文句はありまへんのや。でも、今後一切、あ
たしに届けいなんぞ、そんな無茶ゆわんといて。よろ
しいな。民営化なってもあたしはしりまへんで。

女1 Is it a Kansai language?

《日本語》 それは関西語？

蔵王三山 This is a Kansai valve.

《日本語》 関西バルブ(弁)や

女1 Oh! It is good at intonation. It is beautiful.
《日本語》 ええやん。じよずやん、顔と同じよ
うに綺麗やん。

と、女2は電報を渡す。祝電か？ 刈田、熊野、
五色は投げる。

女2 顔ほじやない。なにベンチャラゆつてや、知らん知ら
ん、知らんで

蔵王三山 あんさんには敵いまくんがな。

と、女2は次の台詞を喋りながら退場。

女1・2・蔵王三山 She should have died hereafire;
There would have been a time for such a word.
Tomorrow, and tomorrow, and tomorrow,
《マクベス》いつかは死ぬ身であった。
そんな知られを聞くときもあること思っていた。
Greeps in this petty pace from day to day,
《マクベス》時は小まぢみな足むりて一日一日
を這つまうじ、
To the last syllable of recorder time,
《マクベス》時の記録の終の一語にたどり着く。
And all our yesterdays have lighted fools
The way to dusty death. Out, out, brief candle,
Life's but a walking shadow, a poor player

That struts and frets his hour upon the stage,
And then is heard no more. It is a tale
Told by an idiot, full of sound and fury,
Signifying nothing.

《マクベス》昨日といつ昨日は、阿呆の為に、
塵に返る死の道を
照らしてきた一筋の光。消える、消える、束の
間のともしび、
人生は歩き回る影法師、あわれな役者、
舞台の出のあいだけ大威張りでわめき散らす
が、
幕が下りれば沈黙の闇。たかが白痴の語る
一場の物語だ、怒号と狂乱にあふれていても、
《マクベス・坪内逍遙訳》小刻みに、記録に残
る最後の一分まで経過してしまつ。総て昨日と
いつ日は、阿呆共が死んで土になりに行く道を
照らしたのだ。消える消える、束の間のハルビ
ともしび、燭火ハルビ！ 人生は歩いてゐ
る影たるに過ぎん、只一時、舞台の上で、ぎつ
くりぱつたりをやつて、やがてハルビもつ、
最早ハルビ、噂もされなくなる惨めな俳優だ
ハルビはか、白痴ハルビが話す話だ、騒ぎ
も意気込みもハルビえら、甚ハルビ、いが
たわいもないものだ。……

と、女1は手に持つ電報をテーブルに叩きつけ

た。「バン」という音と同時に音楽。
と、同時に刈田・熊野・五色のハンド・クラッ
プ静かにはいる。

女 1 紅蓮の炎と強風が荒れ狂つなか、おばちゃんが燻って
いる手を差し出し「小便で早く消して」と叫ぶんやが、
恐怖のなか、ちじみ上がり、頑張つてもでまへんでし
た。

女 1 混線、ブレイク、混線です。

女 1 三月から八月までおつきな空襲は八回あつた。B 29が
P 51ムスタングの護衛できよつた。いちどきに二百も
三百もな。それが油脂焼夷弾すき放題、無差別にはら
撒く。それはもつ……猛火と強風で止まつてる路面電
車が揺れるんや。……教え切れん人が死んでもた。何
も無い見渡す限りの焼け野原。うちの近くの大川の水
面には焼死した人の亡骸が浮かんでた。

女 1 混線やて！

女 1 最後の八月十四日は1トン爆弾の雨や。城東線の京橋
駅……

女 1 城東線？

女 1 森之宮から京橋走つてるやる。

女 1 環状線。

女 1 ほう、電車に乗つてまで銭勘定するよつになつたか。
結構なこつちや。……その京橋駅に1トン爆弾が落ち
たんや。数百人が死んだ。狙いは大阪城一帯の大阪砲
兵工廠やつた、壊滅や。

女 1 大阪城は！

女 1 いまでも森之宮から京橋まで、電車は地面走つてるか？
なんでも知つてるか？それはな、高架にすると、こつ
つい扉があるのに、電車の窓から砲兵工廠のなか覗か
れるちゆうわけや。難儀なこつちや。でも最後の最後
の日に、そこも廃墟になつた。鉄くずの山や。見晴ら
しのええこちやる。だから、1トン爆弾の雨の中でも
焼け落ちなんだ、大阪城は、一際高くみえるやる。

このとき他のご婦人たち、暗闇の中随所にいる。
ハンド・クラップは、女1とご婦人たちのする
全員のハンド・クラップとなつている。
ハンド・クラップ静かにフェイドアウトしてい
く。同時に、ご婦人たちのかまびすしいハング
ルの台詞の音量がリゾルプして大きくなり、騒
音となる。急に止む。
なお、山ちゃんここにはいない。

婦人達 (騒音のハングル) …… ——！

釜田 (ハングル) さー行きまっせ。もつすぐや！今夜もい
てこましまっせ。鉄、ブリキ、トタン、真鍮、何でも
ええからな。袋一杯なつたら、闇夜にまぎれて消える、
ええな。

鍋島 (ハングル) 教えといたる、今日の夕計りの値は銅が
一番やつた。が、スケベ根性出して袋につめたら、身
動きとれへんで。助太刀当てにしたら、互いに命取り

や。オカマはオカマらしく自分の面倒は自分で見る。
ええな！

婦人達 (ハンゲル) ええよ！

釜田 (ハンゲル) 本当やな！

婦人達 (ハンゲル) オカマに二言はないよ！

釜田 (ハンゲル) オイドの穴がゆるゆるになって、皺くちやになっても！

婦人達 (ハンゲル) もともと皺くちやや！

五色 (ハンゲル) 今夜は、人の死に水取ったらあかん。

刈田 (ハンゲル) 明日の朝、猪飼野のくず鉄屋で顔合わせられたらめっけもの。

熊野 (ハンゲル) 大阪府警のガキどもに撃ち殺されるもオカマの花道。

婦人達 (ハンゲル) 命があつたらまた会いまひよか！

鍋島・釜田は退場。場は刈田・熊野・五色の静かな複雑なハンド・クラブとなっていた。そのリズムが、ドアを「ドンドン」と叩く音となる。「ドンドン」。

- ・【注記1】 二二での観客は日本人を想定しているので、発せられる英語は観客に言語として届かないであらうと容易に想像できる。
- ・そのように想定している。つまり、英語を俳優は喋っているのだが、何を言っているのか解らない、となるだろう。そこで対話の字彙を用意することにより

つ。すると、日本人の俳優が演じ、英語を喋る舞台を日本人が観ながら、日本語の字彙を戻るといつことになる。

- ・二二での字彙であるが、舞台によるメロウで行くのであるが、舞台は慣習にメロウをめぐる必要はない。しかし、それはあくまでも慣習であるかのように装わなければならない、いつこと注意点である。
- ・なお、邦訳は坪内逍遙のものを使用しようと、なせ坪内逍遙の邦訳であるかは、小田島雄浩の訳より、現代のわれわれが単に分かりにくいからに過ぎない。
- ・以上の結果、観客は坪内逍遙の邦訳に注視すること、を諦めるかも知れない。この諦めるといつこと口を舌を経て、台詞が古英語であるといつ違和感を拮抗しうるだろうか。であるなら、俳優が台詞を喋るといつ演劇賞賛を、少しは対象化できるはずである。

- ・【注記2】 台本中の英語の台詞は『マクベス』(大場健治 刊・研究社)からの引用である。また一部『小説・熱海殺人事件』(つかこうへい 刊・新潮社)からも引用した。明記して謝意を表す。

〔 5 章 〕

刈田・熊野・五色のハンド・クラブでのドアを「トントン」。

女1 「ドンドン」叩かなくてベルついてますよ。

刈田・熊野・五色のハンド・クラブでのドアを「ドンドン」。

女1 「ドンドン」叩かなくて聞こえてるって、どなたな。

ドアを「ドンドン」と叩く音。次のドアを叩く音にも、刈田・熊野・五色のハンド・クラブが重なる。

女2 初めてお伺いしますが、後藤はんツ、でっしやるー！
よっお聴き、これがドンドンや。

女1 だから、近所迷惑やで。

女2 これがトントントンで、ドンドンンはこれや。

女1 はいはい、ようお越し、だれでもかまんからお入り。
鍵開いてます。

女2 ハイは一回や。

女1 ハイ！

女2 (ドンドンと叩く) これは！

女1 トントントンや

女2 後藤はん、まだ見ぬあんたにお聞きしますが、いったい耳掃除いつしたんや、おとといか？

女1 母さんお肩を、

女1 2 トントントンー

女2 お邪魔します、こんばんわ。半身阪神ファンの田淵です。盆と正月一緒に運んできましたで。

半身阪神ファンのなので、帽子、ハッピ、メガホン、タオルの半分がトラ模様のいでたちで登場。大阪のおばちゃんがよく持つ買い物籠も持つ。襦袢を羽織っている。

女1 半身阪神ファンの田淵はん？

蔵王三山 阪神ファンのレンタルおねえーさんです。NPO脱籠城からやってまいりましたでー、ワレ。

女2 何や先客でつか、ほなら出直そかな。

女1 で、そのハンシンハンシンは最初が阪神、それとも半身？

女2 順番がチャウやる。何の御用ですか？ が世間やる？
あるいは、名のらんかい？ それが、工と、工と
切符やる。

蔵王三山 あつは、ぶふい、キマイラ。

女2 あんたら、何しにきたんや——！ 工と切符や

女1 切符？

女2 仕舞いに怒るで、工とチケツトや。

女1 もう入つて来たんやから、戸(「と」)はイラク。

女2 イラク？

女1 戸(「と」)は、イラン。

女2 そつや工と……チケツトやる(間)工チケツトや。バン
ザイ！ こんな長いネタ振り回わさして仕舞いに怒る
で！

蔵王三山 おもろないやんけ、ワレ。

女1 あんただれなん。

女2 名前なんて……ここに居るだけで幸せや。

女1 でッ！

女2 こんばんわ。半身阪神フアンの田淵でんねんやわ。観
てわからんか、ここまでに心的領域を形象化させて、こ
れ以上なに説明せえゆつんや。慮らんかい、標準語で
喋つてんとちやつやる。見てのとうり傷心の身や。

女1 へー

女2 なんなんその感嘆疑問は、

女1 立派やなーて

女2 何が？

女1 大変やなーて

女2 どうゆつぷつに

女1 ところで田淵はん

女2 田淵ほどきれいな放物線を描くホームランバッターは
おらんた。でもな、抗議すんのはボールひろつて
からやて、試合続行中やん、そやろ、泣く泣く西武に
奉公出したんは親心やて。それを友情に応えたかて、
帰つてきてのヘッドコーチはないやろ。男涙は忍ん
で、耐えて、意地でも監督やる。で、岡田に、もうち
よつとスマイルせやゆつたつたんや、努力は認める、
笑窪までつくれゆわんから、ちよつとは白い歯みせて
のスマイルやる。

女1 歯磨くのわすれたんちやつ。

女2 ムツスとすんやつたら虫歯なおしてからや、奥歯かみ
締められへんやろ。今日の六甲おろしはヤケに身にし
みるなあ。

女1 淵ッ！ プチツとくるぞー！

女2 静かにしい。何のためにこんなに喋りながら無口にな
つてるんか分からんやん？

女1 結構なお手前ですなあ。

女2 抹茶に茶柱の心境で、明鏡止水。

女1 誰が千姫や。

女2 うまいことホケまんなあ。はいはい、気いすんだらシ
ヤラツプ。

女1 ……

女2 ストライクやな。間違いない、キンコンカンや。

女1 今、金柑塗つた？

女2 姉ちゃんあんだだれや。
女1 表札みたやろ、後藤さんです。
女2 後藤(「ゴッド」と発音)はん? なんか他所いきやな。ホントは仙ちゃんやろ。
女1 仙ちゃん?
女2 わてが田淵はんでおます。あんたが仙ちゃん。収まりが非常にええ。なんでやろ。
女1 なんですつて? 向かいが山本はんやから、奇跡でつせ。まったく本当のような話やな。田淵はん、あんた筋書きのないドラマ運んできたんか?
女2 ところで後藤はん。
女1 仙ちゃん。
女2 いつの間に。
女1 七回の裏にはすでに。
女2 ところで仙ちゃん、あんさんいったいここに住んで何年になりますんや。
女1 シャワーの水がプチパチプチの頃から、五年。
蔵王三山 ウソ吐け、ワレ!
女2 チャチャ入れるんもたいがいにしなはれや。なんだんねん、用済みならさつさと帰りなはれ。
刈田 この人が私らを必要としてますんやないか。
熊野 そうやないか。
五色 阪神ファンのレンタルおねえーさんです。
女1 ——ウソつきました。十年二昔、住めば都で、光陰矢の如し、豊のメ七回数え終わりました。八回目に突入した今年の春、愕然としたのは、あただけでした。

しょうか? 豊表のメが潔く擦り切れているではありませんか。ウソ、わたしは豊表のメに、目を疑いました。田淵はん、私の豊表のメは、いったいどこに消えていったのでしょうか?

女2 豊の淵踏んでまっせ。

刈田・熊野・五色も反応。

女1 一つ一つ記憶を刻みつけた、あの私の豊表のメはもう、帰つてこないのでしょうか? 豊表のブラックホールに飲み込まれた、私の豊表のメはいま、どこをさまよっているのでしょうか。きっと私の記憶が多すぎて、比重が極限に達し、ビッグバンを起こしたに違いありません。限られた思い出でよかったのです。

女2 もうええか、で、耳掃除いつしたんや、やっぱ一昨日か?

女1 抱えきれない思い出を、これでは垂れ流すしかありません。一つの豊表のメに一つの思い出をそとしまつて見せましようか。泣くに泣かれぬ天満橋、枯れてしまえと星を見上げた州崎橋、それでも追つに追われぬ水分橋、数えて収めた八百八橋の数ほどに、数に限りはあるたとえ、それなのに、この先、垂れ流さなあかんとは、そら殺生や。一足つづに消えて行く。夢の夢こそあはれなれ。あれ数つれば曉の、七つの時が六つ鳴りて残る一つが今生の、鐘のひびきの聞きをさめ。
女2 キンコンカンや。

女1 田淵はん、ゴーンやる。
女2 またてんこゆうて、あてはな、こつ見えても前は、近鉄ファンやったんや。
蔵王三山 あてらもや。
女1 もう昔の話や。
蔵王三山 それで、この半身阪神ファンかいな。
女2 物事は奥までみいよ、まあええ、つまりやな、このキンコンカンが聞こえてるか。
女1 え、何が？
女2 聞く気ないやろ。何年住んでまんのや。申し訳ないやろ。
女1 はばかりながら、共同便所の水洗の音、隣の学生の話し声、天井裏を駆け回るトムとシエリー、階段ギシギシ軋む音、丑三つ時に、どことなく聞こえてくる人生のため息、もう申し分なく過不足なくそろって充分やから、文句はありません。
女2 ご立派やがな、これは電車や。
女1 ツレイン？
女2 間違いないく、近鉄電車の踏み切りの音や。ええなあ、こつやつてここにいるだけでキンコンカンやる、涙でるやないか。この家はええ家や、アンさんは幸せもんや。人生に感謝せなな。ジーンと心に沁みるな。まるでパチンコ屋で聞く蝉時雨やなあ。
女1 訳わからん。
蔵王三山 シュ、シュ、シュ……シュ、シュ、シュ……
女2 お湯沸いてんで。ヤカンかけっぱなしちやつか？

女1 こら大変や。
熊野 あんたこそ、何しにきたん。同じ阪神ファンの好でゆつたるが、ここいらで表でて石投げてみ、阪神ファンにぶつつかるんや。阪神ファンかさにきて、ゴチャゴチャゆうんやつたら、顔洗って出直してこなあかんわな。
五色 あいな、優勝でけなんだ愚痴、こんなところでゆうてもしよつもないやろ。家帰って、来年の開幕まで布団かぶって寝とき。
女1 あいなあ、もう何年も前から、ガス止まってんや。何心配してたんやる。
女2 何ブツクサ独り言ゆうてんや。
女1 田淵はん、あんたがブツクサ独り言ゆうてたんやろ、訳わからん。
女2 いつでも訳わかると思つなよ。闇夜の晩かてあるんや。でも、このキンコンカンの情緒は嗅ぎ分けなあかんわな。はよ来いよキンコンカン、危ないぞキンコンカン、飛び込むなよキンコンカン。耳澄まさんが、ここは耳澄ますとこやる、胸に手当てる。なんで細かいとこに手を抜くんや。弓手が下で、馬手が上、静かに当てるんや。ここはぐれたら一生もんや、ワシ根性入れたれよ。
女1 いつの間に河内弁になつたん？
女2 細かいことゆうたらあかん。可憐げなくなる。夕焼け小焼けでキンコンカン、ハイー！
女1 ハイー！ みなさん最高ですかー！

女2 ……悲しい。仙ちゃん、あんたそんなこと口にして、
恥ずかしさに押しつぶされるやろ。わかります。わか
りますがそれをいっちゃお終いよ。
女1 言うに言われぬ信濃橋、けど、恥ずかしさこらえ、い
わなあかんときは、殺生やけどいわなあかん。ためら
う街に、傘もささずに濡れ鼠、チユウと鳴いて、大見
得きつて戻返り。蛙が鳴くからかえろ、ハイッ！
女2 泣きたいのはあんただけやおまへんで、でも体は鍛え
なはれ……
女1 半信半疑の田淵はん。
女2 半身阪神フアンの田淵や。
女1 それでも半信半疑の田淵はん。
女2 ホンマノのことはこそと、聞こえんようにいえ。
女1 悲しかったら泣きなさい。
女2 そつや、半信半疑で半身阪神フアンの田淵です。前は
近鉄ファンでありました、もつ言の話や。全身阪神フ
アンにはなりきれてません。そんな田淵です。
女1 幸せは歩いてこない、手のひらに太陽を、三歩進んで
二歩下がる。真つ赤に燃える君の血潮、人生はワンツ
ウパンチ！
女2 ワアチャ、アチャ、アチャ！ タツタツタツタツ、
百裂拳！ お前はもう死んでいる。
女1 もしかして、それケンシロ！
女2 さもありなん。正確に。
女1 北斗神拳！
女2 はい、出ました。

女1 それ以外ありまへんやん。
女2 一撃ッ！
女1 ノースイーストッ！
女2 北斗！
女1 そやな、東團がこつちやから、ケンシロ、北東はこ
つちやッ！
女2 ストライクツウ。キンコンカンや……間違いなく北東
の彼方から聞こえるキンコンカン。
蔵王三山 待てーっ！ ばあちゃん、こんなん楽しいか。え
らい立派にストイックやないか。
五色 ノースイーストッ！で、北斗！
熊野 おとなしゆうに聞いてても、メチャクチャこじつけま
くつてんやん。
刈田 ツッコまなしやないやないか。
熊野 あんた、いやらしいで。
五色 そつや、いつまでもなく品位の問題や。大阪のおばち
やんのレベルそのままやん。向上心とか克己心もてや。
刈田・熊野 うちらにも仕事させなさい、汗をかかせなさい。
女1 こんなんええんやろか。
蔵王三山 ええないっ！

と、女1を押し戻す。

女2 疑つな！ 疑えば、屋根まで飛んで、壊れて消えた人
生も、単なる影法師。バームクーローブが動いてこそ人
生やおまへんか。

刈田 この方にはその人生がおまへんのや。何とかしたりた
いやないか。何でそう思わん。
熊野 この方は夜な夜な、マイクに向かってゆうとりました。
聴者の皆さん。お元気でしたか？ お変わりありませ
んでしたでしょうか。
五色 お変わらないわけないやない。皆さん生きてますんや
で。なんちゆうことをのたまつのでしょうか。
刈田 試験電波発信、発信、応答応答願います。お応えしま
す。
熊野 貴方にコンタクトを求めてやってまいりました。
刈田 ピッキーン！（と動き）
熊野・五色 いま世間で注目のレンタルおねえーさんです。
刈田 ピキピキピッキーン！ピキピッキーン！（と動き）
女1 ……キンコンキンコン。
女2 それは阪神電車の踏み切りや。
蔵王三山 無視すんな！
女1 チンチン。
蔵王三山 あんたはまず無視せえ！
女2 何を言うてるんんや。聞こえるのは京阪のキンコンカ
ナでつせ。
蔵王三山 無視すんな！無視すると、飛び込み自殺やる。
女1 南海やる、京阪はコンキンや。
女2 なんやて、そしたら近鉄は？
女1 カンカン……田淵はん、なんか今日、えらいテンボわ
るいなあ。店じまいしょうか。
女2 あかんかん。阪神は？

女1 カンカン。
女2 あかんで、阪神も近鉄も同じやったら、メセナわから
んなんやん。
女1 J Rも南海もカンカン。
女2 仙ちゃん、あんたなにゆつてんの、しかりしいや。い
つものテンボと違つとというのがわかるんやったら、し
っかりせえなあかんやる。判るんやるつ！
女1 京阪も阪急もカンカン。
女2 仙ちゃん、仙ちゃんて……
女1 やつぱり、大阪は気楽にジャンプします！
女2 体鍛えて、あんじょうお気張り。
女1 ……
女2 若者よ、体は鍛えておけ。……どうしたん、仙ちゃん
ッ！
女1 あんた何しにきたん！
女2 阪神電鉄の軌間は48mm。つまり軌道間、二つのレ
ールの間がな、少々大きいんだす。で安定してるから、
列車の通る音が小さいのんや。
女1 線路に継ぎ目がないからやる。
女2 何で鬼の首とつた桃太郎みたいにゆん。楽しいか？
そら新幹線のレールの長さは1500mもあるやる。
それがどないしたん。そら岡山には新幹線は止まるや
ろ。それがどないしたん。あんたのおかげか。
女1 じゃ阪神電車はどのくらいなん。
女2 なんで、近鉄電車で先に訊かへんの。美味しいところは
後に残そうよ。

女1 近鉄電車は？
女2 何で鬼の首とつた金太郎みたいにゆっくん。琴ヶ浜の内掛けん。
女1 ほい。
女2 名手大関、琴ヶ浜が内掛けん決めて、それは当然の決まり手や。それは当然やけど焼け火鉢、期待しますわな。決めますわな。それが琴ヶ浜の内掛けん。
女1 近鉄電車は？
女2 ようお越し。自分で調べなはれ。
女1 知らんねやろ。
女2 はい、ここで問題です。1500mもあるロングレール、一体どのようにして運ぶのでしょうかお答えください。
女1 ガタンゴトやろ。
女2 そつや、聞こえくんのやろ。だから聞いたやん。
女1 聞こえくんゆってんのに。
女2 だから聞いたゆってんのか。あんな、耳掃除いつしたんや、おとといか？
女1 あんたはキンコンカンや。キンコンカン..
女2 そつや、そのとおりや。
女1 だったら何でガタンゴトオンや。
女2 だれがガタガタや。
女1 あんたが、阪神がガタンゴトで、近鉄がガタンゴトンて区別したんやろ。
女2 つまり近鉄の軌間は1067mmやから、違いはあつて当然やろ。

女1 京阪は。
女2 京阪、阪急も1453mm。
女1 銀河鉄道は。
女2 えっ、あんたはカムパネルラが、それともジヨバンニかどつちや。
女1 関係ない。銀河鉄道の軌間はッ！
女2 宮沢先生しか知りません。
女1 半信半疑で半身阪神ファンの田淵なんやろ。なんとかしなさいよ。
女2 それとこれとはちやうでしよ。
女1 そんな台詞は、脈絡ある話をして言いなさい。
女2 ハイ！ まことにおかしい話でしたが、これは本当は軌間の話しではありませんので、銀河鉄道の軌間は...
∴訊かんでおいて。ハイ、オチました。お後がよろしいようぞ。
女1 ハイ、お隣子。引っ込みます。拍手、さようなら。
女2 オフサイド！
女1 落語とちやうん。
女2 もとい、ボーク！
女1 退場！
女2 よあそんなアホなこと言うわ。こつ見えてもつちは半身阪神ファンの田淵でつせ、抗議はします。
女1 監督を呼べ、監督やないと抗議は受け付けません。
女2 仙ちゃん！
女1 わたしが仙ちゃんです。何の文句を言いに来ましたんや。それとも事件、御用は？

女2 そらまあ。

女1 そらまあッ？

女2 そら、まあ！

女1 そらまあッ？

女1 2 そらまあ、まあッ！

蔵王三山 そらまあ、十何年も引こもるんやから、あんたが
いくら古いお友達やからで、シタバタしても……

女2 引こもるんが、なぜ悪い。籠城は立派な戦術や。

女1 田淵はん、なんかゆったか？

女2 昨日な、スーパーでなスーパーマンが一玉三百六十円も
してたレタスな、百円で投売りしてたんやで。えらい
事件や。

女1 スーパーマンの出現が事件かい、それとも一玉百円が
かい。それとも見たこともない、さぞ華麗な投売りだ
つたんやるなあ、うちも一目みたかつたなあ。

女2 一昨日な、向かいの商店街の奥の銭湯に……

女1 ほつ、セントウいうぐらいやから、一番風呂でしたか？

女2 そらまあ..

女1 それとも血まみれの男が駆け込んで来ましたか？ そ
こではさぞ凄惨なセントウシーンが繰りひろげられた
んでしょつなあ。

女2 そら..

女1 まあッ！

女2 そらまあ、夕酒落いのんは、あんまり拘らんとスー
と通り過ぎるんが粹やからな。普通銭湯ものはエウだ
けやから。

女1 ほつ、そんなんいつのは何処のタレジャ。

女2 そらまあ色々あるけど、一番の事件は、一昨々日な、
郵政民営化に先立って、一丁目と七丁目の特定郵便局
が、売り上げ上げなならんやろつからで、ためしに接
客のシユミレーションしたんやで。テレジでもニコー
スになつたから、ひよつとして視たかなあ。

女1 初耳やで。

女2 えらい騒ぎやつたんや。

女1 ほつそう、そら大変や。で、どっちがコウセイやった？

女2 ……

女1 で。

女2 そらまあ。

女1 そらまあッ？

女2 そら、まあ！

女1 そらまあッ？

女1 2 そらまあ、まあッ！

女2 ……仙ちゃん

女1 半身阪神ファンの田淵はん？

女2 ぼちぼち失礼します。

蔵王三山 うちらも、今日は失礼しましよつ。

女1 え？ ウソ！

刈田 後藤はん！に無沙汰しています。いかがお過ごしです
か？

熊野 お元気のことと思います。このお手紙がちよつと九百
九十九通目の御便りとなりました。十六年前にあなた
のことを知り、あなたのことをもう少し知りたくて、

お便りを差し上げたのが、つい昨日のこのように思われます。……今、このお便り読んでいただいているでしょうか？いつものことながら、そう思ってしまう。さっそく、昨日も今日も相変わらずの、私の晩ご飯のことを書いてみます。いやちよつとだけ違つことを書けば、今夜は、駅前のローソンに出かけてワンカップを一つ買ってきました。一つだけ贅沢です。長龍の二級です。晩酌を付けたのです。ヤカンにワンカップを入れて人肌に暖めようとしたのですが、アルミの蓋を取って暖めるのか、そのままか悩んでしまいました。何年ぶりの晩酌でしょう。遠い昔です。

五色

結局、アルミの蓋を切って暖めたのですが、勘所を逃がし、少しだけアルコールが飛んでしまいましたよ。でも、ワンカップを持ち上げるとき、あまりの熱さに、とつさに指先を、耳たぶに持つていくことは忘れていませんでしたよ。後藤はん、あなたの人前が出る恐怖が少し、いつか薄らいたとき、ワンカップを買いにローソンにいけるような日がきたとき、そのときはお知らせください。ワンカップの熱燗で乾杯をしたいと思えます。

刈田

かしこ。

熊野

そんな貴方から、ついに返信が、昨日来たのでした。こんなわたしでも、人と話すことができるでしょうか？

刈田・五色

できますとも！

熊野

きつときつと、できますとも。

刈田・五色

捨てたものではありません。あなたはこうして、

返事を書くことが、出来たのですから、それは捨てたものではありません。

女1 ……

蔵王三山 後藤はん、昨日お手紙さしあげました。ちよつと千通目の御便りとなりました。

と、刈田・熊野・五色は退場。

女2 ……仙ちゃん。つちらちよつとだけ、お知り合いになれたやろか？

女1 多分、昨日よりちよつと。我慢した夕洒落の分だけは。

女2 事件やるか？

女1 どやろか。

女2 そやな。

女1 ……あの

女2 なんやろ。

女1 何もなくて。何もなくて、今日もだれもこなんだなあて……

女2 そつか、じゃ、お邪魔しました。

女1 お邪魔されました。

女2 ……あの

女1 ……なんですやろ

女2 ……その

女1 ……はい、半身阪神フアンの田淵はん？

女2 最後に一つよろしいでしょうか？

女1 ええッ！

女 2 それでは、今日こうしてお邪魔したのは、事件でした
でしょうか？
女 1 多分、すべった夕洒落の過激さほどに。
女 2 許容範囲だったでしょうか？
女 1 それを強要しますか？
女 2 貴方の教養の問題です。
女 1 ハイ、中央アルプス千畳敷スキー場の大滑降です。
女 2 おっしょって。
女 1 ほっておいても見事に滑りまくります。
女 2 つかの間の退屈と、少しばかりの友愛に満ちた苛立ち
を置いて帰ります。
女 1 お別れですね。
女 2 そんな嬉しそうな笑みを浮かべていわないのが、工
と、切符です。
女 1 お別れですから、度を越して悲しみがこぼれているの
です。
女 2 大変よくわかります。が、仙ちゃん。あなたは、大阪
のおばちゃんが、このまますんなり帰ると思っていま
すか。
女 1 別れは、いつも、後ろ髪を引くものですから。
女 2 掛布は髪しないで、どうなんの、かわいそうやんか。
女 1 寄る年波には勝てません。
女 2 やはり、もっ少し引っ張ってくれんとそこに帰れま
せん。
女 1 ああ、
女 2 ああ、

女 1 ええ、
女 2 ああ、これそこの「ドンドン」のところに落ちてま
したで。

女 1 は何もなかったかのように封書を受け取る。

女 1 お別れですね。
女 2 だから
女 1 だから、本当に、お別れですね。
女 2 忘却の彼方へかえりましようか？ それとも最後にキ
ーを外して、中島みゆき歌いましようか？
女 1 いえ、ああ、実は、くだらない心配が一つ、
女 2 ええ、是非。
女 1 あまりなので、人に聞いたことが、
女 2 ええ、分かります。ハイッ！
女 1 ある日、臨終間際の息も絶え絶えのおじいちゃんが家
族を前に、医者の手を採っていいました。先生、二人
のドラ息子心配で心配で、死んでも死に切れまへん
のや。
女 2 心して聞いてます。
女 1 医者が、おじいちゃんの手をとっていいました。
女 2 なんとかしたらなな。
女 1 心肺（「心配」）停止です。
女 2 だれが名付けたか・私には・別れた唄いの・影があ
る……足袋脱げ。
女 1 半身阪神ファンの田淵はん

女2 ほんとの最後に一つよろしいでしょうか？履いて。
(タップシューズを置く)
女1 ええッ！
女2 はよ履き。
女1 はい。
女2 意を決してお邪魔したんは、このスパイクでタップを
切ってもらおうと思つてやつてまいりましたんやで。
女1 最初から、何でそついわへんの。めっちゃくちゃ回りく
どいやん。
女2 それじゃーワープします。
女1 え、今夜は何年前に！
女2 それ履かんといつことはないやろ。ワープでけへん。
女1 ハイハイ。

女1はスパイク(タップ)シューズを履く。

女2 ハイは一回やッ。
女1 ハイ！
女2 (ドンドンと叩く)これは！
女1 トントントンや
女2 耳掃除いつしたんや、おとといか？
女1 母さんお肩を、
女1² トントントン！
女2 お邪魔します、こんばんわ。半身阪神フアンの田淵で
す。ワープしました。
女1 半身阪神フアンの田淵はん？ でそのハンシンハンシ

ンは最初が阪神、それとも半身？
女2 ガキのつかいやないから、大阪のおばちゃんは気短い
の知つてるやろ。
女1 ワープまでしてもらつたのに、えらい失礼しました。
で、御用は？ うち忙しいねんやわ。
女2 単刀直入にいます。お宅は読売新聞ですか。それと
も「希望の光」読んでもらえますか。ついでに町内
会費払いましたか、でなかったら、押し売りお断りて
書いててもらわな、一応挨拶してしまいます。
女1 いまさら挨拶なんかええて。
女2 挨拶抜きなんて、結構友達になつてますやんか。
女1 無理やりな。
女2 その無理ついでに、タップ踏んで。
女1 そら無理やわ。
女2 無理やりワープしてここまできたんや。いまさら無理
とはおかしいやろ。やり。それとも、でけへんゆづの
はあんた、まさかジャイアンツファンやないやろな。
ジャイアンツファンはスパイクでタップ踏まれへんの
や。
女1 ハイハイ
女2 準備運動代わりにランニング！

と、女1はランニング。

女2 息切れすなよ！なんな、そら無理やりやつてんやん。
いやいややん。だから、ゆづたやろ、せめて体は何が

あつても鍛えとかな、そうやる、息切れすると、いや
いやに見えてしまつやる

と、いつもの女1はタップを快適にリズムを
刻む。

女1 無理やりやからそれでいいやる。

女2 リーリーリー牽制ッ！ リーリーリー牽制ッ！ リー
リーリー滑りこみッ！ お待たせしました。ほなら、
音楽行こかーッ——歌い！

笠置シズ子『買物ブギー』流れる。

今日は朝から 私のお家は
てんやわんやの大騒ぎ
盆と正月 一緒に来たよな
てんてこまいの 忙しさ
何がなんだか さっぱりわからず
どれがどれやら さっぱりわからず
何も聞かずに 飛んでは来たけど
何を買つやら どこで買つやら
それがこつちやに なりまして
わてほんまに よついわんわ わてほんまに
よついわんわ

女1は歌いながらタップ。決まる。音楽の途中

で、女2は

女2 わてがほんまによついわんわ。一緒にいきましょう。

たまの日曜 サンデーというのに
何が因果(いんが)と 言うものか
こんなに沢山(たくさん) 買物たのまれ
人の迷惑 考えず
あるものないもの 手あたりしだいに
人の気持ちも 知らないで
わてほんまに よついわんわ わてほんまに
よついわんわ

略

ちよつとおつさん こんにちは
ちよつとおつさん これなんぼ
おつさんいますか これなんぼ
おつさんおつさん これなんぼ
おつさんなんぼで なんぼがおつさん
おつさん おつさん おつさん おつさん x 3
わてつんぼで 聞こえまへん
わてほんまに よついわんわ わてほんまに
よついわんわ
あーしんど

作詞・作曲/服部良一

女1、2のタップ。決まる。

- 女1 ちゃうんちゃう。
女2 何が？ 息あげんやないッ！
女1 スパイクはいて、何で『買物ブギ』なん。いくらなんでも無理あるやん。
女2 無理が通れば道理が引込む。草履(「道理」)代わりのスパイクシューズが今、無理して頑張ってくれたんやない。
女1 周り近所から、苦情きても、そんなんや言い訳でけんやん。
女2 スカッとしたやろ。ええやない。
女1 ちゃうやろ、スパイク履いて、歌うたつんなら、ええか、半身阪神ファンの田淵はんに向かつていつのも失礼ながら、なにはさておき『六甲おろし』やろ。
女2 よろしい。
女1 当然やん。
女2 おおいによろしい。じゃ、厚いに要望にお応えしてまいります。
女1 そうこな、でも、道上洋三バージョンは止めてや。
女2 ごちやごちやいわん。
女1 風はこつちやな、(指をぐロッで)田淵はん、浜風よし。

と、女2は『六甲おろし』を弾く。女1はタップ

プを踏み始める。女2、急にバンと鍵盤を叩いて止める。

- 女2 何で歌わんの？
女1 唇真一文字に結んで、風を切ってますから。
女2 そんなんやからあかんのや。
女1 えっ？
女2 いつもそつなん。あんたはやつば歌わんの。あたしはそやからと思います。だから、キンコンカンも聞こえまへんのや。すぐそこに踏み切りあるやん。頑張つてや。何票差あると思つてますんや。上向いて、ボソボソと歌つてるかどうか解らんよつな、視線上に投げ上げてるんか、足元の芝生見て歌つてるかるかどうか解らんよつでは、もつ情けのうなります。
女1 今度は、なに言い始めるつもり。
女2 仙ちゃん、ワープしたけど、こちらまだ、お知り合いになれたままやろ。もつすぐ友達やん。そやから分かるやろ。わてが何でこつしてお邪魔したか。無駄口たたきに来たんと言がちやいまつせ。
女1 半身阪神ファンの田淵はん。
女2 はいな、仙ちゃん。
女1 お知り合いとお友達はこ近所ですか？
女2 半身阪神ファンと全身阪神ファンのほどには。
女1 お買い物ついでに、お邪魔していただいて、ありがとうございました。はよせんとお店続りますで。
女2 では仙ちゃん、しつかり歌つてください。このマイク

をつけて、しっかり歌ってください。そうして、得票
6433、「レット・イット・バイ」、五票差で「六
甲おろし」のこの五票差を逆転して下さい。不肖、明
日は全身阪神ファンの田淵のおばちゃんは、必ずイン
ターネット投票しますから。仙ちゃん、だから、がん
ばって歌ってください。あなたの歌声でみんなを元気
づけてください。

女1

はい。

女2

貴方の独立する大阪の国語は関西語ですよな。

女1

はい。

女2

だから、カントリーソング(国歌)は『六甲おろし』で
す。

女1

はい。

女2

では失礼します。明日は全身阪神ファンの田淵のおば
ちゃんは、一言、そうお伝えしたかったのです。

女1

少しだけお知り合いになれた田淵はん。

女2

はい。

女1

それだけですか？

女2

練炭自殺誘いに来たと思いましたが。

女1

そのほうがまじだつたかも知れません。

女2

ぼちぼち失礼します。

女1

え？ ウソ？

女2

仙ちゃん。うちらもちよつとだけ、お知り合いにな
れるやるか？

女1

意を決してお邪魔したんは、このスパイクでタップを
切ってもらおつと思つてやつて来たんと違いますやる

か。

女2

近所迷惑でつせ。

女1

最後に一つよろしいでしょうか？

女2

ええッ！

女1

キンコンカンが浜風に乗って、聞こえそうな、そんな
気がしますが、自信がもつ少しもてません。

女2

『六甲おろし』を無理やり歌つて。タップを踏んでみ
ますか？

女1

ぜひ強引にっ！

女2

心の準備はッ！

女1

ハイ、今スパイクは中央アルプス千畳敷スキー場の大
滑降の上です。

女2は『六甲おろし』を弾く。

流れる雲に等して

別れの歌、口ずさむ

荒ぶる意気、途切れ切れ

明日に歌つは、青春の日々

あ、あ、汗

青春の日々

なめんな、なめんな、なめんな

〔略〕

あ、あ、汗

青春の日々

なめんな、なめんな、なめんな

女2が弾く曲に重なって、レコードの原曲『六甲おろし』（作詞／佐藤惣之助 作曲／古関裕而）が流れる。この曲で女1、2はタップを踏む。

やがて女2退場。

『六甲おろし』消える。

女1は一人でタップを刻む。タップの音だけが響く。響く、まだ響く……

静寂のなか、女1の息切れの「ゼーゼー、ハイハイ」がやけにつら悲しく聞こえる。

【 6 章 】

静寂の中の女1の息切れの「ゼーゼー、ハイハイ」はやがて、忍び笑いから、大笑いになる。時間にすれば、五分強ほど笑うことになる。その笑いは文楽の義太夫語りの、あのあきれる程長い笑いである。
この笑いの中、音楽入る。タップシューズを脱ぐ。

女1 (笑い) わは、わーは、わーはは、わーっはあははは..
.....

女1は女2から受け取った封筒を開く。

女1 (笑い泣きで読み始める) 前略..... ずいぶんどこ無沙汰しちやりますが、その後、お変わりねえかえ。お便りも出さんじ、今日まで来たんは、時間がねえからでも、よだきかつたけんでも、豊方んこつ忘れたけん

でも、ねえんで。ただ、あんたに近況をお知らせして
ん、ご迷惑がち思つて、今日まで失礼しち来ました。
こじし貴方は「なしかえ」、「どけなつちよんのかえ」
と訊くんじゃろうえ。そげえ訊かれてん、うちん近況
は、雨蛙がないち、雨が降るぐらいじ、たいしたこた
ねえんで。隣の猫んたまが、うちん顔見ち欠伸をしち
外に出ちいくぐらいんもんじゃ。大事件ちゆうたら、
駅前なんもねえ通りに、オムライスしかねえアアミ
レスができたぐらいじゃ。ためしに「小倉アイス」た
のんじみたら、やっぱ「オムライス」がでちきたんで。
たいてえ、明日からも何もねえし、たいてえ、こげな
幸せが続くんじゃろう。そしち明後日もじゃ。それが
不満ちゆうつのはねえんでえ。仙ちゃんへ……昨日の
仙ちゃんより。

女 1 ……あの唐突ですが、幸せ、ですか？ ……今でも…
…悔いはありませんか？ ……それは、悔いなどあり
ませんね……これから、だから……ありませんか？
そうですね……ありませんね。……そうです、きつ
とありません。だから……これから、ね。……わたし
は、もちろんありませんよ。……あなたはどつですか？
だから……あの、幸せ、ですか？ クエスチオンマ
ーク……てんでてん

女 2 (英語) Macbeth!

と橋掛かりで女2。いでたちは半身阪神アアンの
応援グッズ一つ、郵便配達員の腰力バン、座
布団一枚、買い物カゴで登場。女2は老女であ
る。

女 2 (英語) Macbeth!

……

女 2 (英語) Your face, my thane, is as a book where men
May read strange matters. To beguile the time,
Look like the time, bear welcome in your eye,
Your hand, your tongue. Look like the innocent fl
ower,
But be the serpent under't. He that's coming
Must be provided for; and you shall put
This night's great business into my dispatch,
Which shall to all our nights and days to come
Give solely sovereign sway and masterdom

《マクベス夫人》ねえあなた、あなたのお顔は
まるで本のよう、だれの目にも怪しい内容を読
みとられてしまつ。世間を欺くには
世間と同じ顔つきをして、目にも、手にも、口
にも、
歓迎の色を浮かべるのですよ。みせかけは無
邪気な花

でもその下には蛇を忍ばせる。せつかくお出向
きの
お方には、たっぷりご馳走しなくては。ねえ
今夜の大仕事を手早く片つけるのは、全部わた
しにおまかせなさいな。
首尾よくいけば、これから先に続く二人の長い
昼と夜、

女1 ? ??, ??? ??? ????, ?? ?????? ?? ??, ?? ? ????? ??
? ????? ? ? ??? ??? ??? ????? ???, ? ????? ??? ???
? ?? ?????.....? ??? ??? ????? ??? ?? ??? ??
???, ????? ?? ?? ??? ?????, ??? ? ?? ? ?? ?? ??.

《マクベス》やっちゃまって、それで事が済む
ものなら、早くやっちゃまったほうがよい。暗
殺の一網で万事が片付き、引き上げた手元に大
きな宝が残るのなら、この一撃がすべてで、そ
れだけで終わりになるものなら.....あの世のこ
とは頼まぬ。ただ時の浅瀬のこちら側で、それ
ですべてが済むものなら、先行きのことなど、
誰が構っておられるものか。(福田恒存・訳)

女1 2 (日本語・笑い).....

女1 2 (日本語)きれいは、穢い。穢いはきれい。さあ、飛
んでいこう、霧のなか、汚れた空をかいめぐり。(福
田恒存・訳)

.....
女2 (手話)叫び声が聞こえたようだった、「もう眠りはな
い、

マクベスは眠りを殺した、――あの無心の眠り、
心労のもつれた絹糸をときほぐしてくれる眠り、
その日その日の生の終焉、つらい労働の後の沐浴、
傷ついた心の膏藥、大自然が用意した最大のご馳

走

人生の饗宴における最高の滋養――(小田島雄志
・訳)

女1 (英語) That tend on mortal thoughts, unsex me her
e,
And fill me from the crown to the toe top-full
Of direst cruelty, Make thick my blood,
Stop up th' access and passage to remorse,
That no compunctious visitings of nature
Shake my fell purpose, nor keep peace between,
Th' effect and it. Come to my woman's breasts
And take my milk for gall, you murd'ring ministers,
Wherever in your sightless substances
You wait on nature's mischief. Come, thick night,
And pall thee in the dunest smoke of hell,
That my keen knife see not the wound it makes,
Nor heaven peep through the blanket of the dark
To cry, 'H! d, hold!'

《マクベス夫人》かじりつく悪霊たち、今にそれ
だしを女でなくしておくれ、
私の全身になみなみど、頭の上から爪先まで

残忍と冷酷を

漲らせておくれ、わたしの血をどろどろにして、
憐れみに通ずる血の管を塞いでしまつのだよ、

せつかくの恐ろしいもくろみに、良心の呵責な
どが

揺さぶりに入つて、なまし実行を押しとどめる
ことの

ないように。さあ人殺しの手先ども、わたしの
乳房に

取り付いて、甘い乳を苦い胆汁に変えておくれ、
お前らは

目に見えぬ姿のまま、この世の悪事という悪事
に

手を貸しているのだから。そしてたれこめた夜、
お前は

地獄のどす黒い死の煙を死人をくるむように厚
く纏つのだよ、わたしの鋭い刃の切つ先がえく

つた傷口を見ないで澄むように、
天が暗闇の帷の切れ目から覗き込んで、思はず

こつ叫んだり
しないように「やめて、やめて」

女 2 ??, ??? ??? . ?? ?? ? ??? ?? ??? ? ???? ? ??? , ?
?? . ??? ? ? ??? ??? ??? ?? . ????? ??? ? ? ? ? ? ?
?? ?? ? ? ??? .

《マクベス》よし、心は決まつた。あとはから
だじゆこの力をふりしほつて事にあたるのみだ。

さあ、奥へ。晴れやか顔つきでみんなを欺くの
だ、偽りの心を隠すのは偽りの顔しかないのだ。

(小田島雄志・訳)

女 1 (日本語)あの戸を叩く音は、どこだ？ どうしたとい
うのだ、音のするたびに、びくびくしている？ 何と
いふことだ、この手は？ ああ！ 今にも自分の眼玉
をくりぬきそうな！ 大海の水を傾けても、この血をき
れいに洗い流せはしまい？ ええ、だめだ、のたつた
波も、この手をひたせば、紅一色、緑の大海原もたち
まち赤と染まるつ。(福田恒存・訳)

女 2 (手話)ごめんなさい皆さん、
いつものことですのよ。なんでもありません、
申し訳ないのはせつかくの楽しみを台なしにしてしま
つて。(大場建治・訳)

女 1 (英語)Avaunt and quit my sight! Let the earth hi
de thee!

Thy bones are marrowless, thy blood is cold;
Thou hast no speculation in those eyes
Which thou dost glare with.
What man dare, I dare;

Approach thou like the rugged Russian bear,
The armed rhinoceros, or the Hyrcan tiger,
Take any shape but that, and my firm nerves
Shall never tremble. Or be alive again,
And dare me to the desert with thy sword;
If trembling I inhabit then, protest me

The baby of a girl. Hence, horrible shadow,
Uhréal mœck'ry, hence!

《マクベス》出て行け、消える！ お前は土の
中のものだ！
お前の骨に髄はなく、血は冷えきっている。
そつやつて睨めつけているお前の目には
ものを見る力などないはずだ。
男にやれることならなんでもやってみせる。
毛むくじゃらなロシア熊の姿で出てこい、
角で武装した犀、ヒルカニアの虎、
いまのその姿でさえなければ、おれの筋肉は
微動だにしないものか。生き返つて戻つてきても
いいぞ、
それで剣を抜いて無人の荒野で決闘を挑んでみ
ろ、
少しでも震えるさまをみせたら、乳くさい小娘
と
ふれて回るがいい、失せろ、恐怖の影法師、
存在しないまやかしの姿！

女 2 ????? ???? ?

見えたとは何か？

女 1 (日本語)マクベス、マクベス、マクベス。
マクベスはけつして滅びはせぬ、かのバーナムの森の
樹が
ダンシネーンの丘に立つ彼に向かつてくるまでは。
(小田島雄志・訳)

女 2 (手話)まだここにじしみが。
消えておしまい、この忌まわしいじしみ！ 消えろと言
つのに！ 一つ、一つ、二つ。さあ、いよいよやるべき
時刻！ なんて地獄は暗いだろう！ ーなんです。
あなた、なんですか！ 軍人だというのに、恐れたり
して！ だれが知ろうと、恐れることがありまして！
私たちの権力をとがめるものがありました？ ！ ー
ーそれにしても思いもよらなかった、あの老人にあれ
ほどの血があるつとは。(小田島雄志・訳)

女 1 (英語)What is that noise?

女 2 ??? ?????.

侍女たちの声のようです。

女 1 (日本語)おれは恐怖の味を忘れてしまった。
以前には、夜の叫び声を聞けば
五感が凍りつき、恐ろしい話には
髪が命あるもののように縦毛立った
ものだった。だが恐怖という恐怖をなめ尽したいま、
殺戮の思いに慣れ親しんだこの胸は、どんな悲惨にも
驚くということがない。(大場建治・訳)

女 2 (手話)なんの騒ぎだ？

女 1 (英語)What is that noise?

女 2 (日本語)なんの騒ぎだ？

女 1 (手話)なんの騒ぎだ？

女 2 (英語)What is that noise?

女 1 ? ?????

(ハンゲル)なんの騒ぎだ？

女1 2 なんの騒ぎだ？

女2 なんの騒ぎだ？ いったいなんの騒ぎだ！村上！

女1 (ゴミ回収車の音楽の口真似)……

女2 えっ、早いやん、不燃物？ 可燃物やたかなあ。資源
ゴミや、どないしょ、間に合わくんがな。(と、消防
車のサイレンの口真似)

女1 はい、救急車です。急性アルコールの方はどこですか？

女2 あかん、串かつ、油かけつばなしや。あわてるな、騒
ぐな。

女1 (パトカーのサイレンの口真似)……

騒ぎに乗じて鍋島と釜田がバケツを持って登場。

女2 冷静な対応を！ 市民の皆さん、騒ぐんやない！

女1 騒いでいるのは(と、女2を指差す)……

女2 あたし？

女1 そうや。

女2 あんたのほうが生おおきおまつせ。

女1 はいはい。

女2 ハイは一回。

女1 はい。

女2 ところで夜遊びはどこな？ 門限過ぎてるやろ。ええ
加減にしてもらわなな。

鍋・釜 失礼ですが。

女1 失礼ですが……

女2 ストップセンテンス。そのフレーズの後は聞き飽きた。

「失礼しました。御見それいたしました。お許しくだ
さいませ、お代官さま」云々。お城も見えへんのに、
そんな常套句(城東区)は、あんな、市内ならまだしも、
河内なら何とする。

女1 結構がんばつて、ついていつていますが、先見えへん
のやけど。

女2 人生先見えてて、何の因果か応報か。語る世間に鬼が
いて、救う仏も浮かばれる。そやろ、若造、素直にそ
やおい。

女1 そかなと思つけど、ほんとは訳わからんやん。

女2 娘！(間) 素直にそやおい。

女1 本当にそのとおりです。

女2 返す踵が軽すぎる。惜しいことしたな、次は生娘(間)
素直にそやおい、やったんやで。

女1 最近、無理はしませんのや。

女2 ……チエ・ジコウさん。

女1 はい。

女2 無理しつばなしやないが。

女1 人生、その通りでおます。

女2 この火盗改め鬼の平蔵最後にもつ一度聞く。お加代、
夜遊びときたら、火遊びとなるが、それに相違あるま
い。

女1 はあ？

女2 この期に及んで、しらをきりやるか。火遊びを昼にし
て何とする。アバンチコールにならんやろ。忍んで
こそや。

女1 どうでもええけど、そういうことやないやろ。

女2 言うにことかいて、メザシを頼んだわたしはどうなんの。

女1 なんかいま、ごつつうホップした。

女2 昨日な、飲み屋でビールのあてにあてはメザシ頼んだんたス。オツちゃん、メザシ一つ頂戴。シラーや、二十四や。

女1 キビシーイ！

鍋・釜 六四、二十四で無視やな。

女2 解説すんやない。

女1 で！

女2 頭の髪の毛、黄色と黒に染め分けたオツちゃんが、視線メニユーに投げやんの。しゃないから、思いつきり「優勝！」ゆうたった。

女1 バンザーイ！

女2 オツちゃん、声さらに張り上げて「優勝メザシ、一丁！

女1 バンザーイ！……まあまあや貸して、貸して。（と女2の応援グッズを取り、着けて）、あてはよつ分かんらんで、「三十一番」一つ頂戴、つて頼んだんだ。たつたの三十一円。

女2 掛布の背番号三十一。

女1 何出てきたと思いまっか。

女2 まさか？

女1 そのまさかですがナ。小鉢に入りきらへん、すき焼き用の大きな鉄が一つ。どうせえゆうんや。そらまあ、

歩は一兵卒で安つおますが、

女2 あのなあ、掛鉄ゆうぐらいやから、なんか掛かつてんやろ。

女1 はいな三十一番。そこでんがな。オツちゃん小鉢手に持ち、あての頭見ました。髪の毛睨みました。青海苔しこたまパツパ、パツパ、パツパでハイお待ち。本物の掛布がきたらどないすんや、髪の毛ないで、青海苔振りかけへんてかい。

女2・鍋・釜 そらないやろ。

女1 坊さんが来たらどないすんや、禿やないぞ、髪の毛あんぞ、剃りあげてるだけやないか。

女2 ねえちやん無茶ゆうたらあかんわ、そんな店あらへんやろ。姉齒のオツサンが来たら鬘やて見抜いてパツ、てか。そんなことゆうたら、掛布はんおつじょうしまつせ。

女1 ほんまやて。

女2 ほんまやつたら、うちのいうのもほんまや。火遊びときたら夜遊びになるやろ。で、薪をくべたのは誰や。

鍋島 ほら、やつば火事ですがな。

釜田 ほつか、で、放火？

鍋島 そら判らんがな、消防か警察に聞かな。

女1 薪くべた？ 何でここで焚き火の話しになるんや。

釜田 やつば、お前か？ なんでそんなことすんや。

鍋島 あかんで、素人相手に、まだわからんて。

女2 スットコドッコイ！ 控えおろつ。この火盗改め鬼の平蔵を甘く見ると、痛い目を見るのは、お豊、その方や

ぞ。

女 1 お豊？ お加代から、お豊にいつなつたん。もうすきにシャンプし。

鍋島 ほんなら、お豊はん。

釜田 あんたを見込んで、お尋ねいたします。こんな人見かけまへなんだか？

鍋・釜 ピキピキピッキーン！ピキピッキーン！（と動き）

釜田 これ以上、薪くべたらかなんのや。

鍋島 これ以上、溶けたらかんのや。責任とんかい。

釜田 それとも、おばちゃん、あんたが薪くべたんかいや。

女 2 薪くべ、薪くべ、薪くべと、人身を煽り、国家転覆を企む輩は、その方に相違ないか！

女 1 へえへえ、相違おます。

女 2 この期に及んで二言を申すか。

鍋島 なにのたまつとん。シラ切つてる暇あらへんのじゃ。ええか、うちの財団は金があらへんの。どないこないゆつても、冷凍保存は金かかんねんや。アルコール・ライフ・エクステンション財団三千万円、クライオニクス研究所三百万円の向こうをはつて、赤字覚悟で冷凍保存引き受けるには、一遺体二百万きらな、応募があらへんのや。この値段では保存施設作られへんわな、当然や。そやさかい、南極の四万年前の氷河に入れとくゆつのはどないでしやる、とまあ企画出したんだ。どやええアイデアやろ、通つたがな。あなたの望む時代に、望む若さでもう一つの新しい人生を氷河の中で育みましょう！

釜田は、持って来たバケツの防火用水をかける。

鍋島 なにすんや！

釜田 落ち着け、熱さませッ！

鍋島 （落ち着いて）どや、ええキヤチゴピーやろ。ところがな、困つたがな、南極の氷解け始めたがな。脳死状態で預かつてた人体冷凍保存冷体が蘇生したがな。脳の超微細構造が、人類誕生前のウイルスに影響受けたんだすがな。そつとしか考えられん、恐ろしこつちや。こつなつたらシベリアの永久凍土でしやる。

鍋・釜 そうして、わたしは遠い西方の果てからこの地上の国へはるばると旅してきました。アンコール・ライフ・スミチオン・モンサント財団インストラクターの――

鍋島 鍋島です。

釜田 釜田です。ちやつやろ、べらべらしゃべるなゆつとんや。

鍋島 べらべらしゃべらんかつたら、ええんやろ。では一つだけゆつたるわ。シベリアの永久凍土までたどり着く経費ないんや。どないしよ、なんとかならんか。なつたがな、ここで、無理やり臓器の再生を目指します。大阪のおばちゃんのES細胞いただきたい。わが、アンコール・ライフ・スミチオン・モンサント財団人体冷凍保存冷体のために、活力あふれる大阪のおばちゃんのES細胞いただきたい。

釜田は、持って来たバケツの防火用水を再びかける。

釜田 アンコール・ライフ・スミチオン・モンサント財団の企業秘密をべらべらしゃべるな、しゃべり過ぎやゆつてんや！

鍋島 アンコール！

と、山ちゃんが「ドンドン、シユビ、シユビシユビルア、アーアーアアアア」とロックウイスキーのグラスを片手に出てくる。

山 (グラスの氷を鳴らす) クランケ……

釜田 グラスの底に顔があつたっていいじゃないか。人生の新しい門出に南極の氷でオンザロック！……どうぞ！

鍋島 ES細胞は、クローン動物作成に使用できる段階にまで到達しております。しかし胚の一部を利用するには取扱に関する倫理的な問題も生じます。よってわたしは、ES細胞取得という前言を速やかに翻し、これを成人の骨髓から取り出した「骨髓性幹細胞」に換えることを提言したのであります。では最適な成人とは、と問わねばなりません。それは、臆面もなく駄洒落を洒落と言いつけるあつかましいセンス、しゃべりだしたら止めぬテンポと饒舌、豹柄を恥ずかしげもなく着用しつつ精神的厚顔無恥、初対面の人を隣人と射程しつ

る距離感の破壊こそ、これらを兼ね備えた「骨髓性幹細胞」の属性こそ、言つに及ばず、移植後の雑菌を駆逐するでありましょう。ああ、なんとというエッネルギー！！そこにこそ、新たなる望むべき臓器が再生され、不死のありうべきバラ色の未来が約束されるのであります。そんな不老不死の臓器を提供したい。そのためこのアンコール・ライフ・スミチオン・モンサント財団は大阪のおばちゃんの「骨髓性幹細胞」が欲しい。どうしても欲しい。冷凍保存一体二百五十万円、安い、生体なら一ダラー、極安！

釜田は、持って来た防火用水を三度、鍋島を越して客席にかけるが、紙吹雪。

山 ドンドン、シユビ、シユビルア、アーアーアアアア、クランケ……

釜田 あほの相手やめて、はよ行こうか……どうぞ！
鍋島 阪急は阪神かい！

と、三人は「ドンドン、シユビ、シユビルア、アーアーアアアア」と退場。

女1 何のことがいつこうに。

女2 ええい、ならこれに見覚えがあるぞ。(と、甲冑を出す)この訴状によると、夜毎「薪くべはけつして滅びはせぬ、バーナで森も焼き尽くせ」と、奇声が闇夜に

女 1 響き、とある。お恋乃、どうだ。一言はつけまい。
それいうんなら「マクベスはけつして滅びはせぬ、かのパーナムの森の樹が」や。めちやくちや訛ってるやん。
女 2 ついに吐いたか！ どうや、少しは楽になつたと思つたが、全部吐いてまえ。えっ！ そのパーナの森とはどこの裏山のことや。
女 1 マクベス、マクベスやて。
女 2 発言悪いんちやつか。
女 1 マクベスッ！
女 2 発言悪いと温情を押し示したが、それもならぬとは強情なやつめ。
女 1 ほんまやて、マクベスやて。
女 2 ほんまほんまと、聞き飽きる。どこにほんまばかりつまつてる人生がありますんや。そんなんや、成り立ちませんやろ。ええな、ウソも眞の人生ならば、吠いてみせまひよ空花よりも美しく、騙る心は痘痕も笑窪の方便と、言えぬあの世は今日のうち。まいどまいどと余駅を預けて行過ぎる。ぼちぼちでんたと發けて流すは淀川で、流れて揺らめき舟を押す。もつまるで、まごころがたなき映して漂つ白雲や、ないかいな。だからもう、風に柳と吹く身の上に、ほんまほんまと、いきせききつて棹差すな。
女 1 なんやよつ分からんが、無理してるのはよつわかる、気がする、と思つたわ、たぶん、そうやろ。
女 2 それや。

女 1 雰囲気は何と分かるよつな、思いはなんとか、ここまで来るけど……
女 2 はつきりせんちゆつこつちや。
女 1 まあ、
女 2 ほんまかどつかわからんちゆつこつちやろ。
女 1 そうやな。
女 2 やつと吐く気になつたか。では素直に申すがよい。新しくべる裏山とはどこや。
女 1 マクベス。
女 2 ああ、パーや。なけなしの韻を踏んでまで苦勞したんや。
女 1 マクベスはどうゆつてもマクベスやろ。
女 2 二度も三度もまつたく、シエイクスピア翁の作なることぐらいは、知つてるわい。この火盗改め鬼の平蔵、何度も甘く見ると巾着袋だ。(と、巾着袋を出す)この巾着袋を、ただの巾着袋と思つなよ。ほれ、こここれ切つたら、どうなるか知らんぞ。ならぬ堪忍、するが堪忍、それでも余る堪忍は、この巾着の中に入つてもろつてきましたんや。どや！
女 1 やめてエ！
女 2 やめてやと、ねえちゃん余裕やないか。
女 1 あほらし、やめて以外なにゆつん。あほちやつん。
女 2 あんたそれはゆい過ぎや。人間き悪いやないか。
女 1 もつ我慢でけん。黙つて聞いているだけやと思わんといてや。
女 2 あまりの展開に、頭にきたな。頭突つ込んで、そんな

とこに入るんかい。巾着袋放りばなしで、ほっぼいて
どこに行く気や。このネタどつするん。
女1 ワイワイ、どや、どや。どや、こつする。(と、箆笥
から靴下を出す)
女2 よつまあ、そんな都昆布、箆笥に隠してたこつちゃ。
女1 これどつしたら都昆布に見えるん。
女2 ブラブラ振つてみ。ほら、そんな箆笥預金はない。
女1 箆笥預金やない。見てのとおり絹の靴下や。シルクや。
女2 夏木マリがどつしましたんや。
女1 こちやこちやいわん。闇夜に、絹を裂くよな女の悲鳴
や！
女2 ついに奥の手出してから、自分で出されへんのやる。
悔しかったら、自分で出してみてみい。
女1 ええんやな。
女2 そんなもつたいたいこと止めとき。あたしが出したる。
家でやと、なんなど使い道あるやる。な、そうし。
女1 女が一旦、下着出したんや。もつ止めれん。人生一度
は、絹を裂くよな女の悲鳴の例えより、ホシマもんさ
せてもらいます。さあ、どのくらいの高周波でいきま
しよか。ご要望におこたえさせていただきます。
女2 好きにせえ。
女1 この高周波、電磁層まで届けと、思いのだけで参りま
す。ホントに、参ります。
女2 またホントいいよつたッ！ あかん、あかんやる。隠
し弾だせゆつんやな。よろしおます。ご期待にお応え
しまひよ。

女1 勘違いしてるやん。持つて行くどこ間違こつてる。品
評会してるんちやつんやで。
女2 どや(と、買い物籠から絹こし豆腐をたす)。
女1 どやとはどや。
女2 絹は絹でも絹こし豆腐や。おそれ入れ。
女1 恐れ入りました。絹の靴下に、絹こし豆腐を、てらい
なく差し出す、その発想と勇氣に恐れ入りました。
女2 一言多い。
女1 明日の朝の味噌汁の具や。その豆腐さを名のある絹こ
し豆腐やるなあ。さすがやねえ。どこで買うのん。ひ
よつとして、大豆より二カ리가超一級品ちやつん。当
たりやる、当たつたやる。隣近所とは訳がちやいます。
海洋深層水からの恵み「にがり清国」。
女2 お園、おばちゃんの特技を教えようか。
女1 結構ですよやけど。
女2 遠慮いたすでないない。
女1 めつそうもおまへん。
女2 長らくお邪魔したのう。もうすぐ失礼をいたす。さて、
何を隠そう、わたしの特技はこの豆腐の角で、頭を力
手割ることぞ。できるなら、ひとこと、ついにひとこ
と「あ、痛い」と叫びたいのさ。量のメを汚すが、堪
えてつかあさいよ。マイ、フレンド、救急車はいりま
へんで。
女1 何考えてん。
女2 色々、一杯。
女1 ちやつやん、そんな豆腐の角で、頭を力手割つてやで、

どつなんのや。そらまるで、あれやん、つまり、その、
変人以上やん。

女 2 天才か？

女 1 すんなり言えたら、ゆづがな、つまり、だから、分か
るやろ。ええいクツン。

女 2 だからッ、思い切れッ！ どつや、こつして無心にこ
の柔肌の一点に目をやると、身もだえすんやろ。その
身もだえを思い切らなあかんのや。見てみなはれ、こ
のなんともいえん、三次元のコーナー。人生そのもの
やなあ。互いに九〇度でガツブリ四つや、いやガツブ
リ三つのミステリアストライアングル。身動きとれま
へんのや。身震いしてしようない。行き場を失い、引
くに引かれず立ちすくむ。人生やなあ。涙やなあ。笑
いやなあ。情念が渦巻いてるなあ。ゆづに言われず、
涙した朝もあつたはずや。わかるで、ようわかる。泣
くに泣かれず涙をかんで、こぼす笑顔がほろ苦い。思
わす叫びたい瞬間もある。そらそうや。そうやろ。な
そうやろ。

女 1 なにゆうてん。豆腐の角の他愛もない話しを、面白
かしくすんのも、ほどほどにして、はよなんとかし。

女 2 山折哲雄はんかてゆうてるんや。日本近代の壮士節は、
山田平平に引きつがれ、古賀メロデーによって甘く
ささやかれたが、その情念はついに美空ひばりによつ
て完成された。これが演歌や。わたしの身もだえを、
ついに思い切る、この思い切るのが情念や。情念はや
がて己を物語る。そうして、この他愛もなく見えるか

もしれない、切ない人生が、身震いする物語によつて
浄化されんや。いわく言いがたいはかなさよ、例えよ
つまないもののあわれよ。わたしの愛してやまぬ無常
よ、すべてを語りつくせ。(間)なんかいえ。

女 1 すんなり言えたら、ゆづがな、つまり、だから、分か
るやろ。ええいクツン。

女 2 ここまで持ってきたんや。今日こそなんとかせえ。あ
んさんが今日用意した、絹の靴下は宵闇の水面に映る
満月や。

女 1 そんなことあらへん。あたしの高周波は電磁層を突き
ぬけ、満天の煌く星座へ乱反射のごとく交信をかわす
のです。電波の赴くままに……

女 2 水面に映る満月は舟浮かべたらおわりや。

女 1 (ついに、買い物籠を漁る。意を決して買い物籠を掲
げる)でも、でも、でも……それでも……、
ポツカリ月が出ましたら、
舟を浮かべて出掛けませう。
波はヒタヒタ打つでせう、
風も少しはあるでせう。
沖に出たらば暗いでせう

女 2 權からへルビしたう、滴垂へルビする水の音はへル
ビちか、昵懇へルビしいものに聞えませう、

女 1 あなたの言葉の杜切れ間を。

中原中也「湖上」から引用

女2 そんなに揺するんやない。
女1 この大阪のおばちゃんの違い物籠はそんな舟でありました。
女2 そうやトム、そつや(「トム・ソーヤ」)
女1 まじめに。
女2 このまじめなおばちゃんを捕まえて、なにゆつん。
女1 では生真面目に。これは大阪のおばちゃんの違い物籠でした。
女2 大阪のおばちゃんはその籠持つからこそ、大阪のおばちゃんは大阪のおばちゃんなのか、その籠が大阪のおばちゃんを仕立てるのか、籠が属性か、大阪のおばちゃんが属性か、それは、華やかな、長い、それでいてあつかましい、栄光の大阪のおばちゃん史の暗部に隠れ、後先ありません。
女1 では、いわばこれは大阪のおばちゃんそのものですね。
女2 まつこと、御意。
女1 そんな大阪のおばちゃんの懐に、水が滴る櫂を挿し、それでも漕ぐ手は止めないで、上に下にとかき回しませう。そうして取りい出たしますは、これ、「黄金のゾウリ」であります。
女2 あんさん、お国は？
女1 河内です。
女2 そこでは、薄揚げさん「黄金のゾウリ」ゆつん。
女1 いいえ。
女2 でまかせゆつたらあかんわ。
女1 常光寺界限向こつ三軒両隣では、小さい頃から「金の

ぞつり」と言いました。
女2 そんなアホな、笑われまつせ。河内音頭16ピートで踊られへんて。
女1 常光寺の本尊は地藏菩薩です。お稲荷さんではありません。お揚げさんはお供えできまへん。そこで、南北朝時代の御世の昔から、お地藏さんのお御足を守るため、この「金のぞつり」をお供えするのです。
女2 へー、よつできた、ホントのよつなはなしやな。
女1 いま、ホントといたしましたね。
女2 えつ？
女1 そんな返し文句は、「黄金のゾウリ」のまえでは、かたつきです。

女1は女2の左手に「黄金のゾウリ」を置く。

女1 さあ、絹ごし豆腐に「金のぞつり」を履かしてください。
女2 えらいセンスやなあ。
女1 おばちゃんの見想ではついてこれまへんか？
女2 どうなつても知らんで。厚揚げならまだしも、巾着になつて、お餅に成済ました絹ごし豆腐が鰹出汁に染まるなら、ああ、やつと帰れたその巾着の、堪忍袋の緒を切るが、それを承知でええんやな。
女1 覚悟の上です。
女2 それでは参ります。マイ、フレンド、豊のメを汚すが、堪えてつかあさいよ。

女1 自信があります。今夜はそんな気がしています。絹の靴下から、袂拍子もなく呼び出して、てらいなく差し出す、勇気に満ちた絹こし豆腐の情念を頂けたら、そいつにのしをつけてお返しできるかも知れません。

女2 南無八幡、えべっさん。お願いしまっせ、メリケンはんツ！

と同時に、女2はすばやく左手の薄揚げを、右手の絹こし豆腐に重ねる。続いて同時に、両手の天地を逆転。下から左手、薄揚げ、絹こし豆腐となる。女2は左手を掲げている。
同時に、音楽。

女1 それが「黄金のゾウリ」です。絹こし豆腐が「黄金のゾウリ」を履いているのです。最高やないですか。それこそ、ついに美空ひばりの向こうにたち現れたれた、もう一つの演歌の可能性の姿です。今絹こし豆腐は情念と化し、身もたえしながら思い切るつとしています。

女2 えっ、ウソ！

女1 大阪のおばちゃんには見えへんのですか？

女2 見えるとか見えんとか、そんなお話しやないやろ。大阪のおばちゃんはここで感じるから、それで十分や。

女1 そつです。よくできました。

女2 ありがとさん。

女1 できるなら、ブルンと、少しだけブルンと、震度3.5でブルンとッ

女2 ブルンツッ！ どつや？

何も動かない。

女1 もう少し強く。

女2 あいわかりました。それではブルン！

女1 ブルン！

女1 2 ブルブル、ブルン！

ここでブルンと動いたのは、女1と2であった。

女1 身もたえをふん切って、思い切ります。マグニチュード7.1で

同時に、音楽。

女1 2 ブルブル、ブルン！

今度は、絹こし豆腐がブルンと動く。

女2 ブルンやで、ブルンや！

女1 おばちゃん、思い切った！

女2 身動きとれまへん。身震いしてしよつない。

女1 身震いしているのは「黄金のゾウリ」を履いた絹こし豆腐です。

女2 なんともならん。
女1 おばちゃんの思い切りと絹こし豆腐の身もだえがブルルンです。
女2 ブルルン！
女1 語り始めましたか。笑っていますか？
女2 人目には可笑しかろう。だが、自分では笑われへんわい。
女1 泣いているのですか。
女2 どっちか言えば泣きたい気分や。
女1 泣いてください。

女2は泣く。それは文楽の義太夫語りの、あのあきれ程ためた泣きでいある。

女1 お待たせしました。豆腐の角で、頭をカチ割るのは、今です。
女2 (絶叫で、豆腐の角での頭のカチ割り)！

音楽 カットアウト。

女2 あ、あ……
女1 見えますか。
女2 何が？
女1 大阪城が、バーナムの森が、倒壊した高速道路が……
女2 あ、あ、あ……あかん。痛ない。豆腐の角が欠けてもた。

女1 聞こえますか。
女2 何が？
女1 それは、つまり、踏み切りの音が、カントリーソングが……
女2 キーッ！ ウソ、なにこれ、ッ！と伝わるこの冷たいもん。
女1 えっ？
女2 何ということだ、この手は？ ああ！ 今にも自分の眼玉をくりぬきそつな！ 大海の水を傾けても、この血をきれいに洗い流せはしまい？ (と、豆腐の拳をペロリ)
女1 情念みせて、もつと語り！
女2 優勝メザシ！
女1 なんなんそれは？
女2 分かった。単純やん、出会いがしらはあかんわな。この買物籠持つの忘れるとは、まあ何とおこがましい。不遜でありました。まったく失礼小金治。
女1 なにゆつてますん。これ大阪城やる。感じたやる。バーナムの森が動くんなら、大阪城かて動くゆつたんはあんたやる。
女2 これ大阪城なん、何となんと(南都雄二)。大阪城が黄金のぞうり履いてんの。
女1 ……おばちゃんあんた、違つ言い切れるん。
女2 ひえー！
女1 語の真の意味で、違つと護証できるん。
女2 ひえー！、それは詭弁やん。

女 1 詭弁を逆手にとって、それは大阪城でおます。

女 2 この黄金のぞうりの上に鎮座しますと、あたいがトマトを載せると、これはトマトであつて、すでにトマトでなくなるのでしょうか。トマトソースでもいいのですね。すると、絹ごし豆腐はいつ大阪城になつたのでしょうか？

女 1 それは戻り値なしの詭弁のブラックボックスです。

女 2 三度、ひえー！ ついにこの黄金のぞうりは変数ですか？ 変数値が日本だとすると、それは日本であつて、すでに日本ではないのですね。思わず標準語してしまいました。それは大阪であつて、すでに大阪でないのですね。これはそんなソースコードでありましたんですか？

女 1 天神祭りの宵宮に……

女 2 天神祭り？

女 1 あてがな、菅原運真はんお迎えに上がり、お旅所にお御連れする、御迎船の舳先のお迎人形やつたころ、大川の水面に映る大阪城はものごつつつ綺麗やつたなあ。ところが大阪城はん、水面でゆらゆら揺らめくだけやないんや。御迎船動くやろ、すると大阪城はんも、一緒に来るんや。そんなあほなことあるかいて、奉安船に、供奉船にも、奉拝船にも聞いてみたんや。するとみんな、大阪城はんと一緒に、後ろきてはりまつせと口をそろえてこともなげにいいよ。驚くには驚いたが、大阪城はんもお供をすとは、さすがは天神祭りや、船渡御やと感心したもんや。

女 2 そう思つたのは、あてだけやおまへんで。氏子総代、浴衣仕立てでお参りに来ていたみんなかて、そうやつたど。

女 1 通天閣かてゆうた。

女 2 なら、水面の上に、なげなしのわずかな思いを投げて、川底見上げた夜空に、あんたはいつたいどんな星を出したんや。

女 1 バーナムの森が動くんなら、大阪城かて動くど。

女 2 確かにゆつた。ゆつたことになるんやろつな。

女 1 そんな、それは無責任やん。

女 2 オープンソースは、自己責任はあるが、あんたへの責任あらへんわい。

女 1 もてあそんだな。

女 2 もてあそばれたな。

女 1 それでも大阪城は動く。

女 2 アイスピック代わりにカチ割り氷作つたこの頭が、豆腐の角で、カチ割れたら、きつとなんでもみえるやろつと、あんたに大貝得切つたのは、この大阪のおばちゃんや。

女 1 あてには見えへんのや。

女 2 バーナーで焼きつくすんは大阪城か？

女 1 そうやな、なくなるんやから、動いたのかも知れまへん。

女 2 お忍つ、ついに吐いたな。

女 1 もつええて。火盗改め鬼の平蔵受け継いで、今夜はいつもと違つて、とつておきの絹の靴下で、あんたの十

八番の絹ごし豆腐を導き出しました。そんな絹ごし豆腐に「黄金のゾウリ」を履かせることができたのは、修行のたまもの、それもこれも大阪のおばちゃんのおかげであります。感謝申します。申しませんが、動くくなんだ。

女2 お仙っ！

女1 ……

女1 半身阪神フアンの田淵はんっ！なんですか。

女2 半身阪神フアンの田淵は、半信半疑の田淵でもありましたが、ご無沙汰している間に、全身全霊の田淵となりました。

女1 全身全霊の田淵はん。

女2 はい仙ちゃん、何ですか？

女1 プルプル、プルルン！ はなぜだめだったのですか？

女2 それはお応えできまへん。環境が違います。

女1 環境？

女2 仙ちゃん！ 自己責任でやってみますか。

女1 自己責任で！

女2 今日もまた「あ、痛い」といえんかつたこの全身全霊の田淵に成り代わり、一言「あ、痛い」とゆつてみまへんか。

女1 まいどです。

女2 不肖この全身全霊の田淵、音頭とります。よろしいか。

女1 お願いします。

女2 ええー、さてこの場の皆様へえー、ちよいと出ました私は、お見かけどおりの若輩で、ヨイホイ、ア、エン

ヤコラゼー、ドコイシヨ……

女1 はよせえ。

女2 黄金のゾウリ、お履かせください。行けーッ！

と同時に、女1は新しく買い物籠から出して用意していた左手の薄揚げを、右手の絹ごし豆腐に重ねる。続いて同時に、両手の天地を逆転。下から左手、薄揚げ、絹ごし豆腐となる。女1は左手を掲げている。

女1 いかがでしょうか。

女2 まあ、そこそこではないかと。

女1 では、プルプル、プルルン！ 行きます。

女2 まつて！

女1 え？

女2 右手に！

女1 右手に！記憶の向こうに！ 忘れ去れぬ憤怒をッ。

女2 これや(と、イカリソースの容器をテーブルの上に置く)

女1 え？

女2 クラスや、継承し。

女1 意味わかりまへん。

女2 人生わからんかことはしこたまあります。いちち、すべてわかつたら、細木数子の商売上がったたりや。

女1 イカリ、ソースですね。

女2 色々あるやろ。肝心なのは、プルルンで体ゆすつたら

あかん。揺るのは絹ごし豆腐。あんたの体動いたら、その容器の中身が動くからすぐ分かる。ええな。

女1 はい。一つええですか。

女2 何ね、仙ちゃん！

女1 見てくれはいかがでしょうか。

女2 あんた何に拘ってるん。

女1 視線に晒されるこの想像力は、コミカルですか。それとも、そこそこ絵になっていますやるか。

女2 知らん。だれも見てへん。でもな、世間のみなさまには訊かんととき、黙つとき。いろんな誤解を生んでもしよつないで。とりあえずその自意識には笑顔で応えと

き。

女1 無矛盾ではないのですね？

女2 豆腐にソースは、矛盾ではないわな。少々の変和で、二の足踏むわな。

女1 少々の変和感に耐えて見せます。

女2 仙ちゃん！ あんたなんか文句あんのやる。それでもごちやごちやゆわん。

女1 はい、こうなつたらこの身もだえを、黄金のソウリを履いた絹ごし豆腐に送ります。そんな身もだえを豆腐の中で、ブルルンと揺らめかせてこらんに入れましょつ。ブルルンにブルルンを増長させ、臨界点のその瞬間、絹ごし豆腐が思い切つたその瞬間を見切りましょつ。それは豆腐の角に、この頭を預けた瞬間です。見事、絹ごし豆腐の角で、この頭力ちわつてご覧にいれましょつ。そのとき私の情念は「あ、痛い」と語るの

です。

女2 今の仙ちゃんなら、きつと出来る。

女1 全身全霊の田淵はん、それでは自己責任で参ります。

女2 お供します。

女1 (間)ブルルン！

と、音楽。女1は豆腐の角に頭をぶつつける。

女2 ブルブル、ブルルン！

と、女2も豆腐の角に頭をぶつつけた。

女1 あ……

女2 あ、あ

女1 あ、あ、あ……

女2 仙ちゃん！

女2はすでに豆腐から頭を離している。

女2 頑張らんかワレ！

女1 あーっ！

女2 ……

女1 あい、あい……

女2 聞こえん。もつと大きな声で！

女1 あい、あいッ！

女2 愛では地球救われん。「あい・た」や、「た」た抜き

女1 すんやない。あいた、で血を流せ。
女1 出来るなら、「た」が出ぬ悔しさで額の上から血の涙を流したいほどです。
女2 仙ちゃんそれや。まだ、その絹こし豆腐、額から離すんやない。いま仙ちゃんは身もたえしてますんや。静かにそつと、てらいなく絹こし豆腐に思いをはせてみて。聞こえるやろ、絹こし豆腐の呟きが。聞こえるはずや。それを、あんたの口で物語っておあげ。絹こし豆腐の身もたえを浄化してあげな。あんたしか、でけしまへんのや。ここですて行きたいんやろ。置のメともおさらばや。
女1 全身全霊の田淵のおばちゃん。
女2 目えつむるんやないで。息止める。
女1 全身全霊の田淵はん！ …… 国家とは。
女2 なんやて、こんな時になにでんこゆつてんや。笑われへんて、そんなギヤグ、東京弁に任じとき。死語、死語や。
女1 死語のようなギヤグに付き合ってきたんはあたいや。国家とは！
女2 後藤はん！ それはあたいの台詞や。しつかりしい。
女1 あんたの口癖、物まねしただけや。なんか知らんが、今のうちなら応えられる気するわ。いつものようにがまんするから、やつて。
女2 知らん。
女1 お別れすんのが怖いんか？ もうこうして二十年も三十年も付き合ってきたんやから、これが潮時やろ。

女2 なに意地はつてんや。置のメ、そのテーブルの下残つてんで。あんたには重とつて一人で動かされんやつたんやろ。知つてんで。ズーと「一緒に動かして」て言いきびれてきたの知つてんで。おみとつしやて。
女1 それでも、ホンマモンやつて。
女2 息止める。ホンマ、ホンマとゆつてんやない。国家が、国家足りうる骨格としての属性とは。
女1 一つとして軍隊。
女2 さらに！
女1 一つとして貨幣。
女2 さらに！
女1 一つとして権力。それがすべてです。これらの鉄扉面を剥くとそこには恐怖という二文字が静かに眠っている。これをロマンという。
女2 …… 模範的な解答ありがとうおました。どんな本読むとそんな骨董品みたいな、呪文に出会うんだす。天牛にかてそんな古本もつないで。そんな暇あるんやつたら息止める。
女1 なんが息苦しいわ。
女2 後藤！
女1 全身全霊の田淵はん、なんだすやろ。
女2 仙ちゃん、そんなんや大阪城は動かへん。息止めな動かへん。
女1 誰も、動くと思つてへんがな。わかってるで。もうええて。やつぱり、「あ」で、「い」やつたんやて。
女2 そんなもん、軽くうちやつて、軽やかにジャンプすん

女 1 軽くうちやつて、軽やかにジャンプ……

女 1 はガクリと崩れ落ちる。ソース、纏こし豆腐、薄揚げはそのまま。
この女 1 の「ガクリ」と同時にオルゴールの音静かに入る。

女 2 軽やかにうつちやてな、ジャンプせなな。琴ヶ浜の内掛けを見事にかわして、大見得切つてもええで。そうすると、バーナムの森が動いたくらいやから、大阪城かて軽く動くやろ。そら動かんかったら、あんたの方から、近づいてったり。なにゆうてんや。詭弁やあらへん。動くというのは運動の問題やあらへん。相対的な位置の問題やから、距離がちしんだゆうんは、関係が変化したということだつせ。それが動くゆうことだ。しかしやな、この興の手使つと、後先わからんなんので、結果を保証でけんゆうんが、なんともならんとこで、人にはよつ勤めんのやけど、それでもかまんゆうなら、そらもつあんさんの勝手だすさかいにな。よつは、あんじょう気張つてもらわなならんとゆうことですわな。

オルゴールがやけに物悲しく聞こえる。
女 2 はオルゴールの流れるなか、豆腐を食べる。

：【注記】文中のハンゲル・マクベスは養姫止さんによるものです。また、大分弁は藤野茂さんによる謝意を表します。

「 7 章 」

オルゴールの中、女 1、2 はそのまま居る。こゝ婦人達いつの間にか各所にある。こゝ婦人達は、旅行用のカバンをそれぞれ持っている。

鍋・釜 もしもし、どないしましたんや。
蔵王三山 こんなところで居眠りして、風邪ひきまつせ。
婦人達 しつかりしなはれ。
五色 まあ、そらなんだ。手の上に御揚げと冷奴載せて、まさか、あんさんその口の中にお味噌入れてんやないやろな。
熊野 こらまた、あんさん家のお味噌汁の出汁はソースですかいな。そう、ソースなどという駄洒落は、辺見まり。
刈田 それともイタ飯系。
女 1 ……

五色 なんなん、その変に尊敬した眼差しは。
女1 おはようさんで。どちらさんですやる。
刈田 まあ、なんと、挨拶できるよつになりましたやないか。
熊野 そうでつか、そらよかった。
五色 これであてらも、心置きなく旅立てますがな。
蔵王三山 では。
女1 そらまあ、ご丁寧に。おはようさんでした。
婦人達 おはようさん。
女2 おはようさん——ではありまへんで。あんさん、まだ
日い越してまへん。
女1 で、御用は？
女2 そう直球投げられても。いや、見るからに、ダイエツ
ト成功したんやなて。スリムになったやん。何井口落
ちたん。
女1 七キ口。
女2 ウソこけ、ごまかせるんなら、こんばんわ。
女1 どちらさんですやる。
山 (ドイツ語) 語呂巻力。
釜田 なめたことゆつとつたらあかんで。わたしはアンコー
ル・ライフ・スミチオン・モンサント財団の語呂巻力
や！……どうぞ！
鍋島 みなさん。さよならば、いつまでたつても、とても言
えそうにありません、私にとって、あなたは今も、ま
ぶしいひとつの青春なんです
釜田 なにゆつとん。なんちゆつ意識すんや。ええ加減にし
い。

鍋島 8時ちよつどのあずさ2号で
鍋・釜 私は 私は あなたから旅立ちます……
山 (ドイツ語) はよ行くで。
釜田 ええ歌やないか。特に釜ちゃんの声に張りがある。旅
立ちにはお似合いや。特に今日のはええ、さあ、行き
ましようか……どうぞ！
鍋島 ええ歌やないか。特に鍋ちゃんの声に張りがある。旅
立ちにはお似合いや。
釜田 もつええ、ここにあんさんを連れてきたのは間違
いやつた。頑張つて関西弁練習したのに何もなれへんか
つた。どないしてくれるんや！誰が責任とるんや！み
んさい、ご覧のとおり何にもおまへなんだ。焼け野ヶ
原や、もつペンペン草かて生えくんやろ。納得して
もろたと思います。行きまひよ。……どうぞ！いやちゃ
う、用意はできましたな。あなた方の、時間の解凍旅
行は、終わりました。
鍋島 行きまつせ。
蔵王三山 はい。さよならば、いつまでたつても、とても言
えそうにありません、私にとって……
鍋島 歌わんかてええ。
釜田 ……何か未練があるよつですが、皆さんいかがいたし
ましたか？
鍋島 ピキピキピッキーン！
蔵王三山 ピキピッキーン！
鍋島 あなたがたはここに居て付くつもりですか？
釜田 カバンは持ちましたか？

蔵王三山 はい。

鍋島 準備は！

蔵王三山 ピキピッキーン！

釜田 ここであなた方を解凍するわけにはまいりません。旅立ちが事故だったのです。したがって現状は手違いのままなのです。

鍋島 何十年も、冷凍保存のなかで閉じこもっていたあなた方の、しばしのカバンはいえ、カバ、バカ、バカンスは、終わりました。

釜田 まいります。

鍋島 カバンは持ちましたか？

蔵王三山 はい。

釜田 バカンスはもちましたか？はい。では！

蔵王三山 ピキピッキーン！

刈田 でも！

蔵王三山 道に迷ってしまいました。

山 (ドイツ語) 吉野をのがれて、生駒の山中を義経一行が行くよ！

釜田 迷う人生など馬にけられて後ろ足、それが右足であるうとなかろうと、後ろ足で砂かけんかい。すると、前足は手かと問うなかれ、雑念！……どうぞ！

鍋島 迷える人生があるうちはいい。そこで閉じこもるのは籠城戦である。だが、わがアンコール・ライフ・スミチオン・モンサント財団は貴方に、そして貴方に、リセットした純白の明日を、不老不死のもう一つの人生をお届けしましょう。

釜田 そのように貴方の手にカバンを持てば旅立てるわけはありませんね。心の準備を！

蔵王三山 では！

刈田 後ろ髪を引かれないために――

山 (ドイツ語) ポエムがポエムを産み、それがいずれ現実となるなら、それはポエムなのか、それも現実なのか、するとポエムとは現在であるのか。

釜田 この語呂巻力の前で、髪の話はすんやない……どうぞ！

鍋島 風の予感です。

熊野 ささやかですが、一つの思い出を置いて行きたいと思います。

五色 しばしの時間をお許してください。

刈田、熊野、五色はカバンからワンカップをそれぞれ二つずつ出す。刈田、熊野は女1と2に渡す。五色は祭壇に置く。刈田、熊野、五色はワンカップの蓋を開ける。

刈田 思い残したワンカップでの乾杯です。

熊野 熱燗ならなおのことよかつたのやけど、それはまたのことにしときまひよ。

五色 さあ蓋を切つて、ちじめていっとワン切つて！

女1 なんに乾杯をしましょつか？

五色 貴方の一番嫌いなアングラ(=物語)に！

女1 では黙して乾杯！

女1、女2、刈田、熊野、五色は飲む。同時に酒しぶき。

同時に音楽。

二婦人達は退場のゆっくりした動き。それはブローグの動きと重なる。

女2 鳴ってんで。

女1 え！いつから鳴ってんの！

女2 ずーと鳴ってんがな。ずーとな。

女1 はい。

と、女1はワイヤーレスマイクをつける。

女1 参ります。CQ CQCQ-

と、音楽入る。

女1 CQ CQこちら7Mヘルツ、出力5^{ワット}、試験電波発信中、JE3……いやコールサインはありません。メリット5で極めてクリアな方、特にメリット1の混信中のあなた、タヌキなどやめて発信願います。てなことを二十年前はやっていましたが、いまは貴方も、私も片手で出来るネットラジオです。ネットラジオの開局時間が、今夜もやってきました。全世界のリスナーの皆さん。お元気でしたか？ お変わりありませんでしたでしょうか。相変わらずの騒がしいシャ

ンプで、いや石鹸で、いやいや世間で、ホイホイホイ、快調のオヤジギヤグ三段論法とばして、相変わらずのわたくしです。それでは、独断と僥見で選ぶ、田淵はんのお気に入りチャットのコーナー。まずは、チャットネーム大阪の後藤さんから。なになに、独立しました。遊びに来てね。パスポートもビザもいりません、そこんとこヨロシクッ！ どうやら海外結婚で日本を脱出する模様です。ウソー、独立しましたが、国ではありません。わたくし後藤は、日本から独立した世界市民です。日本語表記住所、大阪府大阪市。皆さんも気軽に独立してねーエ。……

こら後藤、もっと詳しく説明しろ。

それではもう一つ。イギリス沖の北海、シーランド公国からのチャット。ハイハイ、わが国の国土は海の上、バスケットボールのコート程度、1967年9月2日に独立してからズーと快適よ。モジヨ使えるようにしようかな？ 独立記念パーティするよ。P2Pよ。こらわれ勝手にハイハイハイ。

おつと、後藤はん、イラッシャイ。なになに、もっと気楽に…… 国家とは、一つとして軍隊……

と、ガリガリキーンと混線音。

女2 CQ CQ……こちら7Mヘルツ、出力5^{ワット}、試験電波発信中、JE3……いやコールサインはありません。

鍋島・釜田 道に迷ってしまいました。

蔵王三山 人生の道に迷ってしまったのです。

婦人達 迷う人生など馬にけられて後ろ足、それが右足であるとなかろうと、後ろ足で砂かけんかい。すると、前足は手かと問うなかれ、雑念

女1 ブレイク、ブレイク。混線、混線やて。

と、混線音やむ。この後、混線が起こり止む。

女1 少々焼け気味の田淵のおばちゃんです。面倒くさいんで音声チャットに切り替えます。登録IDお持ちの方、もうバンバンきて、バンバン。お相手くるまで、こちらから。三子三子道ちゃん聞いてますか。

女2 CQ、CQ……こちら7Mヘルツ、出力5ワット、試験電波発信中、JE3……いやコールサインはありません。……五尺七寸……いまだ出会わぬ多くの人々へ、来る日を夢見て試験電波を発信します。CQ、CQこちら7Mヘルツ、出力5ワット、試験電波発信中、JE3……いやコールサインはありません……

女1 後藤ちゃんですよ。聞こえてますか？途中でメニュー、それは一つとして貨幣……一つとして権力、これらの鉄扉面を剥くとそこには恐怖という二文字が静かに眠っている。これをロマンという。言葉を変えれば恐怖とは情報のことですよ。ですから気楽に……

女2 クリアー5、いやクリアー1、このメッセージをメッ

セージ下さい。星座の煙く乱反射にも似て、電波の赴くままに、メッセージ下さい

婦人達 迷える人生があるうちはいい！

女1 ……わたしは今日まで生きてきました。一回コツキリの生しか生きることしかできないながら、だがそれを決して他人とは取替えのできない固有の理由で。あなたもまた、そのようにして大いなる流れの中で、美しい沈黙……それはあたかも、いま漆黒の闇に閉ざされながらも（天空高く一本の指を大らかに突き上げる）ひとたび天空高く舞い上がればそこは満点の煙く星座、数え切れぬ星の輝きがあると信じられるほどの確かな思いを込めた沈黙……そのような美しい沈黙を秘めてきたのであろうと、わたしは今、そんなあなたに想いを馳せます。そこではあなたはきつと、十全に孤立し、自由に食べ、十二分にクソをし、そして考えて生活している個人でありたかつたのだと確信します。ですからあなたは、勇気に徹しぬく諦念を、孤独という寂寞を、ものの憐れという憐憫をこそ、美しい沈黙に秘めさせなければならなかつたであらうと推察します。ときあたかも、大いなる流れのなかで美しい沈黙を秘め、なおその美しい沈黙に、勇気と孤独とものの憐れを、あらかじめ名付けることを諦観してしまったロマンとして秘めることで、二重の秘め事を秘めてしまったもの言わぬ、それは大いなる流れではなかつたのでしようか。

女1はテーブルからゆっくり落ちる。このとき、
二婦人達はその背後で、女1の六分割の動きを
再現。また、この女1の動きはプロローグのテ
ーブルから落下する動きの再現である。
二婦人達退場。

女1 ……だが、いえだからこそわたしはあなたに宣告しま
す。もう帰るべきロマンはないのだと、美しい沈黙と
引き換えに、帰るべきロマンの通路は取り払われてし
まったのだと。未だ命名されず無名性の中で佇む美し
い憂愁の沈黙よ、大いなる流れとはかくもしたたかで
あります。
……
だから、気楽にジャンプ。そして静かに一言「It beg
ons independent.」。これですべてが始まります、
かも。
女2 聞こえとりますか、大阪のおばちゃんですか？
女1 毎度！
女2 オイド！で、それで、あの、そのやな……
女1 なんやねん。
女2 大阪城、動きましたか。
女1 ホイ、ガタンゴトンヤ。
女2 田淵はん、大阪城空飛びましたか？
女1 あんさん、そら環状線に乗ってみなはれ。
女2 またこの勿体つけて、腐りませ。
女1 はいはい。

女2 はいは一回。
女1 一二三で眼つむりなはれ。行きませ。一、二、三—
と、音楽大きくなった。

女1 じや。
女2 待ち。
女1 じやて。
女2 あんた、聞きたいんか。
女1 別に。
女2 ほな、止めとくわ。
女1 イケズすんやない。
女2 そやな、
女1 ふん、
女2 まあ、これは言わずが華や！
女2 わーはっ……
女1 わーはっはっ……
女1² わーはっはっはっはあっ……(笑い。その笑いは文
楽の義太夫語りの、あのあきれ程長い笑いである)

混線の音。

女2 ところで今日やる。
女1 何が？
女2 ああ、しらばっくれて。インターネット投票や。締め
切り今日やん。結果でたんやる。聞かせて。

女1 それでは、全世界のリスナーの皆さん、お待たせしました。あなたの、あなたの、そしてあなたの待ちに待った、発表の時間です。ファンファーレ。

女2 え？ (と、ファンファーレ).....

女1 集計結果第四位6431、河内音頭「河内十人斬り」、第三位6433「レット・イット・バイ」。

女2 ヨッシャー！ 来た来た。浜風に乘って来い。

女1 第二位6440、「六甲おろし」。

女2 なんなん、途中経過ではなかったやつが一位になったんか。そら可哀しいで。

女1 え、ここでお知らせします。この第二位の「六甲おろし」、その健闘を称え、わが国の応援歌と決定しました。

女2 ヨッシャー！ ヨッシャー！

女1 では、栄えある一位、カントリーソングの発表です。

女2 (と、ファンファーレを弾く).....

この女2のファンファーレの中、音楽と混線音
 が大きくなる。女1の発表曲名が聞こえない。
 また音楽等元に戻る。

女1(手話で「エイ・ジュード」と言わざるをえなかつた)

女2 拍手！

女1 それでは.....

女2 あのな、この曲まだ著作権あんのんとちゃつん。つま

り国家行事のたびに著作権経費発生することになりませ。大きな財政負担やで。(と、演奏の準備)

女1 それは大丈夫や。亡くなった日から数える、著作権切れの期日は、明日でちよつどになります。

女2 そう。

女1 それでは国家斉唱をして、今夜のネットラジオを終わります。ではシーゴト・アゲイン！さようなら、グッバイ、またね、再見、タイアーモ、タイアーモ、タイアーモ！(手話で「さようなら」、ハングルで。広東語で、イタリア語で、フランス語で、ドイツ語で、スペイン語で.....語等々と続く。メルシー、アモーレ！アモーレミオ！タイアーモ、タイアーモ、タイアーモ！)

女2は演奏。女1は歌つ。

もつおさらばさ
 おもいなやむのもいい
 軽くジャンプして、
 流れに掉さずのもいい
 軽くいつのさ またな、おさらばさ
 歌つてみるよ別れのうた
 軽くジャンプするのさ、
 気楽にね 波乱万丈

外はきつと青空を
空をみあげるまでは
誰にもわからない
軽くジャンプするのは
気楽にね 晴天の霹靂

一番が終わるころレコード「ヘイ・ジゴード」
が入る。林檎にライトが絞られる。
この中、演奏をやめた女2は退場。

女1 シーゴ・アゲイン！さようなら、グッバイ、またね、
再見、ティアーモ、ティアーモ、ティアーモ（手話
で「さようなら」、ハンゲルで。広東語で、イタリア
語で、フランス語で、ドイツ語で、スペイン語で……
語等々と続く）メルシー、お久しぶりでした。皆さん
お変わりありませんでしたか。お元気でしたでしょ
うか？またいつか、どこかでお会いしましょう。
Life's but a walking shadow, a poor player
That struts and frets his hour upon the stage,
And then is heard no more. It is a tale
Told by an idiot, full of sound and fury,
Signifying nothing.
アモローアモロー!!!ホー、トイアーモ、トイアーモ、
トイアーモ……（手話で「お久しぶり、また会い
ましょう」）……

と、ワンカップにライトが絞られるなか、女1
は退場。
音楽の続く中落暗。
暗転。

幕

(06.06.20)

大日本演劇大系 番外

時折句 独戯

〔 登場人物 〕

……
 …… 隊女 男
 千之丞
 時折 折
 打上 花火

〔 目次 〕

…	〔 序 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 1 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 2 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 3 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 4 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 5 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 6 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 7 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 8 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 9 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 10 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 11 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 12 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 13 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 14 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 15 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 16 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 17 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 18 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 19 章 〕	…	0 0 0 0 0 0
…	〔 20 章 〕	…	0 0 0 0 0 0

〔 序 章 〕

そこは四畳半。しかしテーブルオルメされていてそのようには感じられはしない。ただ圧倒的に長いテーブル。番傘二つ。独 戯とそれぞれ艶やかに描かれている。
袖幕が興行をだして二三袖まである。

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6
章	章	章	章	章	章	章	章	章	章	章	章	章
.....
1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
1	1	1	1	1	0	0	3	0	0	9	9	9
7	4	2	7	4	4	4	4	4	0	8	7	6
3	3	3	3	3	0	8	7	6	3	3	3	3

〔 1 章 〕

音楽静かに入る。
音楽フルボリユームへ。光りはずれて澄暗。
暗転のなかテレビから臨時ニュースを告げる音。
音楽C〇。
アナウンサーの声(男の声)割り入る。音楽の

さて、テーブルにはアップルが二つ二つ。勿論これは物理的にリンゴであると同時に、ズボンとシャツそれなりにある。酒の瓶転がっている。電話器がある。マイクとヘッドホンの着いたラジオカセットある。出刃包丁がある。

画面電源が入ったまま真っ白になる。
台詞入るとゆつくりと男にスポットが入る。
テープからそれなりに流れていた男の声を、生
の声で乗っ取り、ある方向への逸脱。
逸脱のエネルギーと力の展開。

男

臨時ニュースをお知らせします。臨時ニュースをお知
らせします。謹んで臨時ニュースを中し上げます。昨
年から引き続いて、各方面からの心配を集め、成り行
きが見守られてまいりました御容体は急変し、ついに
ミサイルは発射されてしまいました。内閣はこれに伴
い直ちに危機管理室を設置、首相官邸に危機管理官が
召集されました。事態は深刻で、被害にあわれた方々
の救出が行われています。同時にライフラインの復旧
が望まれています。現地の関係筋の情報によります
と、被害にあわれた日本人の旅行者の氏名は今のところ
報告されていません。家屋の倒壊は、甚大と思われ
ますが、焼け出された方々は近くの避難所や小学校に
避難を始めました。更なる第二波の津波にご注意くだ
さい。

これより番組は特別番組となります。

つづくまっていた男、すでにスックと立ちあが
っている。

男

謹んで臨時ニュースを申し上げます。すでに南極の氷

は目にもとまらぬ速さで融け始めています。

同時に、下駄と竹の杖で大きく踏み肘す。下駄
と杖の踏む音一発。

同時に、水前寺清子の『涙を抱いた渡り鳥』が
大きくこえ。

照明は激変。

「 2 章 」

竹の杖、下駄、白無垢は動く。

独自の腰の移動。それによる体勢。重心移動の
発見。

男は長いテーブルの上を歩き始める。

〔 3 章 〕

風呂帰りに。

男のいでたちは、赤い六尺褌。白無垢を羽織る。
竹の杖。高下駄。手には風呂道具。頭はは人遣。
その順に日本手拭で鉢巻き。体は白塗り。

音楽に乗って、歩くといつ行為を展開する。

〔 4 章 〕

テーブルに腰を下ろす。洗面器からカップ酒を
三つ。一つ開けて一気。もひとつ開けて三口で
飲む。「ああっ」と絵もいえぬ飲みっぷりと
その音。三つ目のアルミの蓋に手をかけるが、

〔 5 章 〕

男

（笑い）「ちそつさまでした、風呂上がりにかけて三杯いくまえのこの二杯目の幸せを飲みしめる優しさに抱るとき、腹八分、過ぎたきるは及ばざる、及ばざるは過ぎたるにあらず、覆水盆に返らず、考えるは三

そと置く。二つの空いたコップをすすり、指で拭き舐める。

文の徳、考えざるは三文の損、どうでもいけど布団敷く前に便所へ行け、もひとつおまけで見かけた美人は三歩下がってツバ付けろ、それでもやっぱり金だけは落ちたものでも挨拶励行……人生そんなこんなのが、歴史を越えて遠い嘘のように思えるのは、このわたしだけでしょつか。いえいえ、言いわけはご無用。なんたつて一飲みした後のこのスルメを飲みしめるおじさんの思考回路は、それはもう新潟の冬でありました。落ちを自分でいうのも、耐えられる年ごろですので、一筆啓上、辺り一面雪で真っ白、汚れを知らぬ、純白の乙女のようなすがすがしい朝なのです。拝啓、いささか回りくどい落ちでしたが、少しだけ可笑しかったらにこりとか、そよよとか、くすくすとか笑っていただくと、いささかこのわたくしも、話す張り合えというものがでてまいります。

笑い。

と、竹の杖を物干しサオにし白無垢をかける。

〔 6 章 〕

悲哀と共に情感のこもった笑顔と笑い。
快活な笑いが何かを思い出したような笑いになる。決まる。
間。

〔 7 章 〕

男 ちよつと待てちよつとねん（音楽小さくなる）。……
今、この酒ぐつと呑んで身い清めて気持ちよお行て
いけ。何？ 結構でおます？ その言葉だけで、頂戴
したんもいっしょ……、何をぬかしとん……。呑めっ

快活な笑いが何か悲しい笑いになる。決まる。
間。

快活な笑いが何か怒った笑いになる。決まる。
間。

笑いながらタオルを絞る。ポタポタと落ちる滴
合わせて深いため息。なしくずしに笑い振り切
るようにタオルをバンと鳴らす。クルリと背を
向ける。

「バン」と同時に音楽。すぐさまフルポリコー
ム。光は背中のみ。

ゆつくりとタオルを物干しにかけた。星空でも
見るのだからか、首をゆつくり上げた。

男の自己への没入の過激さの展開。四畳半その
ものがそこにある。

哀愁に満ちた背中。

ちゆうたら呑め！ われ酒嫌いか？ 何？ 好き。好きやったら呑んだらええやないか……。呑めへんのか？
どおしても呑まんのか……。俺もなあ、こおしていったん注(さ)したからにはあとへは退(ひ)かんで……。呑めへんのか？ 呑むな……。呑むな！ われが呑まんちゆうつやったら、われの口引き裂いて！ い、い！ いただきます……。怒んなはん……。へえ、いただきます。(クイ、クイ……。)おつき、ごつおはんで。われ、なかなかええがなあ。おい、もお一杯いけ……。もお一杯呑め！ へ、いただきます(クイ、クイ、クイ……。)おおき、ごつおさんでおました。われみたいな呑み方したらなあ、酒呑んでんねやら水飲んでんねやら分かれへん。もお一杯呑め！ 呑みま、呑んだらよろしねんやろ……。何ばでも呑みま(クイ、クイ……。)ハ、ハ、ハッ……。やっぱり、酒はこないしてゆつくり呑まなあきまへんなあ。わたいねえ、ホンマ言ったらねえ、お酒いたって好きでおまんね。せやけど、あんたが恐い顔して、大きな声出して睨み付けなはるやろ、つい恐いもんでつさかい無我夢中でいただいたんで、味も何にも分かれしまへん。今こおやってゆつくり呑んだらホンマええ酒ですわ、家主もよっぽど死人のカンカン踊りが効いたんでんなあ。あの洪ちんの家主がでつせ、こんなええ酒持つてくるとは思いまへなんだ。ええ酒でおますわ。空き腹に二杯も呑んだもんやさかい五臓六腑に染み渡って、ええ具合に回ってきました。わたいねえ、酔つのは早

よおますけどねえ、酔おてからが長いねんさかい。もおこないなつたらいなんです。な、何してんね？ 人が酒呑んでるのに、何してんねん？ ええ？ 剃刀探してる……。そんなもんあるかい、剃刀みたいなもん。何するて？ 仏のどたまの髪下ろす？ 何をぬかしとるね、ここのうちで剃刀みたいな気の利いたもんあるかい。興から三軒目に髪結い(かみい)さんが居てはる。向こお行て借つてこい「タベラクダがフグ食て当たつて死にました、髪(かみ)の毛え下ろすのん剃刀が要りまんねん」言うて借つてこい！ 何？ そんな厚(あ)がましいことよお言わん？ 気のあかんやつちやなあこのガキ！
そんなもん遠慮せんと言うてこい。もしもなあ、貸すの貸さんのうちゆうたらなあ……。死人のカンカン踊り見せたる、言うたれ！
……。考えるんじやありません、考えるなヨ、思いをめぐらすんじやない、考えるなというのに。そんな人生がどこにある。たかがスルメじゃないか。思つな、考えるんじやない！……。こうしてしていると、フト考えてしまつ。考える程のことじやない。なのに考えてしまつ。そうするめえと思つのに。だから君の名前はす・る・め、なんちやつて(音楽は消えている)……。咬みしめているのは、わたしの爪に火をともしように、つつがなくすこしたこの人生でしようか。それとも、成就されることなく、あの失意のうちで、出て行きどころなく苦渋を砥(こ)めてしまつた、青春の輝きとでもいつものでしようか。グツグツと発酵し、ついに飽和点

に達し、追憶に化けてしまった、青春の、もう一度繰り返せといわれれば、金輪際御免被りたいあの、栄光と、不安。若さゆえ輝くあの可能性と残酷の日々。ああ若さゆえ悩み、若さゆえ苦しみ、初めての口づけに、マイベイビイウォンチュコ、ウォンチュコシイユアゲイン。ああなんてスツパかったカルピス。それは青春の味。だがなあ、なめるんじゃねえ若造オ。この俺はなあ、スルメ一枚ありゃ、二升はお茶のこさいさい、女のけつだ。軽いつていつてんだよ、それをなんだ、なんでスルメはっかしあてにするんですか、だと、さげるんじゃねえ、こうして……咬みしめる人生、斜すに預けたカウンター、ゆらめくコップの酒に尋ねてみれば、まるでおでんに染みこんでしまった、ダシの味にて奥深い話が聞こえてくるじゃねえか。そうだろ、それが立ち飲み、赤いちょうちんに思い入れたコップ酒の美学だろうが。咬みしめる人生捜すようじゃ、酒の味なんてわかりやしねえんだ。人生なんてのはな、いいか、耳の穴かっぼじいて良く聞けッ、恥ずかしさに耐えられねえから、一度しかいわねえッ。人生なんてのは八百八橋をけつから渡るようなもんだ。ああ恥ずかしい。顔から火がでる雨が降る。こんな自責の念にかられるのは、このわたしが若かりし頃、初めてラブレターを出した次の日の朝、鞆片手に鳥咳きつて駆けていく、角のコーヒイ屋曲がった三步目に、君が泣きそな顔でいたつけな。吹き抜けていくのは朝のそよ吹く風でありました。君のつなじをそよそよふーと

吹き抜けてフエミンシャンブーの香りがそよそよばーと、このわたしを包んだ時の恥ずかしさににて、ああ振り向かないで天下茶屋の人。若かつたおじさんは歩道の敷き石はがして、手が血まみれになるまで穴を掘ったものさ。すると君がホホをリンゴの（リンゴを持つ）ように真つ赤にして、蝶蝶が豆腐にとまるような声で、若かつたおじさんにだけに聞こえるように「おはよう」といったのさ。すると世界は「おはよう」でいうばいになってしまい、穴に入りながら、心にボツカリおいた穴に、また若かつたおじさんは入るしかなかったんだ。穴に入りながら、そんな少年の穴に入ってしまった若かつたおじさんは、恥ずかしさと嬉しさを追い越してやってきたガキの処世術。誰から教えてもちつたんでもないのだけれど、死んだふりをしてしまったのさ。いや、あのとき青春のまただななかで、不安と恍惚に溺れながら死んだんだ。そのとき、若かつたおじさんはリンゴでありました。そして幼心は発見した。火を吹くような、雨の降るような恥ずかしさで人は死ねるんだと。一重底の穴から這い出すのに、何年かかると思ってるんだ。人目に晒されるより恥ずかしいんだ。一度しかいわねえッ！ なんだよその顔は、パンダがイカに墨ふっかけられてような顔しやがって、可愛くねえんだよ。八百八橋をけつからわたるに意味があると思ってるのか、意味なんて所詮ねえんだ。リンゴはリンゴだ。ほらこうして、酒のなくなったコップの上にこのリンゴを置きましよう。このフオ

ルムを何と名付けましょうか。それは決まっています、これが人生です。コップは台ではありません。リンゴは花ではありません。二つの無意味が手をつなぎ、己の悲哀を咬みしめます。見つめるわたしはなんでしょうか。慰めなんかはおりません、美しいとでもいみましょうか。声をあらげて笑いましょうか。(と笑つ。と同時にリンゴにかぶりつく)……(笑つて、食べながら)そんな人生でも咬みしめてみると、これがやっぱり一つ一つ味があるから人生、涙流したって止められねえよな。だが若造、咬みしめる人生探すようじゃ一人前にスルメ咬んじゃねえ。そんなときはこダして、最後に残ったカウンターのつまみ、口に押し込んで(最後のワンカップを開ける)人生ぶっきるのように、一気に飲み干すんだ。そうだろう若造ッ、そつすりや人生咬みしめる暇なんてねえんだッ! だがおじさんはな、ちよつとだけつまみ残しておくんだ。最後の一口一気にあおる。フーッと一息ついて、コップをタンとカウンターに置く。そつと残したスルメを口に入れるんだ。そいつが赤ちよつちんの、コップ一杯にかけた、

立ち飲みの美学といわせていただけますかッ!

……本当はな若造ッ、人生咬みしめてるんじゃねえ、咬みしめる人生が在るわけでもねえ。この歳になると忘れちやいけない世迷ごとの一つや二つはあるもんだ。そいつを今夜も忘れまいと、こつしてスルメを咬むんだ。今夜のためにだッ! 明日なんてわかりやしねえッ! (クルリと背をみせる)

(問)……

お前エーッ! (すでに正面をむいている)

同時に音楽が大きくこエ。雨がふる。

「 8 章 」

音楽を背に傘と出刃包丁を携えた、そして居ない女との道行き。

男 お前エーッ!

傘に走る。「独」の傘を奪す。フラフラと雨の
なかに行く。絵になるタメ。

男 お前エーッ

フラフラと後ずさり。出刃包丁を取る。決意で
又ツクと構える。しかしまたフラフラと前へ出
る。そこは雨のなか。傘を奪す手はなえ男は雨に
濡れる。出刃包丁を握る手に徐々に力が入る。
ゆっくりと出刃包丁を頭上にせりあげる。しか
しまたフラフラと後ずさり。長いテーブルの一
番奥。最後の何かをみての道行き。
ゆっくりと前へ進む。

男 お前エーッ！

ネオンやらが瞬き、車のライトが行きすぎるか
もしれない。

【 9 章 】

傘を閉じる。雨は止んでいる。
テーブルに座る。

男 (女で)ふしぎね。あのひと、信じきっていたものね。
この世と、あの世のあいだには、深い川がながれてい

るって。一度渡つたら、最後、二度と引き返せない川。
それが境。ほら、こうしてって……の包丁、手に持つ
て、喉首の前にあててさ……この手を、ちょっと動か
したら、その川が現れるのよ、こうして咽にあてると、
もつ水の音が聞こえてくるって……真顔で、あのひと
言つんだもの。そのたんびに、わたし、ひつつかんで
その包丁もきとつたけど、生きた心地がしなかつたわ

……

なにかしてるときだつて、なにかといつと、ちょっと
手をとめ、ぼんやりとしてるのよね。気がついて、声
かけるでしょ。水の音を聞いていんだつて。こんな
のよ。そんなことがしよつちゆつたつたから……しまい
には、わたしもね、ほんとに、どこか、身近をさ……
見えない川が、ながれているような気がしてさ、どき
つとすることあつたわ。水道の蛇口の水管にだつて、
下水の水が雨でながれる音にだつて、つい耳濁ました
りしてるのよ、ほら、冷えるわ。おあけなさいよ。

電話が鳴る。電話にスポット。
照明一変する。

「 10 章 」

男、受話器を取る。
受話器を耳につけず、見つめ合う間。

男 (受話器を放して) もしもし、ハイ、モシモシ、よく
かけていただきました。二泊三日、あなたがハワイ旅

行決定です。一言感想を。もしもし、ハイ、モシモシ、よく聞こえますか。(受話器を口元に近づけ、大きな声で)大きな声でしゃべって下さい。話がみえず聞こえないのですから、こうしていると、まったくわたし何をしているのか、ほとほと困ってしまいます。もしもし、ハイ、モシモシ、そうです、わたしが受話器を受話器として使っていませんでした。

(無言の間) 待てッ、ラーメン一杯で切るんじゃない(受話器を投げた) もうすでに問題は、ここがラーメン屋かラーメン屋じゃないかなどといったような段階にとどまてはいないのだ。状況を甘くみるんじゃない。ここでこの電話を切れば、わたしはこの日本に電話が登場して以降、あまたあったであろう、すでに無限の領域に達しているであろう間違い電話のその原因のすべての罰と罪を、わたしの全存在を賭けて、脇目も振らずおまえに(と受話器を指差した) 大いなる鉄槌を下すぞッ! だから切るんじゃない。これは天誅だ。天誅と思い込め。人間やめるのか!? じゃ人間としての余裕と大らかさを持つべきだ。何をいつている。いますでに、問題は君(と受話器を指差した)の人間性が問われるという段階に達したのだ。怖いことじゃないか、たかが間違い電話などと思っではいけない。こんな訳もわからんともいつていい夜に間違い電話をして、受けたという、それはもう共犯関係というささやかな秘密をもつてしまったのだ。それがどういつことかわかっているのか。日本中が今夜も善良な市

民として、このどつしよつもない少子化推移に悩んじやつたなんかしてるかも知れんのだぞ。一蓮托生、君も私もなんともできない、無為に座すこの共犯関係といつささやかな犯罪を犯してるとは、あすも学校が休みだといって喜ぶ小学生にも劣るぞ。なんといつて言い訳するのだ。考えるだけで夜も眠れないじゃないか。わたしを不眠症にでもするまか。そんなことは許されることじゃない、いいか、わたしと君は、すでに人には言えぬ、二人だけの秘密をもつてしまったんだよ。この電話はすでに盗聴されている、ここで電話を切ればこの犯罪は完結してしまつたのだ。しかし切るな、そつすれば進行中の犯罪は、万が一に孤独な一人暮らしの弱者救済にならぬと誰がいえる。……じゃこつしよつ。この厳粛な夜の、善良な市民に許されるささやかな嫉業にしよう。いいか、きみがこついつんだ。「もしもし。こちらはNTTです。受話器の受信状況を調査しております。ご面倒ですが、遠くで『今日も快便、快食、煙草がうまい。わたしは日本人』といつて下さい」といつんだ。するとわたしは……

男、走る。

男 今日も快便、快食、煙草がうまい。わたしは日本人!

受話器へ。

〔 11 章 〕

この孤独な痛ましさは『王将』へと向かう。さてパロディを辞書で引くと「他人の作品の形式・文体をまねて、風刺・滑稽化したもの。もじり」とある。ここでは自己切開をともなった自己批評を成立させる、と読みたい。

男 どうでした、聞こえました。そつですよ、大きな声でいいましたよ。可笑しいなあ（また走る。大きな声で）俺の女房は死んだ。俺はしがない一人暮らし。帰ってきてても一杯ひっかけ寝るだけよ。

何度かやる。その行為はついに痛ましい。世界拡がる。

男 ああ……モシモシ……そつですよ、そつですよ！
玉江！ わいや。うん、うん、そうか、そうか、よっしゃッ！ お父ッあんがいうワ。電話の紐引ッ張ッてお母あはんに聞こえるように……ああ？ 構わん、構わん、いつ通りしい！小春！ わいはなア、東京へ来とるンや、東京へ。関根名人はんにお祝い云いに行くンやちうたら、お前の氣イ悪るして、痾氣にも障るやるかど、それで黙ッて出て来たんや。堪忍してや！
……ええ？ 判ッたら何ンぞいわんかいなア！
男・玉江 お父ッあん、お母あんなア、物いわはるどころやあらへんねエ。お母あん……危篤状態なんだッせえ！
男 ええ？ キトクアて何ンや、キトクアて？ あ、モシモシ……モシモシ
男・玉江 お父ッあん、お母あんはなア、もう死にかけてはるんだッせえ！
男 死にやせん、死にやあせん、わいが帰るまで死にやあせん！ 関根はんはんに挨拶すんだら直にかえるよつて、それまで生きとらなあかん！
関根名人はん！ 本日は、まことに……まことにお目出度うさんでござりまする。
男・関根 有難うござります。心からお礼を申しあげます。この度は、事情があつて、私が先に名人を名乗ることに成りましたが……
男 ちよ、ちよッと待つとくんははれ。まだ有りますねン云わんならんことが！ わてはなア、名人はん！ 永

い事……あの十六年前、始めて手合わせして貰うてから此の方、ずーッとあんたを一生の敵や、敵やと、憎んで憎んで……堪忍しておくんはなれ！

そやけど、若し、その憎い憎いあんたちゅつ敵がなかつたら、わてはとつても是れたの将棋指しには成つてしません。ほんまに有り難いこつちや、済まんこつちや思てます。それを一遍云いとうて云いとうて……

男・関根 恐れ入ります。その気持ちは私も御同様です。十年間、私もあなた一人を目標にして……

男 あ、あ！（激しく手を振り、遮り）もーッ！ まだもウーッ……

あのなア、名人はん、名人はん。今日のお祝に何んぞと思て、一生懸命考えたんですが、んせエ、わてに出来る事ッたら将棋、指す事と、子供時分からの草履作りと、その外には何一ツ知りません。それで、坂田が十三代名人はんのお祝いに差し上げられる物ッちゅつたら……（下駄をとる）えろつ不出来ですけど、これでも十回年に振りに手エに豆一杯でかして一所懸命作りまして。坂田が精一杯の気持ちです。笑わんと、穿いたツとくなはなれ！

男・関根 坂田さん！ あなたという人は……

座布団から下り、手を突いて。

男・関根 恐れ入りました、坂田さん、貴方こそ名実ともに名人の位に就くべきお方です。

男 叶わんなア、そないむつかしせられると……（笑い）小春ーッ！ 死んだらあかへんで！ 玉江ッッ、電話、電話、お母あんの方へ向け！ わいが、良う良ういい聞かしたる！

小春ーッ！ 死んだらあかへんで！ なア、お前がおらんようになつたらわい、一人でどないするんや。

ええ、わい一人、わい、一人で……

死になやッ、死んだらあかんでエ！ わいがなア、わいが今なア、わいがお題目いつたるから、一緒に妙見はんを念じてなア……死んだらあかんぞウ……ええか、聞きや、いつでエ！ なんみよつほつれんげきよつ！ なんみよつほつれんげきよ！ なんみよつほつれんげきよ……

と受話器を持った念仏はつつく。

男 そのように念仏ばかりとなえなければ、尼寺へ行け。尼寺へッ！

このバムレットという男は、これで自分ではけつこつ誠実な人間のつもりいるが、それでも母がうんでくれなはよかつたと思つほど、いろんな欠点を数えたてることはできる。つぬぼれが強い、執念ぶかい、野心満々だ、そのほかどんな罪をも犯しかねぬ。自分でもはつきり意識しない罪、そついうもので一杯だ。このよつな男が天地のあいだを這いずりまわつて、いつたい何をしようといつただか？

生か、死か、それが問題だとするなら、どちらが男らしい生きかたか、じつと身を伏せ、不法な運命の矢弾を耐え忍ぶのと、それとも剣をとって、押し寄せる苦難に立ち向い、とどめを刺すまではあとには引かぬのと、一体どちらが。いつそ死んでしまったほうが。死は眠りにすぎぬ……それだけのことではないか。眠りに落ちれば、その瞬間、一切が消えてなくなる、胸を痛める憂いも、肉体につきまとう数々の苦しみも。願ってもないさいわいというもの。死んで、眠って、ただそれだけなら！ 眠って、いや、眠れば、夢も見よう。それがいやだ。この生の形骸から脱して、永遠の眠りについて、ああ、それからどんな夢に悩まされるか、誰もそれを思うと……いつまでも執着がのこる、こんなみじめな人生にも、さもなければ、誰が世のとげとげしい非難の鞭に堪え、権力者の横暴や驕れるものの蔑みを、黙って忍んでいるものか。その気になれば、短剣の一突きで、いつでもこの世におさらば出来るではないか。それでも、この辛い人生の坂道を、不平たらたら、汗水たらして登っていくのも、なんのことはない、ただ死後に一抹の不安が残ればこそ。こういう反省というものが、いつも人を臆病にしてしまう。決意の生き生きした血の色が、憂鬱の青白い顔料で硬く塗りつぶされてしまうのだ。乾坤一擲の大事業も、その流れに乗りそこない、行動のきつかけを失うのが……しつ、（と再び受話器へ）気をつけるよ。そうして聞き耳を立てているその後ろで、キラリと短剣が光

男

っていないと誰がいえる。

そこだッ！

やってしまって、それで事がすむのであれば、早くやってしまったほうがいい。そうだろうツマクベスッ！

恐れるなマクベス、バーナムの森が動きだすまでは。暗殺の一網で万事が片付き、引き上げた手元に大きな宝が残るなら、この一撃がすべてで、それだけで終わりになるものなら……あの世のことはたのまぬ、ただ時の浅瀬のこちら側で、それで、それですべてが済むものなら、先ゆきのことなど、誰が構っておられるものか。

だから、いくらでも血を流すがいい、みじめな祖国の運命！ 荒れ狂つ暴政のあらし、思つそんぶん国の岩根を揺るがすがいい、善も、もつ貴様の力を押さえられぬのだ、さあ、いくらでも非道のふるまいに手を汚したらいい、苦情を言うものはどこにもいないのだぞ！ 違う、おれがやったのではない、よせ、血みどろの鬘の毛をふりたててるのは、ええいッ！ 行つてしまえ、人をおびやかす影法師！ ありもしない幻、ええい、行つてしまつたのだッ！……（笑い）ならば、バーナムの森を動かしてみろッ！

……

受話器を持った。

楽隊がいくわ……

ああ、わたしのいとしい、なつかしい、美しい庭！
……わたしの生活、わたしの幸福、さようなら……さ
ようなら……

楽隊は、あんなに楽しそつにあんなに嬉しそつに鳴っ
ている、あれを聞いていると、もう少ししたら、なん
のためにわたしたちが生きているのか、なんのために
苦しんでいるのか、わかるよつな気がするわ。……そ
れがわかったら、それがわかったらね！

……

と、なぜかマイクを手にする。

男 モスクワへ！ モスクワへ！ モスクワへ！

「 12 章 」

哀愁に似た視線を流す。

男 (急) 歌います。

マイクを使ってふっきれて歌つ。

男 (急に) 二番いきます。

コーラス隊出る。

音楽が終わると電話の切れた「プー、プー」が
大きくなる。

男、受話器に近づき見つめる。

「 13 章 」

受話器を蹴る。

コーラス隊は男のマイクを取る。

男、コーラス隊からマイクを取りかえず。

コーラス隊は男のマイクを暴力的に再び取る。
入り乱れる。

現象はマイクの取りあいだが、なにか凄惨。
静かに『あしたのシヨ一』を始める。やがて…
…ここぞと盛り上がる。
この『あしたのシヨ一』は、男がコーラス隊から袋叩きにあいながらということになるのだが、それぞれなにかに拘っているのだろうか。

男・力石 立てえシヨ一！ この力石とはつきり決着をつける
気があるんなら、立つんだシヨ一！（と倒れた。
そしてまた立つ）

男・力石 た……立つた……理論を越えただけんか屋、不可能
を可能にする殺し屋、野性の男矢吹丈！おれのすがた
が見えるか！ おれの声がきこえるかシヨ一！ つぎ
は……いよいよつぎはおれの番だ！（よと倒れた）

男・矢吹 （殴りながら）なにをぶつくさつめてやがる。
その血鼻をふきながらのわらい顔はいただけないぜッ！
おれはでえつきれえなんだ！ やせがまんつてやつ
はな！
それどうした力石ッ！（と殴った）

男・力石 （殴られ）アウ、アウ……
ふふふ、シヨ一よ……いまのうちに心ゆくまで打つて
おくがよいぜ！

男・矢吹 それどうした力石！ もつアッパーを打つてこね
えのかっ！

男・力石 ふふ……どうしたねシヨ一、おまえのスイー・バ
ックを見ていると少年院時代に青山がやったこんにや

く戦法を思い出さず。

男・矢吹 わかつてるよ、そつでかい声はりあげてわめくな
つて……

男・力石 どうした。とび込んでこないのか。もぐり込んで
くるんじゃないのか。

アッパー一発、倒れる男。

「 14 章 」

静かに体勢に入る。

さて、「語り」である。光源は鈞燈籠だけであ
り、その位置と顔への使い方によって世界は変化して
いく。

男

……それはもう、違い違い昔のことでありました。人々の日々が日々の値を持つなかで、人々の生活を潤わせていた、わたしがヤマタイコウの卑弥呼のころでありました。

……それは私が、ちょうど十四の春の頃でありました。

……ちょうど十四の春の頃でありました。ブ百年に一度咲くのは竹の花、咲けば不吉な世迷い言、わけのわからぬ縁言も、風の流れに咲き乱れ、人の噂も喉元過ぎて百日目、あの人が病にみまわれたのは、そんな頃でありました。

……ありました。

病の名は、（最前のヒロヒトの病名。確か腸閉塞）。不治の病で妙薬はなく、その噂は、あの人を人里離れた、山奥へ追いやったのでございませう。それは、ちょうど、こんな竹藪でございませう。

なぜ、そんな山奥の竹藪を知っているのかと、お申しでしようか。それは、あの人と私は親が取り認めた許嫁、人目忍んで、日々の糧を届けたのは私だったのでございませう。それにしましても（最前のヒロヒトノ病名）は恐ろしい病でございませう。眉毛は抜け、頭髪は次第に少なくなり、顔の原形はとめどなく朽ちてゆくのですね。一二日と空けず通う私はなす術もなく、その変化を記憶に刻むしかございませうでした。

そんなある日、山奥の竹藪にも竹の花が咲いたのでございませう。花が咲き実が稔りました。ところが何といつことございませう、野ネズミがその竹の実を食

べ、またたく間に異常な繁殖を示し始めたのでございませう。畜生のあさましさか、その増えること限りを知らず、やがて樹木の幹ははがれ、葉はかしたらね、はてはシダやコケもたぐつくされ、それはまるで一夜にして竹藪一帯の山が丸裸になってしまったと言えはよろしいのでございませうか。だが、野ネズミの増殖は止まりませぬ。節理は野ネズミたちを飢えさせませぬ。飢えれば食を求めて動き始めませぬ。だが、その野ネズミたちの行く手には、わがヤマタイコウがあつたのです。わたしは踵を返し、その模様をわが民に告げ知らせたのではございませうが、わが鬼遣は事ならず、能く衆を惑わさず、無念の数日が過ぎ去りました。

だが節理は節理、日ごと人々の目につく野ネズミの数が増して来たのでございませう、やがて民は、わが鬼遣を求め、その道を知ら・しむるべく侍り始めたのでございませう、だが、あることか他の民は、野ネズミの来襲を山奥深く隠れ棲むあの人、いや（最前のヒロヒトノ病名）のなせる業と語り始めたのでございませう。確かに禍は、あの人隠れ棲む方角からやつてまいります。このままでは村が滅びるを前にして、藁にもすがる気持ちか、（最前のヒロヒトノ病名）を取り付くよすがとしたのでございませう。私が何もせずば、すぐにあの方はわが民に討たれ無念の死をとげるほかありますまい。私は考えませう。しかし野ネズミの来襲を防ぐ道は……やはり……自然に打ち勝つには自然しかございませうまい……この節理にたどりつくしかありませ

せんでした。ならば、あの人が徒々殺されるより、闘うものをと考えたのでございます。私はすぐさま宮室へまいり、賢所で手にしたものを、それは南部十四年式拳銃。

我を忘れ幾時ほど駆け続けたのでしょうか。夜の帳は落ち、日の光が無言の鐘と鳴り渡り、吐く息と踏みしめる足音だけが、後に残ります……

あの人は無事でありました。野ネズミは避けて通ったのでしょうか。私もまた不思議なことに野ネズミの群れに会わずたどり着いたのでした。私はあのときあの人に何を言えばよかつたのでしょうか……何も言えませんでした。南部十四年式拳銃を渡す私の手だけが、かすかに震え、あの人の目が月の光を受けて、物悲しそくに潤んでいたのを憶えております。私はいたたまれず、その場を立ち去りました。夜明けまで帰らねばなりません。そんな振り返る暇などない私が振り返つたのは、もしやあの人は、南部十四年式拳銃を使って自殺をするのではないか、私とその銃を持つていった……私はあの人に自殺をすすめるに行つてしまったのだ、という想いが脳裏をよぎつたときでした。

だが、振り返つた私が見、開いたものは、南部十四年式の銃声ではありません。それは、月光をとつとつ湛える谷あいの湖に、先を争つて入水する野ネズミの群、集団自殺の叫びだったのです。

私はそのとき、そのあり様を前に何を考えていたのでしょうか。何を想つていたのでしょうか、何一つ定か

ならず、野ネズミの集団自殺を見ていたのでしょうか。そんな私が、次に思い起こせることは、民を前にし、鬼道にたち向かつ私自身の姿です。私は祭壇を見上げる幾多の民に向かつて告げたのです。

わが守護神はいま、その御心を開き、私に示しあそばした。野ネズミは神の使い、何者にも、その行く道を防ぐことあたわず、防ぐ心に邪は忍び入り、民を滅ぼす。邪をくらいさらいつくして行くわが使い、座して見届けよ、さらば、民の明日の豊熟危うからず。

じゃがヒニコ、わが守護神に問う。わが民邪を持たず。守護神こたえていわく。ならば（戦前のヒロヒトノ病名）の者救え。救う道ただ一つ、（最前のヒロヒトノ病名）の者、その母と交い、その後、その母の血をすすれ。さすればその者、たちどころに元の若者とならん。さすればわが使い、村に現れず。

女、奥の袖から「戯」と記した傘をさして登場。静かに歩く。

男

私の体力はそこまででございました。わが民が、何に向かつて動き始めたのが、確かめる気力はすでにありませんでした。気を失つてしまつたのでございませぬ。そんな私が幾日か後、目さめたとき、私はそれまでのただのヒニコではなく、いいえ、ただのヒニコはもう死に、世界界は一夜にして変わったごとく、私はヤマタイコクのヒニコだったのです。何が破産し、何が成

「 15 章 」

女 前に進む。女は純白のウエディングドレスを着ている。白袋。

男 おじさん、後藤さん来れないんだって。
……さあ、まいりましょうか。

就したのか確かめる術もなく、竹の花が突如咲き誇ったように、私はすでにヤマタイコクのエミコだったのです。

……ひさしぶりに二人で、お話できましたわね……何も怒わずに聞いてくださるだけであたしは嬉しい。さあ、まいりましょうか。

と、男はズボンをはく。

女 忙しいんだって。
男 いいんだよ。行けばわかるんだから、気を使わなくたって。
女 はいこれ手紙。
男 ありがとう。でもねそいつにはきつと、今夜はだめだから明日にしてくれって書いてんだ。だが今夜じゃないと、今夜じゃないとだめなんだよ。それはわかってるはずなんだ。そんな手紙だけですませられることじゃないんだ。だって、昨日の今夜じゃないか。それは誰だってわかっていることなんだ。それなのに……
女 ヤッパリ行くつか（と傘をさす）
男 じゃ、置いとくよ（と置く）
女 行くんだろ。
男 ええ。
女 じゃ、俺も行くよ。
男 どこへ？
女 どこへって、だつて行くんだろ。
男 ええ。
女 だったら一緒に行つたつていいじゃないか。
男 一緒に？
女 そうさ。一億総玉砕だつたんだから。
男 イチオクソウギョクサイ？
女 そうさ、昨日のこと、いや一昨日のことじゃないか。

女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女

女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女

だから、仮にわたしたちがそうだったら、なにが可笑しいもんか。

ふうんそうか。

そうさ、忘れるほどの暇は過ぎちやいない。

……だって、もう死んじゃったんだよ。

しゃべった。初めてしゃべったじゃないか。自分の意見。だろ？

えっ？

つまり、死んじゃったからああとが、こつたとが、なにか本論をいいたかった、大事なことをだ。だが遠慮して口籠もった。そこであつたわはは我儘でさ、しゃべった。そうさ。そうに決まっている（と笑つた）。

可笑しかった。

別に。

じゃ、悪かったかな。

別に。

じゃなんなの。

いいんだよ、気にすることはない。死んじゃったんだろ。何したっていいんだから、君だって例外じゃないんだから。

そういうもんなのか、

そういうもんだ。みんなそう思っていないなくても、そうじゃなく、つまりやはりそうなんだけれども、動かし難くそうじゃないんだ。だからそういうもんなんだ。

それで？

男 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女

男 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男

それでつて……つまり死んじゃったから。そうさ。昨日と違つたんだ。ということは今日と昨日は、いいかい、今までの今日と昨日とは違つてことなんだよ。だから、行こうつていつてんだろ。行つたつていいんだよ。わかるだろ、ここに居なくなつたつていいんだ。……なに考えてんだよ。

なにか考えているみたいでしようかあたり？

どうしてそうわたしの問いかけに対して、いつも自分の問いをこのわたしに向けるんだよ。そういう対話に疑問はないのか。

だから疑問だらけなのです。

もつといい、行こう。

えっ？

行こうつていつてんだよ。

どこへ？

どこへつて……これじゃ話もなにもあつたもんじやない。

えっ？

ほらまたそれだ。そのことを話もなにもあつたもんじやない、といつてんだよ。

それじゃ……

ウンなんだい？

それじゃ……

はい。

音楽入る。

女

……わたしは話もなにもあつたもんじゃなかったら、きつとわたしはなにも話さなかったんだと思うんです。だから、わたしはこの時間を無為のうちにするつもりですな、おじさんのあたしは。でも、わたしも花を観ては美しいと思い、そんなわかしをみるあなたは幸せですか、などとたあいもなく聞いてみたい乙女ころを忘れたわけではありません、ひとなみに、小比類巻かおるちゃんのスウフルなヴォーカルをいいなと思う、ストレートなハート、これがそのハートなのであります（とハートのチョコレートをだす）。ちよつと気恥ずかしいような夢、憧れ、希望、未来そんなこんなを忘れたわけではありません。そんな忘れなかったころがこれなのです（と、またチョコレートをだす）。それでも、そんなわたしでも、わたしが話もなにもあつたもんじゃなかったわたしであつたのなら、それはきつとおじさんに、そんなわたしが見えなかったのかも知れません。だからおじさん、……だからっておじさん、心配なんていりません。きつと、おじさんとわたしの対話は、行間を読み込まれるものであつたでしょう。そこに秘められたものは、きつと通じあつたのだと思うのです。だから、おじさんとわたしの対話は、それはもつ文学なのです。

男
女
男

文学ッ？ てめえなにをいつてんだッ！
ご不満でしょうか。
ああ不満だ。

女

それでいいのです、すべての人が満足する文学なんてあつたためしが在りません。

男

訳のわからんことをいうんじゃない。

女

それは傲慢です。つまり、理解不能な事態を拒否するのはその歳のなせるわざ。

男

ばかにするんじゃない。

女

口自分を卑下しなくてもいいのです。すべてのものは常にわかりません。それが宇宙です。でもきつと、あらゆるものが和解し、すべてのものが氷解し融和するあの一点は、きつと訪れます。それは、自然が自然的に滅びる日、その概念矛盾をこの世界の言葉を使っていえばこの世界が滅びる日、すべては解脱するのです。貴様はず、いったいなに様のつもりだッ！

男

いたいけない少女としたら……

女

……君は錯乱しているのでしょうか？

男

おじさん地球という世界は円いのでしょうか。

女

もつ（もついい、といつつもりか）……はい、わかりませんと答えましょう。

男

混乱しているおじさん、正確にいましょう。かつて世界は錯乱したのでありました。そして今、世界は錯乱しながら錯乱したふりをしているのです。なぜですって、それは支離滅裂の錯乱では救いがいからに他なりません。ほら、あのおじさだつてそうしなければあそこに一時たりとも、あのように立っていることはできないのですよ。そのようにして、世界は丸く収まっているのでありました。

男 おまえはッ、なんの話をしているんだッ！
女 それはあたかも、このテコボコの地球という世界を、
あの月から見れば、もうそんなことはどうでもいほ
ど円く見えるほどに。だからかくや姫は月にかえった
のです。だから之女は、金欄どんすの帯絞めて、お嫁
にいったのです。
男 なんの話をしているとわたしは聴いているのだッ！
女 物語です！

取って付けたような壮大で華麗な音楽強くこエ。

女 (笑い)

テーブルの上の女は大きく片足を踏み出す。こ
の体勢で世界が減んだように脱力。ゆっくり腰
から上の関節を組み立てていく。腕、首、手首、
肩と組織。踏み出した上体が決まると肋骨を組
み立てながら、残した足を踏み出した足に近づ
け徐々に起つ。立ち腰が決まったかと思うと、
ヨロヨロと一二歩前にでる。踏みとどまって安
定しようとして大きく腹胸式の呼吸。この間、呼吸
がいかになされるのか、なされないのか定かで
はない。なにが喋りたいのだから口をパクバ
ク。

女 それ、は、も、う、も、ろ、ろ、な、の、で、す。

もつすでに取って付けたような壮大で華麗な音
楽はない。

男 ……
女 おじさん、わたしは物語の話しをしているのです。行
間に隠され、読みとる物語の話しをしているのです。
男 そんな愛のメッセージを届けにきたのですよ。
女 わたしは、そんなものを頼んだおぼえはないんだけど
男 な。
女 いいえ、先ほどの電話でわたしは受けたのです。
男 それは電話が混線していたんじゃないのか。
女 世界は錯乱したふりをしているんですもの、電話の混
線など、大した意味があるとは思われません。
男 わたしが今、それを問題にしているんだ。
女 そんなことはどうでもいいことではありませんか。
男 良くない。わたしはどうなるんだ。えッ、このわたし
女 は誰になるんだ？ 誰なんだ？ このわたしはッ！
男 ……
女 なぜ黙っている。さあいつてみる、このわたしは誰な
んだ。確かにわたしは君に、メッセージを届けてくれ
るように頼んだ。それもとびつきりのメッセージをだ
しがない四畳半の一人暮らしの男が、今夜がぎりの、
それはもつ今夜がぎりのメッセージをだ。それが君の
仕事たるつが。そんな単なるメッセージ屋が、純白の
ウエディングドレスに身をつつま、いたいけない少女

を装つ愛のメッセージをたれながすのなら、このわたしは、誰なのか、どんな誰なのかぐらい言いえるだろう。そんな愛のメッセージを、この昔若かつたおじさん

んにたれながしてみるといい。

いっていいのですか。
わたしに恐れるなにあるといつのだ。今日は昨日と違つ、新たなる一目のだ。さあいつてみる。

簡単なんですよ。昨日のおじさんは今日のおじさんであり、そのおじさんは明日のおじさんであります。

おたしは、誰なんだッ！

(笑い)……ついにいいましたね、おじさん、そんな自分さがしの物語は、昔昔のその昔、そう、世界が錯乱を装つたとき終わりをつげたのですよ。だって、あの人は死んでしまつたんですもの。ですから、おじさんは誰でもないのです。ほら、そこに転がっている、リンゴのように……リンゴはリンゴなのです。

それでも、わたしは行くんだよ。

どこへ？

だから……だって、わたしはもつホラ、こうしてズボンもはいたしネクタイだつて絞めてしまつたんだ。

おじさん、後藤さんは来れないんだつて。

それはだから、今夜はだめだから明日にしてくれつていつたつて、こつちから出向いていけば少しの間ぐくらいなんとかしてくれるよ。そつだろ、わたしとはもつ六十数年のつきあいなんだから。それが人情つてもんじゃないかッ！ 世間つてのはまだまだ捨てたもの

じゃないつてすぐわかるよ。

おじさん、後藤さんなぜ来れないのかつて、どうしてきかないの。聴くのが、怖いのでありますか。

それがメッセージとでもいうつらりが。

それもとびつきりのメッセージ。しがない四畳半の一人暮らしの男に贈る、今夜かぎりの、それはもつ今夜かぎりのメッセージ。

いつてみるッが

あのかたは、みんなのことを心配しながら、この六十年間になんの後悔もなく、すこやかな寝顔で、あの世に旅立つたのであります。

なんのことだッ！

腸閉塞。

(形容しがたい怒りで) それでッ！

ホ・ワ・ギ・ヨ……

(笑い) だからッ！

後藤さんは死んだのです。

……(笑い。ズボンとネクタイを取る)

物語が死んだように。

死んだ……(笑い)

息の根とめるまえに、世界が錯乱を装つたとき、なす術もなく、物語の死にみずをとつたのでした。

出刃包丁は、鈍く光つてはいだ。窓ガラスが刺し入る月明かり、夜鳴きソバ屋の笛の音が、遠くで聞こえて行き過ぎる。(出刃包丁をとる) さて、春の、夜の電柱に身を寄せて思う、人を殺した人のまごころ……

女 おじさん、いま物語は、死線をさ迷い宙ぶらりんなのであります、昨日だれが死んだつて、世界ははまだ錯乱を装ったままなのでありますから。

男 わたしに、誰を殺せというのだ。

女 ひとつしかない物語をです。世界が錯乱を装ったとき、装ったままで自分を探す物語は、迷宮の門を開き、その迷路の中で飢え死にしたのでした。残ったものは……

男 残ったものは……

女 終末へ向かう、数かぎりなく姿を換えて繰り返される、たった一つの物語。

男 ここはわたしの四畳半であつたし、これからわたし

女 この四畳半は、やっぱりこの四畳半は、いいえこの四畳半は、それでもやっぱりこの四畳半は、だからそれはおじさん、世界が錯乱を装ったようにでしようか。

男 ……（笑い。とその場にくたりこむ）

女 おじさん、最後のメッセージです（と傘をさす）。おじさん、その手紙は、迷路のなかで物語の死にみずとつて死んだ、後藤さんの、おじさんあての遺書、読んで下さい。

男 （同時に、大きな奇声）……

同時にカセットラジオから音楽が流れていたように急に音楽大きくなる。音楽は『ヘイ・ジュード』。

同時に照明はラジオと男に絞られる。この時す

でにカセットラジオの音量は、スピーカーに乗っ取られている。音楽大きくなるなか、音楽にのつて女退場。

女は昭和という時間を歩くよつにゆっくり歩く。

「 16 章 」

男はラジオに近づき、ヘッドホンをする。マイクをとる。スイッチボタンを押す。音楽『ヘイ・ジュード』C0。

男 ハイ、ヤッピー、一週間のごちたさ。今夜も元気に

四畳半私設放送局の深夜放送を開始、用意いかな、ダイヤル合わせたかな、いつちやつぜ。まず、今夜の記念すべき第一曲は、このお手紙くれたマーク・チャップマンに贈るあのなつかしのビートルズ、『イエスタデイ』、それじゃよろしく。

『イエスタデイ』流れる。

感慨ともため息ともつかず、男はいつぶく。くゆる煙。

男 マーク、聴いてるかな。感慨もひとしおといったところだろう。それじゃマークの手紙だ。いま彼は、ニューヨークの刑務所、刑期二十年の判決をうけて服役中だ。なにしたんだって、それはマークに対して失礼ときたもんだ。それじゃ手紙を読む前に教えとこう。ほら、ニューヨークのジヨン・レノンの自宅の前で、レノンを拳銃で射殺したのが、なにを隠そうマーク・チャップマンさ。昨日の今日だから、特赦期待しとこう。じゃお手紙拝見くと、女が置いていった手紙をひらく。

男 「ジヨン・レノンは偽物だ。おれはそれが頭にきた。殺すしかないと考えた。おっと、どうだい聞いたかい。のっけから乗っちゃって、最後までもつてくれなくっちゃ、困っちゃつよ。それで「おれはな、小説の『ライ麦畑で捕まえて』の士人公。だから人間的に偽物

だと思つたジヨン・レノンに聖戦を挑んだというわけよ」どうだい、聖戦ときたもんだ。つつきいこう「ただ失敗は、ポリ公が来るまでそこにいたことさ。『ライ麦畑で捕まえて』もつていたんだからライ麦畑で捕まったら上出来だつたんだが」おっと、どこまでしゃしてんのかはこらジオのまえのあんたにおまかせして、先行こう。

拝啓、このような手紙を書くとは思っていませんでした。おや、急に改まったじゃないか。どうしたんだい（『イエスタデイ』はずでに消えている）。あなたと別れてもつ何年になるのでしょうか。季節のかわりめになると、いまでもやはり、あなたの体のことが気掛かりとなつてきました。これも、今日限りと思ひ、ペンを走らせています。このような身勝手なこちらからのご無礼をまず申し上げ、お詫びしておきます。いまになつて考えてみるといろいろなことがあつたように思われます。また、なにもなかつたようにも思われます。あなたと別れても、それは寝起きをただ別にしているだけのようでもあり、かといつて神代の昔から、なにも存じ上げていない人のようにも思われます。この世の不思議な縁で結ばれ、来世までもと誓いつつも、いわくいがたく別離を迎えたわたくしたちは、出会わなかつた偶然より、もつすでに遠く隔たつてしまつたことはまちがいないでしょう。と、申しまして、これからも折りにふれ、思い起こすことは無くなりはしないと思われます。でももつそれはきつと、あたく

しの中から出ていった、あなたとは別のあるなにかがある、といえるものでしょう。誤解を恐れず申し上げますが、まだあの長いテーブルは使っていますでしょうか、あのテーブルに、開けるといつも当たるドアをあけて、わたしが最後に出ていくとき、あなたはわたしに出刃包丁を差し出し、このように申しました。

出ていくのなら、この俺を刺せッ、皮をそぐだけでもいいッ！ それだけだっただいいんだ。そのひと振りが、本当に出ていくことになるんだ。後悔したくなかったら、ただ握るだけでもいいッ！

誤解を恐れず申し上げます。今日、わたしはこのようにペンを握り、あなたを殺しました。それがわたしのラストシーン……

最後になりましたが、たびたびの復縁の心やさしいお誘い、お礼もうしあげ失礼いたします。ご自愛下さい。

(長い笑い)……

(大きい声で) 今日、わたしはこのようにペンを握り、あなたを殺しました。それがわたしのラストシーン…

…

(笑い……)

「 17 章 」

男は笑い続けている。

さて、映画の有名なラストシーンを三三〇盛り上げて展開することになる。自身のラストシーンを求めての立ち振る舞い。

男 …… お前ッ！（笑つが、毅然となり）わたしの、わたしのラストシーンはッ！

同時に音楽。ビートルズ『アイ・ウォンチュー』。

同時にチャップリンの『独裁者』の以下の部分から英語で流れる。

男 私は皇帝なんかになりたくない。征服の柄むやない。ただ皆を助けただけだ。人開け互いの幸せを支え合つて生きている。憎んでは心めだ。大地は必ず皆に恵みを与える。だが私達は方向を見失つた。欲望に毒され他人を貧困や死に追込んで。乗物は早くなつたが人は孤独になつた。知識は増えたが豊かな感情をなくした。機械より人、知識より心が大切だ。でなければ…………… 人に戒めを求めているのだ。今も私の声は全世界の人々に届いて…………… いる女や子供、組織の犠牲者に、そんな人々に言おつ。絶望してはならないと、欲望はやがて…………… 独裁者は滅び民衆の力が芽吹くだろう。人は死ぬが自由は残る。兵士達よ独裁者に耳を傾けてはならない。君達は感情までも統制され操られている。独裁者の心は冷たい機械で出来ている。君達は機械じゃない人間なんだ。愛をもて、憎しみは捨てよう。諸君「神の国は汝らの中にある」というが…………… 特定の人でなく皆の中にあるんだ。誰でも、人生を楽しくする力を持っている。その力を

結集し社会のために役立てよう。働く意欲がわく社会のためと独裁者も始めはそう言つて人心をつかんだ。だが、それはウソだつた。独裁者は自分の欲望だけを満足させたのだ。国家間の障害を取り除こう。偏見をやめて理性を守るんだ。そうすれば科学も幸福を高める。諸君、持てる力を集めよう（大喚声）
ハンナ、僕がわかるかね。元気をお出し。どこに居ても…………… 雲が割れ始めたよ。暗やみを抜け、僕たちは生まれかわる。もつ獣のように憎しみあつこともない。…………… 元気をお出しハンナ、人は、また歩き始めた。行く手には、希望の光が満ちている。未来は誰のものでもない僕たち全員のもんだ。だから元気を……………

音楽大きくなる。

男 ハンナ、あの声は……………
男 あの人の声……………

音楽さらに大きくなる。チャップリンの演説のテンションも最高潮。

男 遣つ。わたしのラストシーンだッ！

すべてはじ。出刃包丁を取る。

男 につして目をつむると、スクリーンのなかの心の旅路

をふりかえるように、この数十年間はやるせない長い一瞬だ……

男

通り雨だ。

男

この雨は、もつとくもやらずの雨よ。

男

お待ちなすつて……花田秀次郎さんとおみつけないしやす。

男

さようございませう。

男

道中、仁義踏さしていただきます、てまえ……

男

このけりは、俺につけさしておくんない。堅気のおめえさんを連れていくわけにはいかねえ。みておくんない、あれから四十三年、心に誓つて収めてきたこのドスを……おさつし願います。渡世上、あんさんにはなんの恨みもござんせん。勝負はこの場かぎり、どちらが勝つても恨みつこなしだぜ、さらば、さらば、一回かぎりの人生よ。死んで貰いますッ。

音楽・高倉健『唐獅子牡丹』が大きくこエ。

男

遭つ、わたしのラストシーンだッ！

音楽こ。

音楽静かに入る。

男

わたしは、近所のわたしに、お前は悪い、美家に帰り、病死したといつてきた。そんなふうにして、お前を殺した、そんなわたしのラストシーンは、どつやら通用

しないといつことらしい。（笑つ、男で）ふしぎね。あのひと、信じきつていたものね。この世と、あの世のあいだには、深い川がながれているつて、一度渡つたら、最後、二度と引き返せない川。それが境。ほら、こうしてつて……にこの包丁、手に持つて、のど首の前にあててさ……この手を、ちよつと動かしたら、その川が現れるのよ。こうしてのどにあてると、もう水音が聞こえてくるつて……真顔で、あのひと言うんだもの。そのたんびに、わたし、ひつつかんでその包丁もきとつたけど、生きた心地がしなかつたわ……（すでに出口包丁はのど首へ）その出口包丁、こうして引いたのは（間）このわたしだッ！

同時に暗転。同時に強烈な雷音。同時に雨がふる、静かに光り入る。男の首筋は血に染まつている。ロスコ。

雨にまみれて、首筋の血が、身体を紅く染める。

男

（笑つ）……しまいには、わたしもね、ほんとに、どこか、身近をさ……見えない川が、流れているような気がしてさ、どきつとすることあつたわ。水遣の蛇口の水音にだつて、下水の水が雨で流れる音にだつて、つい耳澄ましたりしてるのよ。ほら、聞こえるでしょ……でもこれは雨よ、見えない川じゃない、ましてや、水遣の蛇口の水音なんかじゃなく、雨……こんなわたしの、べつとりした血を、すべてを洗い流すように、

雨が降ってんのよッ！

……だがなッ若造ッ（と傘をさす）！ 咬みしめる人生探すようじゃ一人前にスルメ咬んじゃねえ（笑つ）
そつだろつ若造ッ、だがだッ、おじさんはな、ちよつとだけつまみ残しておくんだ。最後の一口一気にあおる。フーッと一息ついて、コップをタンとカウンターに置く。……本当はな若造ッ、人生咬みしめてるんじやねえ、咬みしめる人生が在るわけでもねえ。この歳になると、忘れちゃいけない世迷いごとの一つや二つはあるもんだ。そいつを今夜も忘れまいと、こうして今夜もスルメを咬むんだ。そつだろーッ！ だお前エーッ！

音楽ＣＯ。
一つの静寂。

男 （静かに）明日なんてわかりやしねえ、今夜のために……（笑つ）今夜のためにだ、明日なんてわかりやしねえ。

男 （このうえなく優しく）お前エーッ……

同時に音楽・小柳ルミ子『お久しがりね』が静かに大きくＣＥ。

「 18 章 」

雨はやんでいる。

小柳ルミ子の『お久しがりね』で光は解放される。

最後の身体の展開、足を踏む。踏むことでの身

幕の開放。

大日本演劇大系 序の章

明月記

〔 登場人物 〕

.....

女 A
女 B
ゲスト
群集
曇珠沙筆
打上花火

〔 目次 〕

.....

〔 5 4 3 2 1 〕	章	捲摺	〔
〔 5 4 3 2 1 〕	章	さだめ川	〔
〔 5 4 3 2 1 〕	章	殺意の舟歌	〔
〔 5 4 3 2 1 〕	章	身体と民謡との距離	〔
〔 5 4 3 2 1 〕	章	湊才	〔
				1 1 1 1 1 1
				2 2 2 2 1 1
				7 7 7 7 1 1

「 1 章 」

挨拶 (即興)：：

挨拶。

挨拶はこれから始まることに無責任に期待を抱かせ、なりふりかまわず煽る内容。

意味についての本質論を演技として展開。

...	「	6	章	紫雲演奏	「	1	1
...	「	7	章	ゲスト・即興	「	1	3
...	「	8	章	受け・打上花火	「	1	2
...	「	9	章	受け・曇珠沙華	「	1	3
...	「	10	章	関係	「	1	3
...	「	11	章	異化	「	1	4
...	「	12	章	雨上がりの紫雲花	「	1	4
...	「	13	章	フィナーレ	「	1	7

「 2 章 」

同時に幕が振り落とされる。女Bが傘をさし背をむけている。

同時に音楽。ちあきなおみの『せだめ川』大きく流れる。

同時に女A傘をさして袖幕から登場。女Aは女

挨拶 (中略) 隅から隅まで (ツチがチヨンと一発) おん願ひあげます。

キがチヨンチヨンチヨン..... おもきくちヨン。

Bのライフマスクの仮面をしている。
女Bゆつくり振り向く。女Bは女Aのライフマスクの仮面をしている。
これから舞台上で使つものを女A、女Bが運び出す。
呼吸と腰（重心）を動く。袖から袖へ呼吸と腰（重心）を動く。この間に身体を晒す。
その短時間に見られる身体を獲得し、その身体を生きる。
動く身体からの、感情の一瞬の激変とその復帰。
運び込む物自体の世界をひろげる。物は人に使われその物の個性を主張しはじめる。物の世界を広げるとは、どのような使い方をするのか、どのような関係を成就するのかに関わる、極めて人間的な行為である。だが舞台には、労働という生活がない。物は生活の場で、人と関係を結び、その有用性を獲得していくにもかかわらず、しかし生活を支える身体はある。
その身体による物の発見は、新たななる物の世界である。役者たらんとする身体を獲得である。
曲の最後、舞台中央で向き合う。

「 3 章 」

殺意が因果関係のなかで自足するとき、そこに出現するのは、古典的な殺人、いやそれはたんなる人殺しと見ることができる。しかし人類史などといったものは、この因果関係の磁場からどこまで出ていけるのかを、試そうとする、さし

ずめうスコリーニコフであれば「神の意志」とでも呼べるものであるだろう。
だから、次のように最初の台詞が吐かれても、なんら驚くにあたらない。
とまれ、この場は、殺意の因果に割り入ろうとする、ひとつの黒の舟歌である。
ボトリと女A、女Bの顔から仮面が落ちる。

女B ねえあなた、人間がいつから駄目になったか知ってる？
女A えっ？
女B 人間がよ..
女A ええ..

間。

女B ...行こうか。
女A どこへ？
女B あっちの方へ。
女A だめよ。
女B なぜ？
女A 待つんでしょ。
女B あっ、そうだった。
女A なにを、しようか？
女B 待つんでしょ。
女A そうだった。
女B ねえ。

女A えっ？
女B あなた、わたしたち老人のありがたい三こと健康法つてしている？
女A えっ？
女B だめねえ、なんにも知らないんだから。いい、カゼをひかないこと、ころばないこと、そしてこれが大切で、でも考え過ぎちやダメよ。いい、義理を欠くこと。というのはね心をくだいて、誰に義理を欠こうかなんて、思い詰めて、心臓くしちやつたおばあちゃんもあるくらいだから、いくら三こと健康法つていつたつて、程ほどつてもんなのよ。それにちよつと聞いていただける。わたしがね、昨日、暑かつたじゃない、スーパーに行つたのよ。わたしだつてスーパーぐらいにはいきますよ、入るなりいやーな顔するのよ店員が。クラーク・ケントと待ち合わせにスーパーに来たんじやないつて言つてやつたのよ。あなたもこんど行つたとき言つてやつて、まったく、その女店員なんてのたまつたと思う。おばあちゃんここはスーパーなんです、いくら暑いだつて涼みに来るところじゃないんですよ、ですつて。なんなんでしょね。礼儀を知らないのにも程がありますよ。わたしがスーパーが買い物するところというのを知らないとでも思つたんでしょつかねえ。そりや、鮮魚売りの前には、少しだけ長くいましたよ。でも、人に後ろ指さされるほどじゃありませんでしたよ。そのくらいの礼儀をわきまえなくつちや世間の皆さん、に隣のかわいいおばあちゃんなんて顔はで

女 B きません。
女 B (笑う)……
女 A ねえあなた、人間がいつから駄目になったかして
いる?
女 B えっ?
女 A 人間がよ……
女 B ええ…
女 A B それはね人間が人を、心底憎んで殺さなくなっ
てからよ。
女 A 人間がよ……
女 B 心底憎んで、人を殺さなくなつてからよね。
女 A B こうして……

と、二人は首を絞めた。

女 A 今日も、暑いわねえ。
女 B (手を放している)ええ。
女 A 水をほつばつてカリッ
女 B ほんとうに。
女 A 昼寝もこつ暑くつちや…
女 B 打ち水するのもおつくつね、一雨くれれば気も晴れるん
だけど。
女 A 苦しいんですよ。
女 B どうして。
女 A 首を絞めてるんですけどもの。
女 B どうして、そんなこと聴くのつて聞いているの。

女 A 苦しいだけなんだろうかって…
女 B 聞いてみたら?
女 A だから聞いてんじやない。
女 B だれに?
女 A あなたによ。
女 B あたしがあたしに聞いてもだめよ。
女 A だって、首よ、息できないのよ。しゃべれないじやな
いの。どうやって聞けつていつの。答えてくれるとで
も、あなたは思ったの。
女 B だから判らないつていつてるじやない。判らなかつた
のよ。だからあなたにきいてるんじやない。
女 A 聞いているのは、わたしでしょ。
女 B どうちだつて同じじやない。あたししかないんだか
ら。
女 A あたししかないんですよ。
女 B あたししかでしょ。
女 A 思い出すが、こわいんですよ。
女 B そういう、あたしがでしょ。
女 A そういう、あたしがでしょ。
女 B もう、消えたら。
女 A あなたこそ消えたら。
女 B お昼のお弁当、今日も一つなのよ。
女 A それは、あたしの台詞。
女 B 暑いわね…
女 A いくらいつたつて、こんがらがつたりしやしないんだ
から。

女 B もう消えて！
女 A 怖くなったのね。
女 B あれ以上怖いものなんてなかったわ。
女 A よくいったわねえ。
女 B いまさらなにが怖いもんですか。
女 A ようゆうた。
女 B いいますわよお。
女 A ようゆうた。
女 B いいますわよ。
女 A ようゆうた。
女 B いいますわよ。
女 A おお、ようゆうた。
女 B ええい、ゆわいでか。
女 A ほんなら与兵衛さん、早つきてや。
女 B すぐ行くで！南無阿弥陀仏！
女 A 嬉しい！今度こそわたしから離れぬと約束しなはるか。
女 B するとも、死ねばええのやな。
女 A わたしはあなたの来てくれはるのを、今日が明日かと待っているのえ。もう寂しうて切のうて、待切れんさかい迎えにきたのや。そんな汚い坊さんしてはらんと、わたしのそばで暮らしなはれ、あんた寂しうはなのんか。
女 B お鷹、済まなんだ。わしは人に助けられ、役人にえろつとやされたが、坊主になれば命は助けてやると言われて、この通り、乞食坊主になったんや。お前を騙し

たわけやない。わしが臆病者で、よう死ねんかつたんじゃ。どつが許してくれ。ま
女 A いつまでわたしを、こないにひとりぼっちしておきはるのや。あの蜷川で言つたことは、みな嘘かえ。
女 B 嘘やない。
女 A ほんなら与兵衛さん、早つきてや。
女 B 死なれへんかつた。よう死ねんかつたんや！わしは、よくよく、だめな人間や。だけどな、あんどきは、おまえの後追つて、ほんまに死ぬ気やつたんや。それだけは信じてや。そして済まんけど、寿命のくるまでいかしといてや。お鷹ッ！..
女 A もうええやないか、もうええやないか、もうええやないか。いくらゆつてもせんないこと。お初、死場所はここに決めよう。この曾根崎の森を抜けるともう淀川や、二人の足ではそこまでもつまい。追手に捕まるぐらいなら、いつそこそこで二人して..
女 B 徳兵衛さま..もし途中で追手に捕われ、別々になつても、二人の浮名は捨てまいと用意してきましたが、初めの望み通り、一所で死ねるこの嬉しさ。
女 A おおよくいった、いさきよう死のうやないか、のちの世の死様の手本になつてみしようやないか。
女 B ええ徳兵衛さま、そうと決まれば、さあこの帯を裂いてくださいます。この身体乱れぬようにつゆわえます。
女 A うん。

と、赤い帯を二つに裂き、長い赤い線となる。

女 A 此の世のなごり、夜もなごり。死に行くこの身をたとふれば、あだしが原の道の露。

女 B 一足つつに消えて行く。夢の夢こそあはれなれ。あれ数つれば暁の。七つの時が六つ鳴りて残る一つが今生の。鐘のひびきの聞きをさめ。

女 A お初ッ！

帯が裂ける。

女 B 帯は裂けましたが、主様とわたしの仲は、あの世でますます強く…

女 A よく締まったか。

女 B はい、よく締まりました。

女 A お前と、この世でおうたが二人の因果。あの世では晴れて夫婦になって…

女 B はい…

女 A 不憫はないか…

女 B 徳兵衛さま…

女 A 恨むやないで。

女 B いつまで悲しんでもしかたありません。お経を念じる間に、ひと思いにッ…

と、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」

女 A 南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏…

と、ヘリコプターの飛行音まこえる。

女 A (刺す)…

ヘリコプターの飛行音大きくなり行き過ぎる。その後を追うように格子窓から指を差し視線を走らせる女 A。それに女 B も加わる。しばらく視線を送り続ける。女 A の指と視線は、なしくずしに夕日を遮るようになつた。

女 A きれいな夕日やあ。

女 B ヘリコプター…

女 A どこに飛んでくんやるか。

女 B あんた、毎日毎日他に聞くことないんか。

女 A あの子もよう眺めとつた。

女 B ヘリコプターのオモチャが一番好きやった。

女 A どこに飛んでくんやるか。

女 B あのなあ…

女 A …もう行こうか。

女 B どこへ？

女 A あっちの方へ。

女 B だめよ。

女 A なせ？

女 B 待つんでしょ。

〔 4 章 〕

急に大きく「民謡」C E。

宇崎童謡『八木節ロックンロール』

動くのか、踊るのか、このような解釈が在りうるのか、身体もまた二人の創出する世界も劇的である。

女 A あっ、そうだった。

女 B …なにを、しよつか？

女 A 待つんでしょ。

女 B あっそうだった。

〔 5 章 〕

いわゆる「漫才」。「漫才」を感じさせずの導入。

そして漫才ではなくなっていく。漫才はどこまで、どのように漫才でなくなっていくのか。すぐての意味でおもしろい事。

「民謡」は「民謡」でありつるのか。

民謡という日本的なるものとの、いまにこころる身体との距離。

「漫才」にいわれる「ドラマ」を挿入、つまり時間をどのように劇的に私有するのか。演技における時間の問題。

- 女A あんた、どうしてそんなのダメでしょうが。
- 女B アラ、なにかいけないテーマに触れたかしら。
- 女A お砂糖ッ、理由あるの？
- 女B 理由？
- 女A そうよッ、お湯をそそぐ前に、砂糖2杯もの幸福をいれたでしょ。
- 女B 分相応じゃなかったかしら。
- 女A そんなことでいいの、世間のみなさまに言い訳たつもの、あなたの残り少ない生活、ひよつとしたらそのお砂糖きっかけに乱れてしまうかも知れないじゃない。若者に見せつけてやる誠意とか謙虚さなんて微塵もなかったじゃない。
- 女B だって、いくばくもない人生、こころゆくまで、おいしくコーヒーなんて言わないわ、せめてインスタントコーヒー味わって飲めればって...このお腰にしみついた生活の重みに賭けて誓ってもいいわあたし...
- 女A そりやあなたは公務員生活、年満期を勤めあげてこういう生活なんですもの、年金ありますもの、だれははかることなくインスタントコーヒー飲むのにゴールドブレンドの赤ラベル、イーエブレジデントだっていいでしょうよ、ええ判ってますよ。それはしつかり、きつかり肝に命じております。判ってます。今入れたク

- リーブ、森永ッ！
- 女B まだ、森永不買やってんの。
- 女A 誰がッ？
- 女B あんたがよ。
- 女A 関係ないでしょ。
- 女B ニドおいしくないでしょ。おいしいものに拐かされるもの、それは大衆。大衆論はこのあたりから構築しなくつちや。
- 女A 知らないわよ。
- 女B アラ、あたし大衆よ。
- 女A ああそうよ、判ってますよ。あんたはピンからキリまで、大三元の役満で、誰が見たって親のトリプル役満海底ツモノ大衆あがり。
- 女B どういうことよ。
- 女A まいりました、ということですよ。
- 女B 判りやいいのよ。
- 女A 判ってないでしょ、どうしてお湯を入れる前に砂糖を入れるのよ。2杯もよ、カップの中によ、取りかえしがつかないじゃないですか。
- 女B えッ
- 女A 悲しいワ、あなたからそんな「えッ」なんて聞くのは、場つなぎじゃない、根拠がないわ、たんなる台詞割りだわ。意味ないんだったら大衆らしくやったらどつなのよ。
- 女B あなた...

見つめあつ腫と腫。

女 A あなた、判ってくれたのね。

女 B (大衆らしくやる)

女 A (泣き落しだ) お願いだから、もうこれを最後にしてちょうだいよ。インスタントコーヒー飲むときは、カップを両手で思い入れたっぷりに人肌に暖つたためて、スプーン一杯のコーヒー、その後スプーンを変えて。

女 B えッ?

女 A あなたッ!

女 B ごめんなさい。思い出した。玉将のギョーザライスだった。

女 A 玉将だけじゃなかったでしょうが。

女 B そつよ、鶴橋のホルモン屋でキムチとライスと焼き肉。一つのハシで食べるの? あたしそんなの信じられない。あたしにはそんな勇気のいることできないわ。いい、キムチのしるよ。焼き肉のタレよ、ライスがまかり間違つてササニシキだつてごらんなさい、どんな顔してそんなハシをササニシキにつきさしたらいいんでしょう。ああ鳥肌だつ。そついつのつてメチヤメチヤすぎるんじゃない。ギョーザのタレのついたハシでご飯食べるなんて大衆のやることじゃない。味はどつすんの味は..

女 A でも、日本では明治になつて一つの箸でたべるよになつたのよ..

女 B でも、江戸時代ではそついうことはなかつたのよね..

日本の近代化間違つてたのかしらね。

女 A 判るり? そつなのスプーン変えるのも、ハシ変えるのも、これ近代に対する批評性なのです。ごらんなさい、未だかつて外食産業として資本の最先端を走る「ほつかほつか弁当」。あたしはあすこが最先端であるゆえ要求したいのです。しかし、あすこの持ちかえりの弁当にはハシは一つしかついていない。近代主義批判の微塵もないんだ。どうやつて一つのハシでオカズとご飯を食べるといつの。

女 B ウラバシしたらいいんじゃない。

女 A あなた、どうして、そついう場当たり的な、テクニクの問題ですり抜けよつとするのウラバシのどこに近代に対する批評性があるとおつしやるのですか。あんなそれでも満期あけの元公務員さんッ!

女 B 公務員つてそんなものよ。

女 A (問) だから私は「ほつかほつか弁当」はハシを二本付けるべきだと思います。このハシ一本の近代主義批判がないかぎり、「ほつかほつか弁当」は今度こそつぶれます。

女 B スプーン取つかえたらいいんでしょう。

女 A そつなの、それだけなの。そつすればおいしくインスタントコーヒーがいただけるの。

女 B いつもおいしくいただいていますよ、あたしは..

女 A どうして、そんな自信に満ちあふれた顔をして言い切つてしまつたの。スプーン変えなくつちや、インスタントコーヒーがこびりついたままでしょうが、お湯と砂

糖と混ぜる前にスプーンの上で、インスタントコーヒーと砂糖が淫乱に妥協してしまつじやない。そんなインスタントコーヒーがおいしいわけじゃないでしょうが、誰が責任取んだよ。

女 B あたしが取るわ... 突然聞くけど、あんた何にこだわってんの。

女 A こだわることにはこだわってんです。

女 B そんなにこだわることないのよ。このインスタントコーヒー、お中元なんだから。

女 A だからお中元だとか、年金で買ったとかそんなことが問題じゃないっていつてんでしょが、いいですか、じゃあ、お聞きしますけど、あなたチーズ好きですか

女 B だーい嫌いです。

女 A じゃあ、ピザトーストは？

女 B 好き。

女 A どうして、何故？あまりにもいいかげんすぎるんじゃないかってそういうのは、だからあたしはあなたに言ったのよ。インスタントコーヒーを飲むときにはコーヒーカップを両手で思い入れたっぷりに人肌に暖めてスプーン一杯のコーヒーを入れ、そしてお湯を注ぎなさいって。コーヒーをほどよくかきまわす。次にスプーンを換えて、お砂糖を...

女 B 一杯ほど、ちょっとぜいたくかな。

女 A 糖尿にならないようにと願いを込めて二杯入れ、ゆっくりかきまわす。

女 B ねえあなた、あたしは砂糖を先に入れてもいいと思う

けど。

女 A どうして？それじゃこだわりなさすぎるじゃない。いい、お湯にとけたインスタント

 コーヒーに砂糖を入れてあまくしていくの。これがこつでしょ。

女 B あたしどつちでもいいと思うけどな。

女 A だめでしょ。こだわること。そこんとこしつかり押さえとかなくっちゃ。こういう生活だからこそインスタントコーヒー、お湯、お砂糖にこだわりぬいて生活支えんのよ。あんたそれ以外にこの生活支えられると思つてんの。

女 B 責任と主体性をもってやりぬいて生活の根拠にすのね。

女 A そうよ、あなた。そうなのよ。

女 B でも、でもよ、インスタントコーヒーにお湯入れて砂糖入れるのとやっぱり同じじゃない。

女 A 違うじゃない、決定的に違うじゃない。インスタントコーヒーとお湯に砂糖入れるのはこつ糖分の甘さを増していくことなの。

女 B そうよ、そうでしょ。

女 B 湯ましじゃないの？

女 A 言葉のアヤで水ましかつていうの。甘さをうすめていつてしまうのよ。あんた水増しの生活なんかたえられて、あたしはたえられませぬ。

女 B 住めば都つてこともあるし、体質にあつたらいいんじゃない。いやだつたらさ出て行けばいいんだしね、元

〔 6 章 〕

大正琴とハーモニカの合奏。
舞台での佳境がする楽譜の可能性。いずれ楽器
は変わっていくことになるだろう。

女 A 々にあたしらの家じゃないんだから。
体質にあつ訊ないでしょう、出て行きたくても出れな
いでしょう、こんなとこ好きでいるんじゃないんだか
らッ！

〔 7 章 〕

ゲストの登場。看守である。

ゲスト いい加減にして、こじがらるせいで周りから苦情が
でてるんだ。何時だと思ってる。

ゲストが繰り広げるものを即興で支える。

ゲスト 就寝時間はとっくにすぎている。早く寝るように。
女A B おやすみなさい。

ゲスト退場。

〔 8 章 〕

相手をめだたせる。
女Aが女Bを支える。

女B ねえ、あんた。こうやってしていると二人は幸せな姉妹みたい。

女A 何もかも瓜二つだものね。（観客の頭上を指して）あらッ、流れ星。

女B （見上げて）見える見える。きれいだねえ…。あッ、消えちゃった。

女A 消えちゃった。

女B 本当に見えた？

女A うん。西の空を…。

女B 東の空じゃなかった？

女A 西の空よ。

女B 東の空よ。あたしは右目でみたのよ。

女A あたしは左目。

二人、ニッと笑つ。

女B あたしの右目の視力は0.2よ。

女A あたしの左目も0.2よ。

女A B にてるわねえ。

女B あんた、ちくわ好き？

女A 大好き。あたし直径1cmの穴のあいたちくわが好きよ。

女B それぞれ、あたしもよ。直径1cmの穴のやつ。

女A B 似てるわねえ。

女B （突然自分の乳房をつかむ）どう？あんた気持ちいい？

女A （自分の乳房をつかんで）あんたは？どう？

女B あたい、夢みてるみたい。

女A あたいもよ。奥の方がドキドキしてるわ。

女B それはあなたの心臓が鳴ってるんだよ。
女A 心臓が？
女B うん。
女A ねえ。あなた。あたしの心臓もあなたの心臓と似てる
かしら？
女B きつとそつくりさ。切りさいて調べてみよつか。
女A 痛いよ。そりゃ。
女B 痛いね。ごめんごめん、もうそんなこといわない。
女A いわないでね。
女B いうもんですか。
女B (自分のホホを軽くぶつて) 痛いあなた？
女A (自分のホホを軽くぶつて) あなたは痛い？
女B 本当に痛いのかしら？(軽くぶつ)
女A 本当に痛いのかしらねえ？(軽くぶつ)
女B 痛いと言っから痛いんだわ、きつと。
女A じゃ、ぶたれて「痛くない」といつても痛いかしら？
女B (強く自分のホホをぶつ) ほら！
女A うッ！痛くないっ。
女B どうなすつて？
女A …わからない。あなたは？ほらっ(自分をぶつ)
女B 痛くない！

二人ホホをさする。

女B やっぱり痛いわ。
女A やっぱり痛いよ。

【 9 章 】

相手をめだたせる。

女Bが女Aを支える。

温泉につかっていました。さしずめ仙台では「一の蔵温泉」につかって身体が「一の蔵」に、札幌では「いくら井温泉」につかって身体が

「ウニ」になっているそんな様子で…。

女A (笑い) ああ、ええ湯や、辰拭巾 蠅ご糞?!

女B 何処行ってたん?

女A 「一の蔵温泉」気持ちよかつたり、もお身体が「一の蔵」や、ほんまに。

女B ギクツ。

女A 美味し〜いつまみがあつたら自分の身体飲んでもええでえ〜ほんまに。

女B ギクツ、ほっ、ほんまのほんま?

女A あかんアンパンマンよりきつい、やめとご。それより、一杯やりまひよ。(一升瓶をあけてぐいつと一杯飲む) うひよ〜おいしい〜シ・ア・ワ・セ。さあ、どうぞ(とつごつとするが)その前にクイズです。答えは簡単です1+1は?

女B ギクツ、(恐る恐る) 2やご。

女A プウツ~~~~~

女B ギクツ。な、なんで?

女A 答えは簡単です。うひよひよひよひよ。さあ、風呂上がりの一杯、宴会しましよ。どうぞ(やつとつぐ)今日のテーマは演技についてや。

女B ギクツ。何やそれ、演技について?聞いたことあるな。

女A 演技とは何か?

女B 演技とは、技を演じると書くから技を演じることや。

女A 技つて何や?

女B しらんわ。

女A えっ! 技も知らんの?

女B 私プロレスラーちやごもん。

女A 役者やもんな? 役者じゃの?

女B ふるウ〜…

女A 演劇つてなに?

女B 色々あるがな、面白い演劇、面白くない演劇、静かな演劇、うるさい演劇、つまらない演劇、どつしよごもない演劇(何やかんや並べる)…

女A ちよと待てつご、それみんな演劇の仲間か? 誰が決めたんや?

女B 誰でもない、感想や。

女A 法律で取り締まつたらええのになあ。

女B 今、私ら何やつてるとおもてんの?

女A 芝居の本番中や。

女B ギクツ、こんなんでええの? こんなことで。罰せられへん?

女A 法律は単なる提案や。ギクツ、やけどお登さんにおこられるかもしれへんな。

女B ギクツ、一升、無くなつてしもつた。

女A 誰の一生や?

女B 私ら二人の女のイッショウや。

女A エンギでもないこと云わんといて。

女B 何云つてんの、これは演技や。技を演じなさい。

女A ギクツ。…踊ります(女Bの歌に合わせ女A「割り箸踊り」ひと振り)

女A ありがとご。ちよつとは芝居に戻つたかな?

女 B 全然、まったく。
女 A ギクツ（カバンの中から聖書を2冊取り出し1冊を女
Bへ）はじめます。
女 A 今から、私卵をつみます。
女 B 今から、私卵をつみます。

「神の名遊び」

女 A 既に国生みをへて、さらに神を生みき故、生める神の
名は？
女 B オホコトヲシラの神 次に
女 A イハツチヒコの神 次に
女 B イハスヒメの神 次に
女 A アメノフキラの神 次に
女 B オホヤビコの神 次に
女 A カザモツワケノオシラの神 次に
女 B アワナギの神
女 A アワナミの神
女 B ツラナギの神
女 A ツラナミの神
女 B アメノミクマリの神
女 A クニノミクマリの神
女 B アメノクヒザモチの神
女 A クニノクヒザモチの神
女 B アメノサツチの神
女 A クニノサツチの神

女 B クニノサギリの神
女 A アメノクラドの神
女 B クニノクラドの神
女 A オホトマトヒコの神
女 B オホトマトイメの神
女 A B この子をつみしによりてみほとやかえてやみにやせ
り

「神の名遊び」で時空が歪む。カバン屋へ移行。

「神の名遊び」は千賀ゆう子さんの「古事記
をめぐる2」より抜粋、引用させていただきました。

【 10 章 】

女 A、カバンを開ける。中を覗きながら...

女 A メタセコイア、つて知ってる？
女 B （小さい声で）チャック下ろすぞ、チャック下ろすぞ
...

女 A メタセコイア。生きた化石。新生代針葉樹。種子植物スギ科。葉は対生。中生代の第三紀にかけて世界中に繁茂した。一九四五年、中国四川省で発見された化石のメタセコイアから奇跡的に採取された種子は、フラスコの中で芽をだし、数千万年の時を越えて、この現代に蘇ったのだった。

と、なにやら様子が違う。

女 A この巨大な落葉高木は、その化石から類推すると、時に三十メートルにも及んだであろうといわれたのだった。フラスコの中で発芽し、無菌室で育った苗はまもなく中国四川省に返された。順調に成長しその雄姿を再びこの現代にみせるかに思われたが、一九五〇年、忽然とその姿を消したのだった。

女 B 数千万年の時がその蘇生を受け付けなかったのか、その存在に興味を持つ何者かによって奪い去られたのか、いまだ謎のままである。

女 A 一九六〇年、巷にまことしやかな噂が流れた。

女 B (予期せぬ言葉に「えっ!」と振り向く)...

女 A 球果からはじけた、メタセコイアの胞子は偏西風に乗ってゴビ砂漠に、蒙古平原を駆けぬけ、この地上を席捲したと、まことしやかに語られた。

女 B ∴

女 A (笑い) ∴

女 B 誰なんだいお前は...

女 A まことしやかな噂は伝説を生んだ。メタセコイアの胞子は、中国から舞い上がる黄砂に乗って、この日本にも辿り着いたんだと。

女 B なんの話しだい、それが伝説とはとんだ話だね。

女 A この続きを聞きたかったら、このカバンを買って下さい。

女 B そのなかには何が入っているの?

女 A えっ?

女 B だから、そのカバンの中には何が入っているんだよ。

女 A 運です。

女 B えっ?

女 A (笑い) たかがカバン屋に、そんな唐突な質問投げかけて、立場が逆転するともお思いでしょうか。

女 B そうだとしたら...

女 A たかがカバン屋は、ただ切り返すだけです。

女 B 相撲じゃないんだから、土俵に俵はないよ。そう簡単には切り返されはしないと思っただがどうでしょうか。

女 A 話の続きは聞きたくないのでしょうか。

女 B たかがカバン屋は俵のない土俵で、話しを売ってカバンを渡すのかい。

女 A いつときますが、カバン屋はいつだって、カバンを売ったことはないのです。だから、カバン屋にカバンを買いにくるカバンを買う人はカバンを買ったことはないのです。それでも不思議なことにカバン屋はカバンを買って下さいというのです。

女 B それじゃカバン屋はお前の喋ったセンテンスと同じで

女 A 文法がないじゃないか。
女 A 文法で小説は書けません。ただ自由・文法だけなの
です。
女 B それをいつなら自由奔放だよ。
女 A ガキのよく読む小説に出てくるダジャレを真似てみま
した。
女 B なに企んでる。
女 A 不安になりましたか。
女 B 思いすぎだ。
女 A カバン屋はいつもそんな不安にさいなまれていました。
女 B 思いすぎだつていつてるだろつが、ただ、お前のふら
ちなお喋りについて行く隠れ蓑なんだよ。初対面なん
で気を使ってるんだ。解るだろ、商売やってんだつた
ら。
女 A はい、その気の使い方好きです、綺麗です。
女 B えッ？
女 A その気の使い方です。
女 B いや、その後。
女 A 好きです。
女 B その後だよ。
女 A 綺麗です。
女 B てれるぜッ…
女 A えッ。
女 B はっきりいわなくていいだろ。
女 A いえつていつたから。
女 B いいよ。立場逆転した。

女 A 単純ですね。
女 B 単純で悪いか。
女 A 綺麗です。
女 B 二度目は効果つすれんだ。唐突に出た一度目は、お愛
想でも納得するが、ダメ押しされると理不尽な疑問形
が断定形を押しつけて、女の五段活用をはじめてこら
ん。否定形はもしかしたら、すぐそこに…
女 A 複雑なおんな心の文法ですね。
女 B ∴ なんの用なんだい。
女 A 二つ目の唐突な質問。その手は藝名の焼き蛤。わたし
はただのカバン屋です。
女 B なに企んでる。
女 A 不安になりましたか。
女 B 思いすぎだ。
女 A カバン屋はいつもそんな不安にさいなまれていました。
女 B もついいッ。
女 A いつときますが、カバン屋はいつだつて、カバンを売
ったことはないのです。
女 B じゃ、何を売つてんだよ。
女 A カバン屋の前の商売を知っていますか？
女 B えッ？
女 A カバン屋の前の商売です。
女 B カバン屋の店先で、あたしがいちいち聞いたことがあ
るとでも思っているのかい。
女 A この国の多くのカバン屋の前の商売です。
女 B おまえ、ただのカバン屋じゃないね。

女 A 唐突な質問の連発ですが、立場は逆転しっぱなしで、わたしの手の平、いえ、もうここはカバン屋のカバンの中なのかも知れませんが。

女 B カバン屋のまえの商売は？

女 A そう直にでればすぐ教えてあげたのに。

女 B ゴチャゴチャはもういいんだよ。

女 A カバン屋の前の商売は、カンバン屋でした。

女 B (爆笑)何かと思えば、またダジャレかい。

女 A いいえ、マジです。マジほど怖いダジャレはないと思いませんか？

女 B ∴

女 A カンバン屋はある日、高い所で仕事をしておりまして。ところが突風、その突風に煽られた拍子に梯子を踏み外し、地面に叩きつけられたのです。そのときを落としてしまい、カバンになったのです。カンバン屋はそれ以来、一つの運を無くしていつも不安にさいなまれてきました。こうなればもうカバンは、も一つの運を落とすわけにはいきません。そうではありませんか？それでは世の中真つ暗闇じゃございせんか。考えてもみてください、なにせ二つ運を落としてしまえばタダのカバなのですから。そこまでいくわけにはまいりません。∴故なく消し飛んでしまった運。カンバン屋は考えたのですもしかするともう一つの運も、いつどんな拍子にと思ったのです。ついに考えつききました。カバンの中に運を詰めよう、と。そのときからカンバン屋ははれてカバン屋になったのです。

女 B よかったね。

女 A カバン屋のバイブル、カバン屋の日本書紀、あるいはカバン屋独立宣言とでもいっていいこの逸話に対して、あなたは他にいつべき言葉はないのですか？

女 B おめでとつ。

女 A ∴これが、ことの顛末です。

女 B よかった。ようつポストカンバン屋。ようつ新たなるカバン屋パラダイムっ、ベッベッベッベッ。

女 A その唾、自分の頭の上に落ちないといいですね。

女 B この脈絡の行間を読めッ！

女 A やつぱりバカにしてるんだな。

女 B カバじゃなかったのか？

女 A そうです。運はここに入っています。

女 B 涙でる。もういい。本当によかった。お疲れ。∴それ以外いつことない。期待に応えられなくてメンゴ。

女 A 納得します。ついにあなたは、感涙にむせびました。それで十分です。

女 B 涙なんか出てない。

女 A いいえ出ました。わたし行間を読みますから。

女 B かつてに解釈するな。

女 A 幾多のカンバン屋さんはきつと浮かばれます。

女 B 琵琶湖の水面にでも浮かやがれ。

女 A えっ？

女 B お付き合いするが、それじゃ日本中のカバン屋は運話め込んで、商いに励んでいるというわけだ。まったく臭い商売じゃないか。

女 A 残念ながら、閉し込めてしまった運を売るわけにはいきません。

女 B それじゃ、カバン屋はカバンも売らず、運も売らず、何を商っているんだ。

女 A カバン屋は気心を商っています。

女 B ピュアーだね、いいかげんにしろッ。

女 A そう、気心はいつだっていいかげんで、うつろいやすい。

女 B カバンの中に運を詰め込んでカバンを売らないカバン屋さん、一つ、その気心とやらをこのあたしにも分けて貰えませんか。

女 A まいどいらっしゃい。どんなカバンにいたしましょうか。

女 B 気心の入ったやつ。

女 A そうです。そうしてお客はカバン屋の店先をくぐり、カバンを買っていくのです。そうじゃなかつたらカバン屋なんてとつい昔につぶれているんです。考えてみてください。あなたは生まれてこのかた、いくつのカバンを買いましたか。押し入れを開けて数えてみて下さい。そこにはきつと、用済みのカバンがゴロゴロと転がっているはずですよ。なぜでしょうか。カバンが単なるカバンならたった一つでよかつたはずなのです。

女 B 押し入れには、忘れようにも忘れられない記憶が詰まってるんだよ。そんな押し入れの中にファッションに添い寝した使い古しのカバンが山ほどあるなら、それは一つ一つの思い出なのかもしれないね。そつと手を差

しのべて、ふとわれに還るための..

女 A それは気心の残骸です。あなた、カバン屋になれます。いえもつとつくにカバン屋なのかもしれません。

女 B あたしには、商つ気心なんてないよ。

女 A でもなれます。

女 B かつてに解釈するな。

女 A 行間をよんでるわけじゃありません。

女 B あたしのことはほつときなよ。

女 A カバンを売らないこのカバン屋だつて、商つ気心なんてあるわけありません。カバンを売らないカバン屋は、お客の持つてくる気心を色分けし、カバンに入るようにして持つて帰つてもらうだけなのです。

女 B カバンを買うためにカバン屋にいつて何が悪いッ。

女 A 悪くありません。だつてそれが人生なのですから。でもほんつとつに、あなたはカバンを買うためにカバン屋に行つたことがありますか。だれもないのです。だれもが、何を詰めようかという思いを込めてカバン屋に行くのです。そこでわたしはこのカバンに詰めた運を、少しばかり働かせて、色分けし、お客の持つてきた気心が運がつくようにするだけです。企業秘密をここまではらしました。カバン一つ買つてください。カバンを売らないカバン屋は、あなたの気心詰めてさしあげますが。

女 B 詭弁だ、こじつげだよ。このペテン師。

女 A じゃお伺いしますが、あなたはこのように舞台にたつて、いったい何を商っているのですかッ。

女 B ……
女 A 人の気心じゃなかったのですか。するとあなたもペテン師ですか。
女 B 人の気心勝手にあつかうな。おまけに色までつけやがって、何様のつもりだい。
女 A カバン屋のまえの商売をお忘れですか。カバン屋です。カバン屋に色はつきものです。いまさら何をおっしゃるのですか。昔とつた杵柄忘れるよつじや、カバン屋のお里もしれたもの。
女 B ああいやあ、こついいやがって。お前はやつぱりペテン師だ。だがな、お前のペテンはソフトばつかりだ。とろけてまうぜ。中途半端じゃないか。悔しかったらチェーンでも巻いてへビメタやってみろ。
女 A ここでどくろを巻くつもりはありません。
女 B ハードだよ。ばかやろう。ハードで気心揺すってみろつてんだ。
女 A 演歌じゃなかったのですか。
女 B こじつけはもういい。もういいよ。
女 A そう、もうわたしの用は終わりです。だって、ここまで鎖で引つ張り回したのですからきつと気心は動きはじめ、その風に乗ってメタセコイアの種子は、飛び立ったといつていいのですから。
女 B なんだつてッ！
女 A だってここは、一丁目一番地なのです。
女 B ここが一丁目一番地ッ！どついつことよ。
女 A 謎のカバン屋の新・日本書紀第一頂ッ！

女 B ……風が吹いている……本当に。風が吹いている。そんな馬鹿な、風なんて吹くわけじゃないじゃない。だってここは……
女 A 一丁目一番地ッ！
女 B 水の音……流れてるんだッ！（笑）おーい？叩 澆鵲 福？？証い討い襯叩 茶碗擦？？るッ！
女 A それじゃまた。
女 B 行くのかい。
女 A ええッ。
女 B いつかまた会えるんだろつか。
女 A いつかまた気心のしれたころに。
女 B 最後の一つ、もうなにも聞かないから、一つ教えておくれ。
女 A カバンを売らないこの謎のカバン屋にですか。
女 B そう。よかつたら、カバンを売らないカバン屋は、いつカバン屋からカバン屋になつたのか。それがいつの話か聞かせてもらつと、嬉しいのですがッ！
女 A とき、暗雲たなびく乱世、平安の世はちよつと八百年前、一一八九年、文治五年四月、陸奥の国平和泉、衣川にいだかれた高館の戦場であつた。まもなくその持仏堂では一人の若武者が自刃の露としてはてるはずであつた。その若武者とは、歳幼く七歳にして、鞍馬の山の奥深く、禅林坊阿闍梨寛日の弟子となつた稚児の成長した姿であつた。その名は源久郎義経ッ！
女 B やつぱりそれは、子供騙しのこじつけだッ。
女 A こじつけだとしたらッ？

女 B おつきあいする身にもなってもらいたい。
女 A そうすると、このわたしたちの歴史が、あなたの人生
が、そしてこのわたしの生活が、こじつけの積み重ね
ではない、と、ついにいい切っているのですね。
女 B できるなら..
女 A どう、できるならそのこじつけを、メタセコイアが数
千万年の時を越えて蘇ったよつにとつばらつて見たい
と、カバン屋は思つのですッ！

照明激変。

「 11 章 」

女 B もつやめてッ！（と怒つて魚を投げ付ける）

魚がある。
この魚が二人の想像力を武器に二人のかつての
子供になる。

観客にとっては魚は物理的に人である。

女 A 痛いじゃないの、かわいそうに。
女 B 何が。
女 A 魚が。
女 B 魚が？

女 A 魚を取る。

女 A かわいそうに。なによその目、そんなにいやなの。
女 B べつに..
女 A おかしいとおもつてるんでしょ。
女 B なにをいつているのよ。
女 A おかしくつておかしくつてしかたがないんでしょ。
女 B あたしはただ..
女 A おかしかったら笑いなさいよ。
女 B おかしくなんかないわ。
女 A 笑いなさいつて！
女 B （えへへと笑つ）..
女 A もつと笑いなさいッ！
女 B （笑つ）..
女 A だめよッ、もつと、もつと笑つのよッ！
女 B （ばか笑い。ひきつり悲慘になつてくる）..
女 A もつ笑えないつていうのッ！
女 B あなたが笑つてみたらッ！どうなの笑つてみなさいよ。
笑いなさいつてッ！

女 A (笑う)..
女 B そんなんじやわからないッ！
女 A (笑う)..
女 B 泣いているのが、もつと笑えッ！
女 A (笑う)..
女 B 笑えッ！
女 A 笑えッ！

「笑えッ！」と笑いが混乱。ついに寂寞は飛躍しない。錯乱は静寂へ。
二人は魚を目にする。身体の一部が痒くなってくる。除々に痒さは増す。
互いに相手が早く寝ないことを責める。

女 A 魚、私、駄目なのシンマシ..
女 B 魚、私、駄目なのシンマシ..

痒さが激しくなってくる。

女 A あんたが早く寝ないから。
女 B あんたが早く寝ないから。
女 A ..
女 B ..
女 B あんたが早く寝ないから。
女 A あんたが早く寝ないから。
女 A お前が殺つたんだろ！

女 B それは何も知らない、がんぜない、僕は五尺之童でした。僕は夜空を飛んでおりましたこの黒髪は来る風に、千切れんばかりのフラフリフラのフラッター、学生服はそんな風を背にはらみ、上へ上へと押し上げます。順風満帆の空中飛行！何処で殺したんだッ。
女 A それはまるで夢を見ているようでもありました。それは荒野を駆けめぐる夢がかけこんで行った月の砂漠だったのかも知れません。砂に隠れた幻の地平線を求めてすべてのものはめくるめくひるがえり..ホラ、幻の地平線から銀板の月が登ります..その日は雨だったか？
女 B そのゆらめきははあるはずがない。けれどそれは見えているのです。頭上にまとわりついて、そして離れようとしな、この大地に染みてそこにあるのだと思えます。光となって滲み出ている。それはきつと少年達の想いが行き場を失い、袋小路の迷路に苛立ち、苛立つほどに発光している、そんな栄光の光の具合なのです..泣いていたのか？
女 A 風が吹き始めました。この風はきつと俺が学校に行つてたとき、昼休みの体育館の裏を吹いていたやつだ。みなさんのホホやつなじをそよいでゆきます。一時間目の授業に遅刻して、取り残されたプラットホームを通り過ぎた風、体育の時間を休んだ、昼下がりの一人きりの教室に吹いていたのがこの風だ。ほら、風が吹き始めました..どんな気がしたんだッ！
女 B 風はいま、風鈴に化身しています。風はこの空気を振るわせ、音波となってチリン、リンリンとその身を振

女 A 　　るわせ、僕をとりまきます…ずつと考えていたのか？
御破算で願ひましては…美しい言葉…一言つづやき、
そのように、おもいやる程に、願う程に、叶うなら…
はかなく美しい言葉だと思ひます。だからこそきつと
この世にあまたあり、目あかりに照らされた、成就せ
ざるほのかな思ひが、そつづややくのしょう…正直
に言つてみるツ！

女 B 　　ねえ君、君はこうして、未練が梯子に乗っていた。ぬ
けがらが土蔵の中で、解き放たれたみまこつばかりの
時間の中に、いつはてるともない迷宮の物語へと旅立
てば、君はいつも格子の外で僕といた。いや、そのと
き、君は僕だったのだ…歳はツ！

女 A 　　子を生んだことのない身は子持ちより幸せと申せまし
よう、なぜなら子を持たぬ身は子といつものが良いも
のか困つたものが、それがわからず色々な苦労から免
れているのです…だが、もつ遅い、何がなされよう
とも、すべては遅すぎるツ…誕生日の前の日だろツ？

女 B 　　ある日のことでございますツ！お釈迦様は…極楽の蓮
池のふちにたつて…この、一部始終をしつと見ていら
つしやいました…やがてお釈迦様は、光一を地獄から
助けようとお考えになつたのでございます。そして、
光一が慈悲をかけ、その命を慈しんだクモのその糸を、
お釈迦様は蓮池の底深くたらし、光一の前に差しだし
たのでございます。光一はそのクモの糸を登り始めまし
た。まもなく蓮池の縁に手が届かんとするそのとき、
ふと下を見ますと、多くの餓鬼どもがクモの糸を登つ

てきているではありませんか。そのためクモの糸は、
光一の手元で、今にも切れそうになっています。光一
はあわてて、自分の足元のクモの糸に手を伸ばしツ！
…何故一緒に死ななかつた？

女 A 　　黙りやれツ！わらわはヒミコ…とヒミコであつたそのゆ
えに、わらわの命は助けられ、わらわに生きて苦しみ
を、国を失つた悔しさを味わえ、という…あの人はそ
ういつた。あの人がヤマトだつたのか…ヤマトがあ
の人だつたのか…いずれにしろ、このうらみ、ヤマトに
返さねばならぬなあ…千年を生き延びて、生き延びた
がゆえにナメてきた。そのノシに、国を滅ぼされ、財
を奪われたうらみをつけて返してくれよう。それこそ
ヒミコとヤマトの無理心中、わらわの道行じゃ！…毎
晩毎晩、夢にうなされているんじゃないのかい？

二人、大きく踏み出す。

女 B 　　親を殺した小雀が恋し恋しと鳴きます。恋し恋し飛
びます。なにが恋しと聞いたらば、チュンチュンチ
ュンチュン鳴くばかり。鳴いたお口のなかからは舌だ
す舌さえ見えません。あたしや舌きり雀です。あたし
の恋しさ知りたけりや、あたしの舌に聞いてくれ。あ
たしもそれを知りたくて、今日もお空を飛びます。
明日もお空を飛びます…悔やんではないのか？

女 A 　　…だが人は人に出会い、親は子に出会い、子は親に出
会う。女は男に出会い、男は女に出会う。この出会い

の中で様々な想いは漠として生まれ、やがて血を滴らせついでさる...げに恐ろしきは、げに恐ろしきは...お前を見て、笑ったんだよな？

女 B 苦しいよう、苦しいよう...暑いよう、苦しいよう、焼け死んじやうよう。水、水をくれ! 母ちゃん逃げよう、母ちゃん逃げよう! 母ちゃん、母ちゃん! その子は何をしていたんだ?

女 A 母さん好きなんですよ。父さん嫌いでも、母さんは好きですよ。じゃ抱いてあげるいらっしやい(と、喪服の片肌ぬいで卓袱台の上へ、大股開きですわる)さあいらっしやいこわいことなんてないのよ。お乳すわしてあげる。やさしく抱いてあげるからいらっしやい...その後、お前は何をしたんだ?

女 B ...記憶が蘇る。...あなたの中で僕の記憶を蘇らせてくれませんか。夢をみたいというではありません。こんな僕がただいやだと言いつのでもありません。あなたの中で僕の記憶が蘇るなら、僕はそれをかつさらい、きつと在るだろう僕のもう一つの可能性を生きてみたいと思つのです...お前の見上げた空は何色だった?

女 A (星空を見上げて)人が死ぬ時は何時だったて、視線は地面すれすれにあるとは思わないかい。きつとそれはこの人の一生で一番低い視線なんだ。その視線はその人の最後の風景としてその脳裏に深く刻まれるだろう。すべての人の最後の風景がきれいだったらいいのにねえ。それで十分だと思わないかい、それでいいんだよ。...君が水中から見上げた視線は水面を突き抜けて

星空にとどいていたはずだ。星からの光線は水中ではきつと...

女 A B ...こんなふうにきらめいていたはずだっ!

女 A B (むきあつて)オイもついいんだよ。もつすこし寝ているよ。こつからがいいとこだ。ここまではいつだつてこれたんだからな。

女 B それは私のいうこと。

女 A それは私のいうこと。

女 B ここから先は私一人でいく。

女 A ここから先は私一人でいく。

女 B 一人にしてよ。

女 A 一人にしてよ。

女 B もついいから寝なさい。

女 A もついいから寝なさい。

女 A B ...

女 A あなたこそ寝なさいつてッ。

女 B あなたこそ寝なさいつてッ。

女 A あなたが寝ないとあたしは眠れないのよ。

女 B あなたが寝ないとあたしは眠れないのよ。

女 A 一人にしてよッ。

女 B 一人にしてよッ。

女 A B ...

女 B 寝なさいつてッ!

女 A 寝なさいつてッ!

女 B 寝なさいつてッ!

女 A B ...

女 A お願いだからもうほっといてッ。
女 B お願いだからもうほっといてッ。
女 A お願いだからもうほっといてッ。
女 B お願いだから一人にしてッ！
女 A お願いだから一人にしてッ！
女 B お願いだから一人にしてッ！
女 A お願いつ！

二人、大きく踏み出す。

女 B お願いつ！
女 A お願いつ！
女 A B お願いだから寝てちょうだい。

女 A は出刃包丁を持つ。女 B は魚を持つ。

女 A B そんなに泣くと、お父さんが起きるでしょ。
女 B そんなに泣くと、お婆さんが起きるでしょ。
女 A そんなに泣くと、近所の人が起きるでしょ。
女 A B お願いだから寝てッ！

女 B はさかなを子供の首を絞める。
女 A は女 B から魚を狂ったよつにとる。女 B の
対象は招き猫に変わる。女 B は傘をさし雨降る
外へでたよつだ。

女 A B 泣かないで。
女 B 寝て。
女 A 泣かないで。
女 B 寝て。
女 A 泣かないで。
女 B 寝て。
女 A 泣かないで。
女 B 寝て。
女 A 泣かないで。
女 A B お願いつ！

女 A は出刃包丁で魚を刺した。女 B は招き猫を
絞め殺した。音楽 C O。
女 A ・女 B の号泣が続く。そして続く。

女 A そんなふうに子供の首を絞めたんじゃないんだろッ。
女 B いいえ、私はこうして子供を刺し殺したんです…そんな
ふうふうに子供を刺し殺したんじゃないんだろッ？
女 A いいえ、わたしはこうして子供の首を絞めたんです…
…そんなふうに子供の首を絞めたんじゃないんだろッ？
女 B いいえ、私はこうして子供を刺し殺したんです…そんな
ふうふうに子供を刺し殺したんじゃないんだろッ？
女 A いいえ、わたしはこうして子供の首を絞めたんです…
そんなふうに子供を殺したんじゃないんだろッ？
女 A B はい、私がこの手で、この母の手で、我が子の首を

女 A 絞めたんですッ！
女 A そして、あたしも死のつとおもったんです。
女 B でも、怖くなったのです。いいやそんなことはない…
でもこうして生きている。
女 A わからない…
女 B その目はあたしを信じていました。すべてを許すよう
に…でも、死を受け入れる目の輝きなどがあるでしょ
うか。
女 A 微笑んでさえいました。
女 B そうよ、手をこのわたしに差しのべさえたのよ。
女 A なぜなのッ！
女 B 微笑んでいたからッ？
女 A 邪魔だったんでしょッ？
女 B 包丁があつたからッ？
女 A お酒のんでたからッ？
女 B テレビがうるさかつたからッ？
女 A 男が憎かつたからッ？
女 B お客が来たからッ？
女 A お隣が気に入らなかつたからッ？
女 B 暑苦しかつたからッ！
女 A 電車が通り過ぎたからッ？
女 B 人が歩いてたからッ！
女 A 話し声が聞こえたからッ！
女 B 外がうるさかつたんでしょッ！
女 A ビルが高すぎたからッ！
女 B 人が多すぎたからッ！

女 A 街があつたからッ！
女 B 政治が気に入らなかつたからッ！
女 A B 天皇ヒロヒトが死んでしまつたからッ！
女 A B ちがう…
女 B すべては違つわッ！
女 A そしてすべてはそつよッ！
女 A B だからわたしを殺してッ！

「 12 章 」

空間が歪む。

一人はこの劇的なものを実証する。

中島みゆきの『世情』流れる。

女Aと女Bは互いに首を絞めはじめ。数分の
女Aと女Bの、したがって女の自死に至ること

する場。

音楽C O。同時に女B倒れる。女A立ったまま

絶命か？

女A泣き開れる。

女B静かに起き上がり、女Aに傘をさしかける。

女B 傘ささないと身体に毒よ。

女A傘をさす。

女A 綺麗なお星さまね。

女B 月なんてでてないわ。

女A あじさい、きつと綺麗だね。

女B えッ？

女A 雨上がりの朝の紫陽花。

女B そつね。

女A B (間) …

女A あしたが…

女B あしたが…

女A B あしたがあれば！…

「 13 章 」

静に音楽入る。

小柳ルミコ『おひそしがりね』

最後の身体の展開。足を踏む。踏むことでの身

体の開放。

フィナーレ

尊

後記

..
..

未知座小劇場からの報告・2006	151
あとがきと解題	158

未知座小劇場からの報告・2006

『力場の論理 演技について・序章』

『未知座小劇場からの報告』と題して、十年前に書き始めたこの拙文の想いは、思いの文を遥かに凌駕して霧散し、以降、幾度頓挫したことであろうか。頭を擡げてそして消えて行ったその幾多の想念は、もつすでに教え上げることなどはできはしない。

今あらためて、ここで筆を起すことが可能であるとは、露程も思わないが、せめて露分け衣の一枚は剥がしたいと思つ。

想いは、全体を構想し、それをそのように提出したいのだとしてあり、やはりそれは捨てがたくある。全体は想念として構想しうるが、現場という一つの具体性が、その全体を常に喰い破る。具体性とはここでは力であることを止めず、全体の構想を遠ざけずにはおかなかつた。きつと、現場性とはそのようにしてあるのであろう。現場性とは常に発案や身体の正当化の連続であるのだから。

この連続の一時点を切り取ることは可能であろうか？

やはり、やはりきつと、可能ではないのだ。ある切り取りによつて、全体の構想は逡巡する。だからそこでは、一つの積み重ねと、もう一つの積み重ねによつて、その非連続の連続によつて、全体としての想念に漸進するしかないのもまた、あらためて言うまでもないであろう。ついに全体としての想念という構想は、虚構であるのだが、この全体というパラダイムの限界が白日の下に晒されるのは、一つの積み重ねと、もう一つの積み重ねによる推敲の論理性を楯にとるしか術が無いのも、これまた同時に、あらためて言うまでもないであろう。

さて、この拙文の初めで、想念という構想が陳べられる。あるいはまた、仮にわたしが『力場の論理』という一文をものにするとするなら、ここは序章ということになるだろう。

なににこだわり、なにを陳べるのか。それはそもそもはたして、語るに足る価値があるのか、どのような方法を取るのか、ということになるのだが、それはまたしても『未知座小劇場からの報告』が、ここでは完結しないことを意味する。であるが、それは遅々としてある重い歩一步を進める一つの作業仮説ではあるといえる。また、未知座小劇場が今抱える「テント公演」を前にして、黙して座すかのような体たらくは、人後に落ちるであろう。まあ、実はそのようなことはどうでも良く、現場は明らかに動き始めた、ということこそが射程されてある。

わたしには二十年、次のような脅迫観念がある。

未知座小劇場が集団を標榜することを止め、その集団性を解体することを確認したのが、1996年5、6月にかけて行った第36回テント公演『レスピレータ』に重なるからやはり十年來のものとなる。

未知座小劇場の集団性を解体することが、同時に未知座小劇場そのものの論理的解消を論証し、それを受け入れざるを得ないということではなかったのであるから、まあそれはどうということはないのであるが、そのことによつてわたしの舞台へのこだわりが頓挫したわけでないのであるから、事実、わたしはわたしとして未知座小劇場を持続することを諦めていないのであるから、まっとうなどこでは何も変わつたので

はないのであった。であるが、この事態を論理化し、文章化することがわたしの責務であり、そのような位置、あるいは立場であつたと、自身では思い込んでいる。現時点でもそのように位置付けていることに変わりはない。説明責任は以来わたしの側にあり続けているのであった。

未知座小劇場の集団性を解体することとは、まず、既存の方法で舞台やテント公演を行為しないことであるのだから、現象的には「集団性を解体する」は、未知座小劇場の解体として、演劇状況には出現する。これは甘受すればなるようになるというしかない。しかし、われわれという未知座小劇場は、その思い込みだけによつて展開できたわけではないのであるから、その舞台は多くの具体的な、有無名性に関わらず、幾多の方々の無私の物心両面によるエネルギーの傾注をいただくことによつて可能となつたのであるから、論理化という言葉化作業をへて、事態の報告を提出し公開することを、礼を失しないための、わたしが自身に課す責務であろう、としてきたのであった。この意味で、十年來わたしは礼を失している、ということになるのは間違いないのである。

ことが、状況にかまけただけならば何とでもなる。また、集団を標榜することを止め、その止めたことの展望を、以降の演劇営為が更なる展開であるとしてまず自身が指し示すことができているのであれば、あるいはその道程が方法として可能であると位置つけることができていたならば、現場性のみが可能性を開示できると位置つけることができていたならば、なんともいえぬこの脅迫観念はないのであった。

だからやはり、現時点で明確に言えることは、論理化とい

う言語化作業の頓挫という、わたしのその力量のなせこそが「未知座小劇場が集団を標榜することを停め」ざるを得なかった大元なのだという事は、わたしがわたし自身に言わざるを得ないのであった。ここが出発であり、これを本質として見据えることで、論理展開を可能とした。

すでに出発から、この事態を社会科学的なもう一つの政治性を持ち出し、概括を試みることは不能であると実感していた。それは、いやその道程こそ、もう一つの「未知座小劇場が集団を標榜することを停め」たに辿り着くであろう。経緯はそのよつなものとしてあった。

書き始めると、いいよに筆が滑り始める。道程を整理しておくことにしよう。

ここでいう「未知座小劇場が集団を標榜することを停め」とは集団の枯渇ではなく集団論の枯渇のことである。

かりに一つの物言いとして「集団は時間とともに腐敗する」というテーゼがあったとして、これは組織という物理性には的を射るであろうが、集団とはわたしのことであるとすると、この物言いは何もかも分析していないことがわかる。つまり、わたしは腐敗したといて、自身を打つ遣ることのできる行為などどこにもない、というだけで十分であろう。この視点で十分であった、というべきだろう。つまり、これを主体性論としたとき、この集団論は枯渇する。事態は、この集団論を言語論として射程することが、やがて要請されることになったのであった。

さてここでわたしが言う集団論の出目は、党派性などとい

う組織（＝戦後民主主義）に対する相対的価値として仮設されたはずである。それがこの集団論の歴史性である。行為することのまじめにいい加減であることの価値、それでもなお、自身が引き受けざるを得ない背反性には居直るのではなくまともに向き合おうとする倫理性、それを基準にすることによって初めて対話や、他者への意思が成立するとする決意性、これらを象徴として内含する集団論は、相対する組織論が、より現代的に合理化されることによつて、市民化されることによつて瓦解した。これらが総じてポスト構造主義へなだれをつつたというのは容易い。わたしはこれを称して相対的客観主義というが、そこではなにも問題は解決されないのであった。

問題は、どのように言語化するか、として収束した。この作業は頓挫している。しかし、自身の状況は推移する。推移する中で頓挫するとは、現場性の中で行為として思考せざるを得ないということであった。この作業は同時に、位置付けるための言語を獲得するという作業が課せられる。複雑に入り組むが、それは言語を持たないということである。言語を持たないとは思考が不能であるということであり、方向性を確定できないことになる。

このことがまっただきを得て懐疑ないならばそれは破綻である。だが、ことは「未知座小劇場の集団性を解体する」とはを、どのように読むかということであった。このアプローチ手順が言語化を導くということであった。それは、たとえばここでいう「もう一つの政治性」とは「行為することのまじめにいい加減であることの価値、それでもなお、自身が引き

受けざるを得ない背反性には居直るのではなくまともに向き合おうとする倫理性、それを基準にすることによって初めて対話や、他者への意思が成立するとする決意性、これらを象徴として内含する集団論」の残骸としてあった別名であり、だから恥すかしげもなく脈絡上明確に言ってしまうざるを得ないが、その全共闘運動論もまた「もつ一つの政治性」であったのだとしたとき、失語にいたらざる得なかつたということであった。つまり、あらかじめ読むすべを封印して出発したのであった。

いま少し、この事態に至った経緯を、その前史を綴っておきたい。それは、少しばかりのわたくし事を綴った引用になるが、黙許いただきたい。

この「書かなければならなかつたこと」はきわめて個人的なことになることを、あらかじめお断りしておきたい。そのようなものとして「書かなければならなかつたこと」はある。いやむしろ、この「書かなければならなかつたこと」を具体化するために、多くのことはあつたといえるほどである。

状況の中で、作爲された行為が、生活のなかからの必然的なものであるかのように自身を標榜して、思考よりもまず展開こそが求められるということは多々ある。それはまずそこに行為があるあことを、指し示そうとするからであるが、かといって、結果で何かが和解し、氷解するということはそんなにあるわけではない。むしろ、迷路こそ用意されている、というのが亭だろつ。

いつも立ち止つて考えるわけにもいかないからでなく、見えないのだ。このとき、なされることは「見えない」ことにこだわることしかできはしない。付け焼刃に借り物の思想性を孫引きしたところで、すぐにその鍍金ははげるのだ。だから、静かに自身の中に垂らした推力に合わせて、果て度ない井戸を掘るのがいい。井の中の蛙と手を繋ぐならまずは繋いでみるのだ。やがてその蛙を、はるか下から見上げなければならぬのであるから、まずはそれを楽しんでみるのだ。孤独と寂寞のなかで、ゆるやかなリズムを刻むのである。

三島由紀夫の自決、高橋和巳の自死、妙義山にいたる惨死から、これらの三方のベクトルからする、すくんでしまった地点に、無名の死を仮想し、そこから自身の中に垂らした推力に合せてした、果て度ない下降の井戸のなかにまだいるが、たまにそんな一点から頭上を見上げたとしても、やはり満天の星空は見えるのである。それは一重に孤立することを意味する作業であつたといえる。

この拙文はそんな地点からする、まずはの経過報告である。

この『書かなければならなかつたこと』は「霧散し、幾度なく頓挫した」ものの一つであり、そのメタから転載である。ここでは「未知座小劇場が集団を標榜することを停め」たのは、どこから出発したのかを確定しようとしている。ここでいう「三島由紀夫の自決、高橋和巳の自死、妙義山にいたる

惨死」とは、未知座小劇場が結成された1972年のこととなる。ここからの「果て度ない井戸を掘る」営為は、まず政治的言語の唾棄、それは政治からの遁走として表象された。この表象をマニフェスト化すれば、それ以来、未知座小劇場が掲げる「演技論ですべてを突破せよ!」となるのであった。ここで獲得されるべき演技論は、既存の物語論への批評性によって方法化されるとした。だが、ここでの集団論という運動論は、繰り返すことになるが「行為することのまじめにいい加減であることの価値、それでもなお、自身が引き受けざるを得ない背反性には居直るのではなくまともに向き合おうとする倫理性、それを基準にすることによって初めて対話や、他者への意思が成立するとする決意性、これらを象徴として内含する集団論」であった。

以上を経過として、またそのように仮設するなら、ここでの出発となっている「未知座小劇場が集団を標榜することを停め」た経緯は、言葉で言ってしまうは「既存の物語論への批評性」を勝ち取れなかった結果であるということになる。ここでいう物語論が射程する、物語の最高形態としての天皇制という概念に、集団として展開した運動が、論難され破綻したのであった。方法的に少しだけ踏み込んで発言すれば、すでに迷路の中に迷い込んでいた演劇的物語性に対して、集団とするもう一つの、新しい物語を対置できなかつたのであった。

物語や集団、あるいは運動の概念規定を避けたまま、命題らしきものを放り投げているが、この拙文の位置付けが「序章」であるということでお許し願うしかないが、総じていえ

ることは、集団内部に「もう一つの、新しい物語」ではなく、物語そのものが再生産されることになったのであった。それはラントそのものが「物語」となってしまうのだといえよう。きつとこのとき「行為することのまじめにいい加減であることの価値、それでもなお、自身が引き受けざるを得ない背反性には居直るのではなくまともに向き合おうとする倫理性、それを基準にすることによって初めて対話や、他者への意思が成立するとする決意性、これらを象徴として内含する集団論」が物語と化していたのである。物語と化すとは、それを支える集団論という運動が、やはりついに憤怒や義憤に支えられた想念、多くの倫理性によって支えられていたであろうものから、ついに決別できなかつたということであろう。これらの論証は後論に譲るが、つまりそれらの根拠はついに近代主義的な倫理性であったということになるのであろう。だがしかし、わたしはどつしても強調しなければならないが、仮想した「無名の死」は、なにがどう推移しようとして、厳然たる事実としてありつづけるのであった。

このようにして、解体の対象として射程した概念によって、自身が解体する。ここにこそ、われわれがたどり着いた「未知座小劇場の集団性を解体する」という作業の本質はあったのである。

論証を待つまでも無く、未知座小劇場もまた時代の思想的限界に無縁でなかつたのであった。そのように言い切つてしまえるなら、言い切つてしまいたい。一気に状況の方に撞つ撞えるなら、それに越した事はないのであるが……

このようにして十年の経過は始まったのであった。
この間の仮説は、物語とは情報のことである、というテーゼに推移した。この転位は、ロラン・バルトが物語のあれこれに言及する一つの手立てとしての、テキスト論に通じるであろうか。それは残念ながら、観ることを研讀せぬ、ものいつ観客に過ぎないのではないが、と悪意をもって捻じ曲げたのであるが、そうも行かずまい。だが、やはり、ことは解析することではなく行為することにある。物語はデータとして情報の傘下に下ったのであるから、繰り返すが、解析によって情報は物理的力を持ちうるであろうが、ことはその解析ではなく行為である。

この自問は、情報としての物語は、それは行為することのリアリティーはいかにして獲得されるか、へと作業仮説を導く。

ここは序説である。先走るのは止めよう。

右記の「行為することのリアリティー」とは演技の方法のことであった。それを取り巻く状況をここで「情報としての物語」と仮設したところで、なにも語ってはいないのであった。つまり、情報について何事も語っていないし、位置付けてもいない。そこで強引に言いまわしてみれば、ここでは情報は、データとして流通するのであるから、まずは個別主体のヘルビパロール言語ヘルビヤ(parole)としてあるしかない。このようであれば、物語は情報を形作るデータの位置を逸脱できないのであるから、物語はついに倫理や、道徳や、伝説等として結実しないのである。これをまず「情報としての物語」と称呼したところで、残るのは匠気ではない。

できるなら「情報としての物語」などと記述せず、厳直にかつ直截にRDBMS(【リレーショナルデータベース管理システム】・Relational Database Management System)としたいのは山々であるが、すると物語情報RDBMSの連鎖が素っ飛び「情報としての物語」という物言いが仮設されないのである。

この十年の経過の模索として、未知座小劇場はその一つとして、情報の極北という現在を求め一般第二種電気通信事業者となりレンタルサーバサービスを結果した。笑い話ではなく、情報の最先端はネットワークシステムのサーバ・クライアント型サービスのなかにあり、揚言すれば「すべてはデータベース化できる」というドクサまで辿り着いたのであった。この「すべてはデータベース化できる」を換言すれば、私の性欲さえヴァーチャルの中で提供し、実体化することで解消できるということである、というシステムを意味する。だから、いま物語りは情報として切り刻まれ、データの海の中で溺死といおうか、それは溺死寸前であり、死滅を前にしているということになるだろうか。

右記のことを踏まえ、現在新聞紙上を賑わす、法的に起訴されているSony(ソニー)をみているなら、このファイナル共有ソフトがサーバ・クライアント型サービスシステムであつたら現状の検察側からの求刑はなかったであろう。現状は、このシステムがP2P(Peer to Peer)技術という中央サーバを媒介しない無政府的な連関システムにより展開されている結果である。情報の権力性からは著作権云々は瑣末なことには過ぎない。幻想であるが、情報管理がついに可能である

というイデオロギーに根ざした茶番であるのだ。また、ここで展開されている法理念を、素人として展開してみれば、舞台上殺人の場面があったので、現実には殺人事件が起きたことの舞台の犯罪性を問っているように装うこと、それは、ピストルによる殺人事件の因果で、ピストル発明者の犯罪性を問うことに似る。こんな論理は破綻していることは言うまでもない。そこで尚且つ振る舞いは、いよいよナリアリかまった、情報の権力化という困り込みであり、本質は権力闘争である。であるが、すでに情報が権力に困り込まれるところに立ち止まってははいないのも確かである。情報は情報としてあるのではなく、データとしてあるのであった。すでに情報はア・プリオリにあることはない。ここまで綴ると、ミョウク(ウイニー)作成のプログラマーに触れるのがエチケットであるだろうが、これは特にない。ただ、餅屋は餅屋としてキッチリ落とし前をつけるしかないのではと思う。それはできるのだ、という立場にわたしは今いる。

十年の模索の経過は、一つとしてこのように情報の現在の明確化を迫った。同時に「もう一つの政治性」によらない表現論を要求した。以降の各章の多くを割いて、この内容を開陳することになるだろう。末尾にこれらの方法の種明かしをここでしておいて、この「未知座小劇場からの報告・2006」を閉じることにしたい。

未知座小劇場は、言語学を援用し、その表現論を仮設することから出発した。それは十年前の情報論とともにあつた、もう一つの大きな支柱であつた。これはきつと奇異に聞えるであろう。だが、ここでいいたいの、情報と言語学の絡み

のことである。したがって当然、未知座小劇場の表現論は、記号学への接近という事態に、導びかれた。これらの詳細は本論に譲り、ここでは粗筋めいて概括すれば、それは前述の「未知座小劇場が集団を標榜することを停め」をまったく発想を異にした地平で位置付けるという作業を意味した。換言すれば、未知座小劇場の情報論は言語学と手を結ぶことによつて、新たなるもう一つの物語などと表象することを止めたのだといえる。レトリックとして「新たなるもう一つの物語」といったところで、それはもう物語でないのは明白である。それは、未知座小劇場そのものとしての「力場」となつた。

思索の種明かしを具体的に綴れば、例えば「 \sim ルビランガーシユ言葉 \sim ルビ \sim は常に \sim ルビラング \sim 言語 \sim ルビ \sim に助けられて現れ出る、と言えるでしょう。 \sim ルビランガーシユ言葉 \sim ルビ \sim は \sim ルビラング \sim 言語 \sim ルビ \sim がなくては存在できないのです。 \sim ルビランガーシユ言葉 \sim ルビ \sim の方は完全に \sim ルビアンテイヴァイテユ \sim 個 \sim ルビ \sim から逃れており」(『一般言語学第三回講義 コンスタンタンによる講義記録』相原奈津江・訳)という行がある。強いてこの行ではないとだめだということではない。この部位を「 \sim ルビランガーシユ演劇 \sim ルビ \sim は常に \sim ルビラング \sim 舞台 \sim ルビ \sim に助けられて現れ出る、と言えるでしょう。 \sim ルビランガーシユ演劇 \sim ルビ \sim は \sim ルビラング \sim 舞台 \sim ルビ \sim がなくては存在できないのです。 \sim ルビランガーシユ演劇 \sim ルビ \sim の方は完全に \sim ルビアンテイヴァイテユ \sim 俳優 \sim ルビ \sim から逃れており」と

することで出発したのであった。

これらを集団論に暫定してみよう。「ラングという共同幻想が、いかに私たちを規制しているか、そしていかに惰性化が強いものであるか、という記号の世界の恐ろしさにほかなりません。その本質は人為的關係に過ぎないのに、あたかも自然物のように存在していて変革不可能な物神性を呈している」(『ソニョールを読む』丸山圭三郎)ということになれば、ここで「ラング」を「集団」として読みかえてみれば、パロールが演技や俳優となり、あるいは集団をシニファイアンとすれば「演技や俳優」はシニファイエとなる。すると演劇というランガージユは、虚構を出汁にした可能性を行為するという営為にはなりはしないか。

ここまで定式化して、誤解を恐れずもないが、さらに誤解を恐れて異なる定式化を試みれば、ランガージユ＝表現営為、ラング＝演劇、パロール＝舞台、演技＝シーニユ、俳優＝シニファイイン、観客＝シニファイエとできたのであった。これらの弁証法の恣意的な全体が、未知座小劇場という変数に持たせた定数であった。この物言いが何かを指し示すことはない。一つの仮説に過ぎないが、より演劇という関数から選ばれる術であった。それはまた、可能性を行為することのリアリテイを獲得する方法を模索する道程であった。もちろんすべてをまとめて投棄せざるをえない、などという試行錯誤は度々であったが、演劇を一切演劇から語らないことでの思惟こそ演劇的課題を凌駕しようという仮説であった。それはまた、わたしたちが現代においてかかえる思想的課題に向き合う術ともなったのであった。いつまでもなくこれらは『力場の論

理』の命題であった。ここに序章ということ、このような更なる物言いが許されるとするなら、未知座小劇場のこれらの命題への論証接近は、それは「演劇を演劇的に死滅させる」にはの命題を射程することになるだろう。ついで、こうなると定式化はフツサルを突きぬけ、ワイトゲンシユクタインの『論理哲学論考』にであつた。とはいつつものの、そこは『力場の論理』の遠い向こうである。いかんともしがたく、自身の無能を思い知らされるだけで、なんらの予断を許されてはいない。しかし、なおこの状況、この地平で未知座小劇場が断言しようのは、演劇をしてもつ演劇に返ることはないであろう、ということであつた。

こうして、すでにこのとき前述した「未知座小劇場の集団性を解体することが、同時に未知座小劇場そのものの論理的解消を論証」し、立証したとすることは、遠い昔であるといふことができるのであった。

最後に予告めくが、この「未知座小劇場からの報告・2006」は、大阪演劇情報センター出版から発刊予定の『力場の論理』の「序章」として起稿した。『力場の論理』は、この十年來の拙文、書き下ろし文や寄稿文によつて編まれる予定である。それは予断していただけると思つが、「全体を構想し、それをそのように提出したいのだ」とする想念を、正当に迫つて固め取るといつのではなく、軟弱にも大風呂敷を広げ捲り上げようといつものである。そのようにして説明責任として位置付けた「未知座小劇場からの報告」を完結しようといつのであった。

ついにここまで来てわたしは、わたしの脅迫観念に少しばかりの距離を置くことができるようになったかもしれない。が、あらたな悔恨から逃れることはできないであろう。それは「仮想した無名の死は、なにがどう推移しようと、儼然たる事実としてありつづけ」るだけだからではない。この『力場の論理』を、わたしがわたしの無力を廃し、せめて二年前に上梓していれば、この序章だけでもいいから提示できていれば、もう一つのあらたな無名の死に向き合うことはなかったのではないか。そのような、何かを思い留まらせる事のできる力がこの拙文にあるなどというのではない。無力でもいいから、彼に差し出すことさえ……。今はもう差し出すことさえできないのであるが、差し出すことさえできていたならば、そうしてさえも、何もできなかったかもしれないのであるが、語りかける回路は、無駄話でもいいのだ、それは成立していたかもしれないのであった、と今も夢想する。

わたしは、前回の公演『大阪物語・ヘルビかがり、鹿狩ヘルビ、ヘルビみちぞつ、道三ヘルビ、追悼公演』の台本あとがきで「彼とともに幻視していたであろう演劇的課題に対し、幾ばくかの、今はまだ定かではない仮説を、提示できたのではないかとする」と銘記したのであった。きつとこれは後先が逆であるのだ。この『力場の論理』こそ「未知座小劇場が集団を標榜することを停め」の経緯を言語化したものとして、まず提出されなければならなかったのだ。

こうしてついに、吾達の悔恨となった。

やはりもう、なんといおつと……

「死んだものはもつ帰ってこない。
生きているものは生きていることしか語らない。」
のであるが。
(06.06.21 記)

あとがきと解題

未知座小劇場が揚言した「大日本演劇大系」は数章ほどある。だが、なぜ第五章・『大阪物語』と番外・『独戯』と序の章・『明月記』の三本を連続上演しなければならないのか？と問うことから始めよう。

前回の『大阪物語』の公演で「大日本演劇大系」は一つのヘルビエボック、区切りヘルビを迎えたようなのである。自身でエボックなどという面映いが、大それたことではなく、このあたりのことを少しだけ「あとがき」をかりて書いて

ておきたい。

バッファ・オーバーフローという言葉がある。車などでオーバーフローといえば、水やオイルなどがパーツからあふれることをいう。プログラミング言語の概念では「プログラムが確保したメモリサイズを越えて文字列が入力されると領域があふれて(オーバーフロー)しまい、予期しない動作が起きる」ことをいうのだが、総じて正常でない、あるいは計算どつりにいかなかった状態を意味する。ここでは「思惑が外れた、そんなことになるはずはないが、そうなるか？」ということになる。この場では、少しだけ良い意味に使いたいのだが、それでもバッファ・オーバーフローが現象すれば、それはやはり不良品であったり、バグ(bug)であるので、システムの命取りになる。何らかの善後策、デバッグ(debug)が必要となる。

多分、計算どおりにオーバーフローになることはない。しかし、あらかじめ完成されたシステムなどないのであるから、バグというオーバーフローが発見されて、修正されシステムは強固になっていく。プログラムが枯れるまで、バグとプログラムは付き合っていくことになる。面白いことに、バグが発見されないようになると、そのプログラムは枯れたと言われる。同時に枯れるとは、新たなる要求にそのプログラムがこたえきれないということになる場合が多い。少々強引にまとめれば、大規模なシステムであればあるほど、それが万全に運用されるためのプログラムは、完全無欠であらなければならない。しかし、残念ながら人手が絡む以上、完全無欠のプログラムなどないのであるから、完成に向かって隣接する

だけである。バグは駆逐されることが前提であるにもかかわらず、バグがなくなつたとき、そのプログラムは持命を終える。イメージを極論すれば、完成とは自死へ至る行為となるのである。では、破綻と未成熟と未完成が目指されるべきなのか？ きつとそうではあるまい。

「ルビ」からは「力場(ルビ)」を転位させなければならぬ。力場とは何かと問われると、それはわたしの演劇的な造語であるから、少々厄介になるがそれは、演劇的磁場をつくめく身体の棲家のことである。煙に巻くようになることを恐れるので、とりあえず、舞台のことである、と言い放しておくことにしたい。

磁場をどのように転位させるのか？この仮設によって、大日本演劇大系連続三本立て興業は捻出された。例えば、「独戯」は出演者は一人である。「明月記」は出演者は二人であるが、相手を自身と思っている二人が居る。つまりは二人という一人なのである。「大阪物語」は出演者は二人であった。これらの結果、関係という構造を求めざるをえなかつたようである。構造とは相対的な関係性のことではない。場というシステムとしての全体である。ここでの構造は記号を孕む。さて、やはり「迎えたようなのである」という予期せぬ事態こそ、前述の「オーバーフロ」に似る。

このようにして、未知座小劇場は力場を転位させるために大日本演劇大系連続三本立て興業を行為することとなった。

最後に、今年の二月段階で、このテント公演の企画意図を

説明したメモ書きを転載して、この「あとがき」を終えよう。

所謂『大日本演劇大系』について少々・草稿
企画書にかえて

この冊子の上演台本三本は、明確な意図によって書き継がれ、連作されたものではない。それぞれの状況のなかで上梓したものである。執筆時期も異なる。わたしの記憶が正しければ、各々の初演は、多分『明月記』が一九八五年以降だったし、つづいて『独戯』は一九九〇年前後の筈だ。『大阪物語』は昨年である。不確かな部分は上演記録を参照いただくしかない。

『明月記』は、大阪・枚方市で行われたイベントから招請をつけて実現した。本番まで一月あまりしかなく、あわただしく初日を迎えた、と思う。『独戯』は、外部から執筆と演出の依頼があつて公演までこぎつけた。多分客の入りが悪かつたのだらう、原稿料等を辞退したわけではないが、うやむやの中でもらえなかつたのであつた。現在も受け取っていない。このように記憶の底を掘り起こしながら綴りはじめると、少しずつ何かを頭を擡げてきそうだが、それらのことどもは別の機会に譲ろう。

『明月記』と『独戯』はこれまで数回の再演を行ってきた。これにくらべ、未知座小劇場で上演した、他の舞台の再演は、その多くがテント公演のものであつ

たせいもあるが、再演はない。再演よりも新作をというのが当時の流れであつた。端的に言えば、テント公演の場合、その全体の作業量が新作であろうと旧作であろうとなんらかわりがない、ということがあつた。さらにそこに、未知座小劇場のテント公演は、一カ所でなく数カ所でやるという、移行の概念がついて回つていたので、その全体性から強いられる莫大な時間量の中では、吐き捨てたものより、新たなる可能性を求めて、やはり新作を抱えたい、というのがあつたのである。再演のイメージを想起することすらありえなかつた、というのが実情であつた。

『明月記』と『独戯』は小屋を想定した台本であつたために、その再演の可能性がよりあつたということもあるが、事情は少々違う。再演は意図的であつた。やはり「大日本演劇大系」という冠である。「大日本演劇大系」というものを想起したのは『明月記』の作業と重なる。

ふり返つてみると、この時期は、テント公演の現状と可能性が捉え返されよつとし、新たなる可能性が模索されていた。詳細は『未知座小劇場からの報告』の「書かなければならなかつた事」に譲るが、要は、未知座小劇場の新たなる展開がさらなるイメージで切り開けなかつたのである。言葉をかえれば、テント公演がステージユール化し、そのことに力量が傾注される。持続しこなされることが問題となる。わたしの言葉では「物語としてのテント」となる。状況的には構造主

義からポスト構造主義のながれと重なる。これらのことがあいまって、舞台は「メタ演劇」の様相を呈した。それは意図されたことだが、劇中の台詞としては「もつ返るべきロマンはない」となった。

演技論的に綴れば、行為することのリアリティ、作業することの納得さ加減をどのように集団化するのかがということであった。何が目指されており、どのように行われねばならないのかということ語る言葉が獲得されねばならなかった。それが一つのドクサ（イデオロギー）であつてもいいのだが、真摯な行為に耐えうるドクサでなければならなかったのである。

これらの問題をとらえ返すために、現状の再検証が目指された。具体的な作業として、演劇といわれるものを解体して、一から組み立ててみようというわけである。もちろん演劇そのものを疑つたためである。抽象的な作業ではなく、最もリアリティのない物語を行くために仮設してみる。このようにして、関係、身体、言語等の検証が「大日本演劇大系」のそれぞれの、一つの章として企まれた。

その途上である現在、テント公演となつた。この作業を「大日本演劇大系」を絡めて語るには別稿がいる。ただ、この地点で言えることは、この冊子の上演台本三本で、これまでの作業をあらかた全体として指し示すことができるということである。

この意味で冊子の三本であり、「大日本演劇大系」三本立て興業である。（06.02.07 記）

「 解題 1・大阪物語 revision 2 」

『大阪物語』の公演は二〇〇五年十一月、十二月に、大阪府八尾の未知座小劇場で行われた。未知座小劇場の公演としては、数年ぶりとなつた。また同小屋での興業は十数年ぶりであつた。

『大阪物語』の公演企画書は二〇〇四年十一月、打上花火と豊珠沙華から提出され、同年十二月に採決されたが、提出された企画書に『大阪物語』後の公演を「テント公演を射程することでの今回の『大阪物語』公演」という企画意図が盛り込まれた。ここには、『大阪物語』は単発とする公演ではなく、持続する意志を展開するという思いが反映されたことによるが、十数年のインターバルの内容がそのように『大阪物語』を規定したといつていい。換言すれば、十数年のインターバルが明らかに演劇営為によつて支えられてきたことを物語っている。

このようにして今回の『大阪物語 revision 2』は出発してあつた。そうしてのテント公演である。この解題の場でテント公演について語る言葉を多く持たないが、端的に言つてしまえば、すべてが論理化されてテント公演が行われるのではない、ということである。この他のことどもは後述の『未知座小劇場からの報告』に譲るが、この解題を綴つている段階でもつまたく報告できるかどうか心もとないというのが、

現状である。

さて、今回の『大阪物語 revision』の出演者はオーディションによって決定した。前回の『大阪物語』では、オーディションによる出演者ということ的前提に台本を用意し、舞台を用意する勇気は、残念であるが持ち得なかった。だからという結果だけではないが、出演者を二人にして『大阪物語』を用意した。今回はオーディションによって出演者を決定し、舞台を目指した。オーディションというシステムに対して諸論があるであろうが、ここへの行為は、常に二人だけの出演者で舞台を目指すということは、なかなかあり得ないだろうということである。ひとえに未知座小劇場は未知座小劇場だけではあり得ない、と言い切っても仕方がないが、未知座小劇場の方法であるかどうかは、今後の展開が、それを確定していくことになるだろうと、ひとまず言うておくことにしたい。(08.06.21 記)

【 解題 2・独戯 】

今回の独戯は、劇団どくんこの時折旬氏を御名指しての上演である。

『大日本演劇大系 番外・独戯』の初演は一九八八年である。その後、二、三回の上演がある。未知座小劇場以外の上演はあつたやに聞き及んでいるが、手元に資料がない。

この『番外・独戯』を改作と、この冊子に収めるにあつた

て改めて読み返してみた。こんな機会がないとなかなかできない作業で、記憶の遥か彼方にあつたものが、突然突きつけられたりもした。肩のほり具合といつたらしいのか、大言壮語といつたらしいのか、そんなものが特に目に付く。だが、これはこれである。また、表現が稚拙であつたとしても、打ち消すわけにはいかない。ここから出発したのは、間違いないのであるから……

思いや、イデオロギー的な面を修正せざるを得ないところはあるが、決意という事でいえば、そんな具合であつたのだろう。つまり、そつずれてはいない。

ここが解題ということ、資料を転載することにした。黙殺するという習慣がわたしにあれば、それはそれでつれしかつたのであるが。

「『明月記』と『番外・独戯』について」は大阪・八尾のシルキーホール上演台本に寄せた文である。『明月記』と『番外・独戯』を「喰いあわせ公演・大日本演劇大系」と銘打つておこなつた。

「物語論あら書き」は『番外・独戯』初演の際の、台本あとがきに寄せたものである、と日付から推察している。

(08.02.05 記)

「明月記・独戯―喰いあわせ公演・大日本演劇大系」
版後記

『「明月記」と「番外・独戯」について』

大日本演劇大系は、以降第一章・二章と続いていくものです。そのプランはいつてしまえば「演劇が演劇的に死滅する瞬間」まで摸索してみようとするものです。

これは「自然が自然的に消滅」することがないように、また「演劇が演劇的に死滅する瞬間」もないと考えます。しかし「演劇が演劇的に死滅する瞬間」をかりに「観客が観客に向き合う瞬間」という極めて共產主義的な瞬間を幻視することで、演劇の本質を明らかにしてみようという試みです。

「自同律の不快」があるのであれば、自同律の愉快もまたあるのであると考えるわけです。きつと「わたしは」とつぶやき「わたしである」と述語する時間は、人間に莫大な想像力と、宇宙史に匹敵する時間を押し付けるのですから、もちろんそのとき、人間のことを人間と呼ぶのかどうかは定かではありませんが、この大日本演劇大系の第一章・二章……終章は十年ないし二十年の幅で摸索せざるを得ないであろうことは、十分に予測しているものです。

さて『序の章』は、最低のところから始めよう。これ以上退けば演劇でなくなるところから始めよう、としたものでした。

かのピーター・ブルックは、一人の人と、それを観るものがいればそれは演劇であるとしたのですが、残念ながら、これは明らかになまちがいです。二人の人と、それを観るものがいれば、それは演劇である。この視

点が、大日本演劇大系の出発です。

演技論の違いと違って済まされない問題が生まれているのですが、とりあえずここでは、関係のせり上がる瞬間に、演劇は成立し、演技は行使されたのであると、それは芝居の現場であったのだ、としたいわけです。

多くを語らずさきに行きます。

一人演劇は、百歩譲つてあるとしていい。だが、一人芝居はない。これは、言葉の問題ではない。

一人演劇でもなく一人芝居でもないものとして独戯を設定しました。したがって『独戯』は『明月記』の反措定です。

相互が存在を問つものとしてあります。この摸索をおして第一章が発見されるものと考えます。

以上が、大日本演劇大系の三年間といえます。

八尾公演でなんらかの結論がでるものと期待しているところです。

さて、この大日本演劇大系と、テントの関係は大日本演劇大系の大きな課題です。今後大日本演劇大系のなかで展開していければさいわいです。

(文責・河野明 1990.09 記)

初版後記

『物語論あら書老』

この『大日本演劇大系・番外』は前作『大日本演劇大系 序の章・明月記』との関係において語るしかない、というところにわたしはある。

『番外』との関係で『明月記』を概略すれば、それは一人の女を二人の女優が舞台上で力場するということがであった。演技の本質を関係性の問題以外にはないとして展開したのであった。演技という交通の可能性を関係論として閉じ込めてよしとしたのである。極論すれば、人のまえで何かを見せつける地平において、演技の成立は関係としてしか登場しないのである。

一人で何かを、見せつけることにおいては、演技はついに登場しないであろう。つまり観客は、ついに第三者であることをやめてはいない。

なぜか。物語が死滅しているからにはかならない。生活から物語は駆逐されていると言い換えてもいい。

この場の脈絡で綴れば、関係の可能性の展開は幾分か、物語への距離感の確定ということもできる。

さて、物語りは常に、時の権力の用いる支配構造という権力関係をその中心フアクターとしてきたが、現代という様式においては、物語はロマンという様相を帯ないほどに物化しているといっている。つまり、支配構造という権力関係が、かつての支配構造という権力関係の全体性を脱皮し、新たなる支配構造という権力関係を捏造することによって高次化した距離、その距離は逆説でもなく、関係をなくすしにする無関係化という支配構造という権力関係の定着さほどに物語

は物化しているのであろう。敵が見えないなどということではない。敵などどうでもいいのである。そのようにして錯乱を装っているのである。前後するが、この物化のほどに観客は第三者を装うのである。

物語は今、自分探し、イメージ、構造、天皇制、奪われた時間、近未来とその姿を換えてきたものの、瀕死の宙ぶらりんなのである。

幾多うまれてきた物語は、より多くその歴史を紐とけば、民衆が求めてきたといつてもいい。物語を活性化してきたのは民衆の力であった。その力が、人前になにかをやってみせるという行為を、第三者としてではなく支えてきた。このエネルギーが結実しようとする場が、芝居であった。

このあたりの展開は「十五・物語論」に置換することで、さて登場人物は一人なのである。

ひとの前で何かをしてみせる必要十分条件を二人の俳優関係としたとき、この文の脈絡を踏まえて綴れば、それはすべてを相対化する物語の捏造であった。物語を生きて見せようということであった。二人の俳優の『明月記』にそつていえば、関係を生きてみせようということであった。

さて、登場人物は一人なのである。多言を要しまい。そこにつこめくのは物語なのである。瀕死の、宙ぶらりんの……。あえていえば、この『独戯』は物語論として成立させようとした。老婆心ながら、瀕死の、宙ぶらりんの物語は、支配構造という権力関係を補完す

る上部構造としてのロマンという物語を、観客が拒否し、正しく物語の死に水をとろことした結果であるとは位置付けてはいない。単純に續れば、もろ刃の剣としてある物語が片刃になり、他の刃も、刃である必要がなくなつたなになにかわからへん、といえはいいのだろうか。飛躍する気はまったくないが、それは天皇制の今日的状況と添い寝してきたのであつた。

ついに『独戯』ではこのような物語がのたうつのであるが、さて、役者たらんとする身体はいかに蘇生し、自己権力としての身体たるかは、やはり演技にかかわつているのである。

やはり最後に「すべてを演技論で突破せよ！」と。

(1988.03 記)

さてさて、そのよつになるかどつが、テント公演を前にしての予断は闇の中である。

[解題3・明月記]

『明月記』について銘記することはあまりない。

初演は1987年三月である。機会を得ることに各地で上演を行つてきた。この航程の途上で『明月記』の最終公演はテントで打ち上げる、とイメージするようになっていった。

『明月記』で仮設した作業が、果てしなく、終わりなき道標を模索するようなものであつたがゆえ、そのように思い切る必要があつたのかも知れない。

ついに『明月記』は最終公演を迎える。

資料・演技について

演技について	
第38回『大阪物語』上演台本あとがき	169
舞臺嘗試台と演劇	173
『大阪物語』七カシヤンスキの三日	183
オーディション募集要項	187

上演履歴	189
------	-----

『大阪物語』上演台本あとがき

久しぶりに台本のこのスペースに文字を置くことになる。心情としては、久しぶりという感じはまったくない。何かが持続しているか、そう装つか、事実はまったく違つか、今のところ定かではない。さし迫られてする整理にゆだねることにしたい。

さて、ご多分にもれず、この台本はパソコンのエディタで起こした。

ワープロソフトを使わなくなって久しいが、縦書きのでき

るエディタになかなか出会えず、MacのエディタからWindowsの「秀丸」等々渡り歩き、今回はシェアードウェアの「QX」で仕上げた。縦書きのできるエディタはいくつかあったが、この「QX」が馴染んだということになった。また、目論見としては、音声入力で台本を仕上げる、というのでも掲げたのだが、これは環境設定がままならず途中で挫折の憂き目をみてしまった。

これらはさておき、台本執筆にワープロソフトやエディタを利用するようになって困りつづけたことは、編集履歴が思うように残せないことであった。こまめに別版でバックアップを行えばいいのであるが、やはりついつい、保存は上書き保存となり、細部の編集履歴は残りにくい。つまりは、意思や、試行の経緯がみえないのである。これを何とかしたいということも、今回の目論見であった。

試行錯誤の結果、LinuxでCVS（バージョン管理システム）サーバをたて、WindowsからCVSクライアントアプリケーション・WinCVSで話をするという、台本のためのCVS環境構築をおこなった。これは見事に成果をみた。台本の各版は二百数十ほど版を重ね、これらのすべての変更編集比較を可能とした。

細部の報告はここでは割愛するが、大阪演劇情報センターでは、これらのシステムサーバ環境を、演劇関係者に無料で利用していただけるようにした。機会があり、希望であれば試していただくことは可能です。また、今回のわたしの台本書きをシミュレーションとするなら、本格利用の準備は整ったことになる。詳細はご連絡ください。

あとがきを借りて、一三報告しておきたい。

今回の企画『大阪物語』は、来年（2006年）のテント公演を明確に射程した一環として位置付けられている。ありていにいえば、この展開の中で、テント公演の展望が理論的にも人的、経済的にも出せるのかどうかということである。この経緯での『大阪物語』である。

また、この公演は『ヘルビかがり』鹿狩『ヘルビ』ヘルビみちぞう『道三ヘルビ』追悼公演』と銘打っている。

鹿狩道三は新潟の演劇人であった。われわれ未知座小劇場のテント公演に数回の出演があった。無理をいつて迷惑をかけたなり、楽しく遊んだ。享年四十三歳、若くして逝った。昨年のことであった。

ここに居るわたしは『大阪物語』を書くということが、どう追悼たりつるのか、という枷をはめることとなった。これは、彼とともにわれわれが抱えていたであろう演劇的課題を、歩一歩進めることになるのだが、彼が独自に、その現場で抱えていたであろう演劇的課題を、となるとそれには自信がない。ただわれわれが、彼とともに幻視していたであろう演劇的課題に対し、幾ばくかの、今はまだ定かではない仮説を、提示できたのではないかとする。そのような少しばかりの自負を、やがて打ち碎かれることもあるだろうが、この文章を読んでいただいているあなたと、いまは亡き鹿狩道三に、静かに差し出そうと思う。

私事になるが、これはぐつに奇をてらつてのことではなく、ペンネームを「闇黒光」、演出名を「河野明」とした。この

事態はすでに「闇黒光」が成立した初期の意志に戻つたに過ぎない。それは「闇黒光」が個人のペンネームではなく、台本執筆者の表象であつた、というのが経緯である。たまたま他の方が、使う機会がなかつた、ということになつてしまつたのであつた。思えば、この表象が想起されたのは三十数年前、埴谷雄高の『闇のなかの黒い馬』が出版され、近くの踏み切りで女子大生の投身自殺があつた、その日のクラブハウスの情景は、今でも記憶のなかで明瞭である。

余談は幾多あるが、要は演出の責任性をこれまでと違つた形で、明瞭化してみるということである。今後はこれでいくことにしました。

最後に、台本の原稿用紙の升目を埋めている最中に、左記の引用文を、関係者に送る事態になつた。よりよく書いて送ることが出来なかつた。制限字数が百二十字なのに千二百字と思ひ込んで書き始め、極端に縮小したりもした。この「あとがき」をかり、めめしくも今となつて修正しようといわけである。左がその提出した文の引用である。正確には百二十字と千二百字の中間に位置したものである。

『演技について』

—— 大日本演劇大系『大阪物語』にそつて

演技について想つとき未知座小劇場では、物語について考えること、それは行為することのリアリティーへと通じる錯誤に思いをはせることになる、という縛

りの中にあるが、これらの仮説はやはり架設であるので、ここ『大阪物語』では次のように命題化することにした。

無駄は演劇営為たりつるか？

言つまでもなく、ここには「無駄なことをしても意味がない」や、また「他にやることがあるではないか」といった思いが隠されている。これを近代主義的な発想として切り捨てることは容易いが、文化云々はさておき「演劇とは大いなる無駄である」ということはふまえるしかないであらう。

で、試行されるのは標準語の「関西語」化と、国歌の「レッツ・イツビー」と「六甲おろし」の選択決定である。

こつして『大阪物語』の幕はあがる。

この文に立ち入ると、迷路にはまるので、違つ「大日本演劇大系『大阪物語』にそつて」を又王風に書き留めることで補足としたい。

わたしはこれまでの自身の台本を、大錠を振るつてその世界をみると、ベケットの『ゴドーを待ちながら』のウラジミールとエストラゴンの世界に視線を置いたように思う、としよう。で、今回の『大阪物語』で初めて、ついに現れなかつた、ゴドーの側に視点を置いたように思われる、としよう。

この文を綴りながらの、一般化の誘惑を受け入れて

しまつが、つまりベケットの『ゴドーを待ちながら』の「ゴドー」を観念とすると、それは「希望」であったりまた「情報」等々であつたりする。これは、作品論として、まあ置いておきたい。だが、『ゴドーを待ちながら』をマンガ―とりあえず「マンガ」と言つておきます―として読むと「ゴドーさん事故にあつて間に合わなかつたんだ」等々となる。これを類型化すると、

行くにいけないゴドーさん
行く気のなかつたゴドーさん
自分をゴドーさんと思つていないゴドーさん

これらのいずれにも興味が尽きない。が、最悪はに「ウラジミールとエストラゴン」がゴドーさんと思つていないゴドーさん、という究極を置く場合である。までに止めておくのが幸せである。仮に をメビウスの輪だ、ゲーデルの不完全性定理だといひ始めると、もう収集がつかないのでいやになる。いやになるが、興味が尽きないのでこれまたいやになる。

『大阪物語』ではゴドーは大阪のおばちゃんとなつた。十年前なら、まったく違つた大阪のおばちゃんになつていただろう。いや、大阪のおばちゃんではなかつた、というのが正確だろう。

もちろん、このように設定して台本の執筆をしたわけではない。最後の「幕」という字を置いた時点での

事である。明日になれば、きつと様子も変わるというところでの話しである。そのようなことなので、ここであつた「大錠」を「いいかげん」としていただくと幸いこのつえない。

で、この思いの押しをなんとかするために、以下の自身の文章を、資料として記載することで、ここであつた重ねての補足である「あとがき」を閉じたい。

なお、この拙文も同じく、台本執筆中のものであつた。

最後に、筆を置くまえに、少々、自嘲の感を免れ得ないと黙視してきた「コンボジション¹⁶」について若干。もちろん抽象絵画の祖といわれるカンジンスキーのコンボジションからの引用である。引用といえば美におこがましい。カンジンスキーのコンボジションという作品は、る、はまで書きつがれたとするなら、その、¹⁶が『大阪物語』であるとする、ほとんど身のほど知るための、ささやかな決意である。それはまた「大日本演劇大系」としてのマニアエラストである。『大阪物語』をカンジンスキー論として展開できる日の来ることを、祈りつつ……

(2005.08.20 記)

無観客試合と演劇

1 「『ルビ』しあい」観客試合『ルビ』と「『ルビ』しあい」無観客試合『ルビ』」

演劇公演の舞台を、テレビ録画などで観ることがある。多くは『劇場への招待』とかいった番組なのだが、そこでは舞台を観るといった感賞を捨て去ることを思いつ。これらの番組の多くは、当然のことではあるが、ある企画と意図によって、

任意の部分が選択され、切り取られて、編集されたものである。この無観客試合は、それはそれである。

今ひとつの無観客試合を、テレビで観戦。タイで行われたW杯アジア予選、日本×北朝鮮戦のテレビ中継なのだが、このわたしの観戦という位置は、国際サッカー連盟（FIFA）によるのだから、無観客試合なので、いくらテレビで観戦していても、やはりわたしは観客ではないことになる。この事態からすると、観客とは試合会場にいる観衆のことになる。語の意味を予断すると、試合を衆目にさらさないことが、無観客試合と思われるが、背に腹は変えられず、あるいは、中継契約を解約できなかつたのかも知れない。北朝鮮での試合チケットを予約していた人たちは、キャンセルの憂き目を見たのが。ともあれ、テレビの前で、ライブ中継がフレームで切り取られた全体であったとしても、わたしは観衆であった。

わたしは、といいながらもこの事態の経緯を、何もわかっていない。そして知らない。第三国で行うのは、ホームでやるはずだった、北朝鮮への制裁なのか。同時に、試合終了後の選手たちが危言が加えられるかもしれない事態を、それは「北朝鮮での観客暴徒化を理由に、ワールドカップ（W杯）アジア最終予選の日本×北朝鮮戦を第三国、無観客で開催する」とした処分であるなら、北朝鮮の観客に対するペナルティのツケを北朝鮮サッカー側が被つたのか。さらに、であるなら日本サッカー協会と、当日、サッカー場で観戦しようとして予定していた人々が、割をくつたということになる。ではこのような事態を招聘したFIFAは、どのような自己責任処

分を自身に課したのか？ 処分を断行することがそつなのか。

まあ、いつてしまえば、これらのことはどうでもいいことだ。わたしが引つかつたことは、無観客試合という言葉の形容矛盾だ。この言葉の成立する前提は、試合という概念に観客が含まれているからにはほかならない。それは「観客試合」という言葉がないほどにである。にもかかわらず、無観客という形態で、試合を形容する。つまり試合でないものを試合といつてしまう、自己矛盾がこの形容矛盾の本質だ。語の正意から行けば、無観客試合という言葉は成立しないのであり、仮にそのような形態があつたとしても、すでにそれは試合ではない、ということである。多分、試合という言葉か、観客という言葉が曖昧であるのか、概念そのものをすらさざるを得ない状況にわれわれはいるのだろうか？

2 観客と試合と

さてお断りしたいが、わたしはここで観客論を開陳しようとしているのではない。観客という言葉を整理しようとしているに過ぎない。したがつて、次のように「無観客試合」を整理したとしても、ここで綴ろうとすることは残る。

国際サッカー連盟（FIFA）の規律委員会の決定は、再びの事態を避けることであり、それは日本人選手と日本から訪れるであろう観客らへの安全性の配慮、つまりはW杯アジア予選での不慮の事故に対する配慮等なのだろうが、結果、これをなせ「無観客試合」と表現するのか、ということにな

る。

閑話休題。どちらも持ち場が違つところに迷い込みそつである。わたしは、スポーツ選手でも、スポーツイベント屋でもない。ましてや、武道を志すものでもない。舞台表現を志すものであり、その思想性が、抜き差しならぬものであるなら、それを由とするものです。いわば、単なる門外漢である。そこで「観客」という言葉を手がかりに、見えないものを、この際見ておこつとするには、徒手空拳で進みすぎるように思われる。

実は、このわたしの発言には経過がある。

かつてJリーグが発足間もないころ、あるクラブチームが破綻するなどし、観客動員が落ち込んだ時期があった。このとき当時のチエアマンであった川淵某が、正確ではないが「選手はがんばつてもつといい試合をしないとだめた……」とのインタビューコメントがテレビニュースで流れていたのを記憶する。この発言を舞台に置き換えてみよう。

「面白い舞台であれば客は入る」

これは間違いではなく、正解だ。だが、何もいつていないに等しい。「面白い舞台であれば客は入る」とは、それはそれで当たり前のことであり、だからといって無制限に観客数が増加するのではないからだ。「いい」や「面白い」は、ある価値観の表出である。ついには個的な嗜好だ。個的な嗜好が情報として力を持つには、生活圏を離れてはない。わたしが言うまでもないが、この個的な嗜好が生活圏を離れ、つま

り幻影化するには、マスという媒体や、メディアが必要だろつ。したがつて「面白い舞台であれば客は入る」という物言いは、生活圏での話であり、ここにマスコミュニケーションの浸透度により、その生活圏は広がるのであろつが、やはり、口コミという交通形態を逸脱しない。

だからこつとも言つことができる。個的な嗜好が生活圏を離れ、つまり幻影化することによつて、個的な嗜好が操作可能となるなら、

「面白くない舞台でも客は入る」

これは論理的帰結となる。また、それが継続するかどつかは別問題で、本質論とは別に、イベント屋の力量と、ビジネスモデルに帰結するだろつ。

すでにお分かりのよつに「選手はがんばつてもつといい試合をしないとだめた……」とは、川淵某の無責任な、責任放棄の発言に他ならない。それが、現場への叱咤激励の発言だつたとしても、事態の起因を選手たちに求め、責任回避を図つたとなるほかない。百歩譲つたとして、ではチエアマンとは何者なのだ。

現場経験もないので、選手という言葉を持ち出すのはやめよつ。つまり俳優は舞台で、いい舞台をしよう、面白い演技をしよう、あるいはタメにしようなどという、そのような即時性を展開するのみの余裕はありません。やらなければいけないことは、そんなことをつつちやり、通り抜けて山ほどある。

さて、この論理破綻を回避したものを日韓共催W杯だといふことができるのだろうか。定かではないが、わたしにはそのように見える。これをだれが支えたのかわたしにはわからない。また位置づける立場にない。それでもこうして今、わたしは「無観客試合」という言葉に向き合っている。

出発は「観客」と「試合」という言葉が並列する違和から、無観客試合という言葉は形容矛盾だだとする想いから出発している。わたしの力量で、ここでスポーツの何たるか、試合の語源等を紐解き、このわたしの違和に迫ることはできない。舞台とつい作業場に足を置き、生活感覚を押し開くことだけだ。

さて、スポーツと試合はいつのころから手を取り合ったのだろうか。近代日本の国威高揚として西洋式肉体強化術云々となると、稿数がいくらあっても足りない。違つ語り口をしよつ。

わたしは試合という言葉を、どこまでたどることができるのか。果し合い状。宮本武蔵。決闘。どうやらこのあたりだ。死合い、闘合いを試す、死を合わせる。こつというイメージが成立してくる。仮に、何の根拠もなく、武道の世界では命のやり取りを試合といふ、と言えば、わたしの語感に重なる。そうであるのかどうかは別として、つまり試合という語含意は個的なのだ。決闘は1対多でもイメージできる。これが集団的になると合戦となる。さてあたかも、試合が死合いに重なるとしているが、そうではない。天覧試合、御前試合などとなるとすべては死合いに重ならない。ここで一貫しているのは勝負ということである。それは死合いを含んで、生き死

にの問題であつたのだろうかということだ。これがわたしの位置づけである。

さて、命をやり取りする試合に、われわれはどのように加担することができるのだろうか。多分、その事態に立ちすくむしかないだろう。これは野次馬ということだ。野次馬以外には立会人がありえる。また、助太刀人もありえる。こうなると、観客の出自は、試合に対する立会人なのだろうか、助太刀人、野次馬なのか？

たしか、黒澤明の姿三四郎と試合をした月形龍之介たちは、吹きすさぶ未明の荒野で絵になっていたように……記憶の彼方です。

命のやり取りを語り継ぐようにあつた立会人は、審判になつたように思われる。助太刀人が観客だ。野次馬はついに野次馬で、第三者で責任の埒外だ。もつほとんどわたしの悪意は *audaci* *encet* *audaci* *ous* や *audi* *o* に通じる。

ここで、やつとサポータという言葉にたどり着いたことになるが、この言葉はいまだになじめない。わたしの直訳ではサポータは助太刀人だ。ましてやサポータは十二人目の選手といわれると、観客たるつとしてゐるわたしは困つてしまわざるを得ない。

甲子園球場には観客もサポータもいない。阪神ファンがいるだけだ。

ともあれ、日本式の命のやり取りの試合から、死合を抜き去つた、仕合をスポーツに重ねることで試合はゲームになつた。そこでやり取りされるのは勝負だ。これがとりあえず整理して差し出すことのできるわたしの独断と僥見だ。

さてもう一つ、古代ローマの円形劇場には剣闘士がいた。これは娯楽性の高い見世物だが、元は葬儀であつたものの本にはある。そこには市民という観客がいる。儀式だ。

勳進角力も神社や仏閣で行われた儀式だ。大衆という観客がいる。

最後にギリシャ悲劇にはコロスが登場する。コロスは「舞台と観客との間の媒介者」としている。

試合という言葉にこだわりながら、観客というイメージをすくい上げようとする、このように多義にわたる。ここで言う野次馬からコロスまでに共通する立場は、当事者ではないということである。

さてさて、ここまでの無理に無理を重ねた、論拠も示さない独断と偏見は当然のように行き詰るわけで、次のように命題らしきものを掲げ、文意を運ぶことにしよう。

サポーターはどこに行つたのか？

日本×北朝鮮戦のテレビ中継画面から、こぼれ聞こえる太鼓と応援コールの中にいたのか。いや、あれこそ感動的にも、任意の第三者たらんことを選択したにもかかわらず、拒絶された観客と呼ばれたはずの一群ではなかつたのか。どう考えてみても、FIFAが無観客試合ということ、ゲートの外に押しやつたのは、あの一群であつたと思われる。だが、テレビ中継中のアナウンサーや、解説者、あるいはサッカー関係者の発言を総合すると、彼らはサポーターに変身したり、また観客になつたりしてしまうのだ。ついには「日本全国のテレビで応援していただいたサポーターのみなさん」まで登場する。

ここまでくるとわけがわからず、納得するにはサポーター＝観客と理解するしかない。しかしこれは「無観客試合」ではなかつたのか。

するとFIFAは「無観客試合」ということで、押しやつたものとは、何なのか？ ほとんどもう、何かを押しやるように装うことで保障したのは、FIFAの権威だけだ、などと与太を飛ばしたくなる。

もちろんこんなことを綴るために、文意を運んでいるわけではない。しかし一つだけ言っておきたい事は「サポーター＝観客は十二人目の選手だ」という、あたかも本質に迫るかのようなメッセージは、なんら凶案を持っていなかったということである。つまり日本サッカー協会は「十二人目の選手」がいない試合などあり得ない、とはしなかつた。選手のいない試合などあり得ないにもかかわらず、である。あたかも本質に迫るかのようなメッセージを保障するためのポーズすらしなかつたのではないか。その証左に、重ねて不思議であつたのは、誰もが「無観客試合」など試合ではないという意味が組織された、と思わないではないか。ここまでくると、FIFAの「無観客試合」を素直に受け入れたというのではなく、サポーターと呼ばれる側にサポーターはいなかつたといわざるを得ない。するとサポーターとはクラブチームを、無償で真摯に支えようとする、ファンたちのことだと、これまた言わざるを得なくなる。

この事態を、語彙や形態を含めて混乱しているというのは容易い。そのようにあるなら、やがて整理されるだろうとなるからだ。リアリストを装えば、整理されるなら、とつくの

昔に整理されているはずだ、となる。つまり、このあたかも一見混乱と見える現状こそ、整理されているのだ。この仮設がわたしの違和と結びつく。違和であるから合理的ではないとならないから、ややこしい。

つまり、そもそもは「無観客試合」という言葉を発したとたん、観客という概念を含意しなかった「試合」という言葉に、観客がくばりついてしまうのだ。「無観客試合」という言葉がそれほどの力を持っているというのではない。むしろ「試合」という概念が、そのとき捻じ曲げられたことによるのだ。それは「試合」という文化が照らし出されたというほうが正解であろう。つまり、本来的には「試合」という概念に、「観客」という概念が含意されなかったのにもかわらなく、現代のわたしたちの想いが、「試合」という言葉に「観客」を預けてしまわざるを得ないなれからくる、歪みの磁場が、一瞬、見通しのいい荒野に連れ出されたのである。もちろん、語源としてここで言う意味で「試合」があつたのかどうかではなく、現代のわたしたちにとっての「試合」の語源がそう捏造されているということである。

さて、ここまで「試合」という言葉への思い入れを持つと、FIFAはこれほどのような言葉を使ったのかが、気になってきた。The Japan Times OnlineのThe Associated Press (AP通信)によると「with no spectators」という文字が見える。ここでは「観客」に「audience」ではなく「spectators」を使っていることがわかる。この状態をFIFAは「behind closed doors」(非公開ということだろう)とい

う言葉を用いている。これらはインターネット上の検索サイトで調べたもので、FIFAのオフィシャルサイトを覗いたつもりでしたが、規約委員会の公式文章に直接あたったのではないことをお断りしておきたい。ちなみに、ニース記事では「試合」という語に「match」や「game」が当てられている。さらにお断りしたいがFIFAの公用語が英語かどつかも調べてはいない。これは余談になるが「spectators」の近似値として「specter」に目がいくこととなった。

3 真剣勝負

ようやく表現の鳥羽口立つことができた、といえるが、やはり次に移る前に「試合」に対して決めつちを綴っておくしかないようである。

わたしたちは現在生活の中で「真剣勝負」という言葉を持っている。気軽に使ったりもする。わたしの個人的な言語観から行くと、いつのころ捏造されたのであろうか、と考えてしまふ。このトートロジーは何を意味するのか。この拙文の脈絡から行くと、勝負とは元来真剣で行つたのであり、この勝ち負けを死合いに重ねるものを試合とした。そう位置つけることで、ここで言う「無観客試合」を理解しようとしたのだ。繰り返すことになるが、試合でやり取りする勝負は真剣でこそ決着する、とするなら、なぜその試合を、駄目押しするよつに「真剣」と念押しさせるを得ないのか。それは「試合」が「試合」でなくなり、かつての「試合」に対する追憶と記

憶が忘却の彼方から「真剣」という言葉を呼び寄せなのだ。不謹慎にもソシコール風と言えばパロールがリングを動かしたということになる。関係構造からいえば交通形態の変容なのだ、さてこれはわれわれ精神の、自然成長過程として変容したのであろうか？ 別稿を起こさねばならぬ領域に突入することは避け、誤解を恐れず言い放つが、これでは『龍馬はいかない』であろう。わたしたちのが引き受けてある近代は、いくつかの世界大戦を持ってきたではないか。同時に連合赤軍「事件」はある。つまり、先日、三年一組の教室に投げ込まれた、火薬入りの瓶を、どう演劇的に解決できるのかということである。残念ながら、われわれの演技論は、その爆発の前で佇んでいる。そして明確にいえるのは、火薬入りの瓶の対極にあるものが「無観客試合」という概念である。

「試合」から「無観客試合」への推移は、「勝負」から「真剣勝負」への変容性に重なる。この、「勝負」から「真剣勝負」への変容性の中にあるのは、われわれが引き受けてある近代、これらを上記のようにイデオロギー（＝ドクサ）としてマニフェストするのはそう意味あることとは思わない。それはまた、換言して「勝負」から「真剣勝負」への推移が、文化成長過程として、われわれの持つ攻撃性や、テロリズムの非生産性を官許の元に去勢するという経済性のみで置き換えられたものだ、と言い放つても同時に意味がない。つまり「勝負」から「真剣勝負」への推移を歴史成長過程と位置づけし、また仮設は、「投げ込まれた、火薬入りの瓶」としてあるこの今を、無批判に追認するだけのこと以外ではないから

である。

さて、これらはそうあるという前提である。話しを進めるには、これらのカテゴリーに対し身体を置くという作業である。当然それは演技論である。この表現行為という視座で「無観客試合」の「観客」を見ていくことにしよう。

まずは「観客」という言葉が、スポーツと呼ばれる現代的な語彙の中に、どのように閉じ込められているのかを、炙り出す事になるだろう。かといって、スポーツ原論があると仮設して舞台表現という物事を進めてきたわけではないので、そうせず、むしろ、表現における観客という観点から接近して荒書きすることが、ここでの道筋である。つまりまっとうにそうせざるを得ないのだ。

たとえば、あるテレビを見ているとき、スポーツ中継アナウンサーの「高橋尚子選手が、沿道の観客に向かって、手を振り声援にこたえています。まもなく四〇キロを過ぎます」という発声をしたとしよう。ここでの、このスポーツ中継アナウンサーは状況を、スポーツ、一人のマラソン選手、観客という絡みで紡いでいるわけだ。一人のマラソン選手が観客に対し、状況をマラソンしている。では、観客は誰に対しているのか、といった細部に踏み込む勇気はないが、スポーツ中継アナウンサーは、一人のマラソン選手がマラソン競技を行っている状況に、もう一つの何かを付加したのだ。スポーツ中継アナウンサーが沿道の観衆を観客と呼んだとき、一人のマラソン選手は、表現という属性を背負ったことになる。スポーツが表現に成り下がった瞬間である。つまりスポーツは何かに成り上がることもできないし、成り下がることもで

きないという意味である。このマラソン競技がイベントとしてあったのかどうかということは関係ない。スポーツはスポーツであり、表現は表現である。

では、ここでの意図を明確にするために「スポーツは表現か？」と問うことにしよう。それは表現であると同時に表現でない。トートロジーと逆説のオンパレードだが、それはこうだ。スポーツとは対他性においては競技であり、対自性においては表現である。では表現とは何か？

：【注記・編集】ここまでの「1」から「3」は
關澤光の文責で、2005年06月10日に『Bog
大阪演劇情報センター/更新記録・編集後記DC』
に発表された。参照元は「http://info.odc.ne.jp/yami/blog/P_BOG」である

4 情報としての観客＝演技論の地平

行きがかりとはいえ、思わず「表現とは何か？」などと問いかけてしまったことに後悔しきりである。当然、これに真つ当に答え切る力量はない。

ならばこの拙文の発表と、自問の意図に還り、思いを絡みとるしかない。幸いなことにかどうかわからないが、右記の「3」から、この「4」へは意図的に、ほぼ一カ月の時間がたった。書きなぐった思いは頓挫したことになってしまった

ので、その後思いも動く。これを整理することから始めよう。所期の思いは、そう複雑なものではなかつた。仮に「無観客試合」という言葉が実体化してあったとして、そこで屹立するイメージへの違和とは何か？これを整理することで、よしとする魂胆であった。だがさて、ことはそういうことだけではないようである。つまり「無観客試合」とは、様々な語り口はあるだろうが、この拙文でした、試合の形式を規定する用語ではなく、観客に纏わる概念の問題であるとせざるを得ないのではないかと。なる。ここに、思わず「表現とは何か？」などと問いかけてしまう脈絡があった。これが整理の大枠である。

できれば、サッカーには「無観客試合」というゲネブ口（オペラなどでは、初日の前に、本番どおりに行つ稽古のことをいう、とももの本にあります。演劇業界でもそつかもいれませんが、アリアリの稽古です。バックツアーなどで、見学の方は居るかもしれませんが、観客はいません。General proor＝ドイツ語）のような試合があるんだ、ということを通り過ぎたいのであった。しかし、これはFIFAの国際試合である。そこで「無観客試合」と宣言するのである。世界規模のイベントのなせる業であるつが、つがつていえば「ゲネブ口は本番です」というのである。

このとき「はいそうですか」といえないのは、ここで問題をこつ仮設するからに他ならない。ことはサッカーの問題ではない。「無観客試合」という言葉がありえたという、わたしたちの状況の問題であるだろうからだ。それが「無観客試合」という概念でもなく、またイメージでもなく、である。

この言葉が状況として成立したということは、そのバックボーンがすでにあり、それが「無観客試合」という価値で成立することにより、物事の関係は変容したということの意味する。それはまた、表現行為が見定めることを余儀なくされる観客の在り処が、これまでとはずれてある、ということになるからである。

換言するなら、無名性のなかに観客がいるであろうと想定したゲネアロと、あらかじめ観客を拒否して、観客を想定することは、決定的に異なる行為である。

多分、演劇行為が、見る観られるという相対性の磁場から抜け出し、可能性としての関係性を行為する作業であるならば、必ずや見るという行為は、体験から経験に登りあがる作業として、舞台上がり役者たらんとする俳優の前に、俳優の対自性を含んで起ち現れずにはおかない。これが無名性の中に観客を想起するということであり、結果、演劇行為は可能性の実態をわたし権化して、行為するという役者たらんとする身体のうちで、演技を捏造する方法へ至ろうとするものであるのなら、この観客の在り処のずれは、何をもたらすのであろうか。

わたしはいま、注釈をことさらに加えず、未知座小劇場の演技論をマニフェストめいて語っているのは、その演技論を情報論として語るしかない逡巡からくる。端的に言えば、ここでいう「見る観られるという相対性の磁場」は、もつ遠い昔の《昭和》という時代にあった物語としてではなく、あらためていうまでもないが、それは今日という情報としてあるからに他ならない。情報＝物語についての何ほどこかを語らねば

ならないのだから、このあたりの「情報と演技」に対する位置付けは、別途拙文として『情報と演技について』や『演技について』(<http://info.odc.ne.jp/yami/engeki/ron/ronsyu.php>)があるので参照願えば幸いである。文脈上概括するならば、行きはぐれてしまった「観客」や「物語」への望郷の眼差しを、別名としての「もつ一つの物語」あるいは「ありえてしまった未来」に送るのではなく、あるいはまた「すべてを概括するかのようであった、物言わぬように物言つ日常」を曝くように、凝視するのではなく、百花繚乱の情報論の海へ竿さし、それに耐えつる演技論を行為するを良とした。だが、いま演技論は情報論を装いわれわれの前にあるのだ、と揚言したのであった。さて、この「4 情報としての観客」は前節の『表現行為という視座で「無観客試合」の「観客」を見ていく』ということから始めたが、思いの丈で強引に纏めているという感を免れ得ない。それは、素直に文章化することが出来ず、こつ「纏める」ということでしか文意を運べない、わたしの現状を示してあるといえる。そうはならしとするなら、素描しようとしてきたイメージを提出し、この纏めに繋げておくことで、この拙文を終わることにしよう。

5 卑弥呼の踵

舞台という形式をどこから想起するのか、ということにもなる。それは、どこまで時間のネジを巻き戻しておくのか、

ということである。またそれは、削ぎ落とすことの出来るものはすべて削ぎ落とすという仮設である。この社会性を帯びた表現という鏡に「無観客試合」はどつ映るのか。

もちろんこれはイメージの話であり、その原初形態から前述した「無観客試合」を見よつとしてきた。ここでいうイメージというのは、ロマン・ロランの「花で飾った一本の杭」のようなものである。このロマン・ロランの「杭」は祭りの原初形態と読むのだが、さて舞台の原初形態は。

原始共産制。雨乞いが行われている。それは共同体の意思である。「薪くべ」が行われて炎が舞つ。祭壇がある。その前で巫女は御託言を求める。それらを前に人々は祈る。ここにいる巫女は、わたしの場合は「事鬼道能惑衆」の卑弥呼である。やがて御託言があり、それは御託言がおりたと装つことかもしれない。ともあれ卑弥呼は踵をかえず。

踵がかえつたこの瞬間こそ、世界史のなかで舞台が成立した瞬間である。これらはすべて儀式の一環であるかもしれないが、そのとき卑弥呼は、人々と萬神の間に割り入り、自身を物語ろつとしたのだ。祈る人々は、一瞬に観客に転換した。余談になるが、舞台にあまり役者足らんとする俳優の、この踵をかえずという様態は、何ものかを一瞬に異態に転換する行為のことである。人々はこれを演技というが、技とするにはおこがましい。ということ、できるなら、あらかじめ役者である能役者と言われる方々にお任せしたいのが、偽らざるところである。だからといって、舞台にあまり役者たらんとする俳優はアンドロマックよろしく「天におわす我が大神様よ」というわけにはいかないのである。つまり、ここで

の構図は、卑弥呼の前に観客はなく「無観客試合」がある。また観客の前には卑弥呼はおらず「無観客試合」がある。

この拙文で出発してあつた「遵和」は、卑弥呼の側からする「演技論」であると括ることができるだろう。また、観客の側からするそれは「情報論」であるしかないのだ。この二つは、ゆきはぐれてある。唐突に聞こえるかもしれないがこの拙文に隠された、舞台で行為することのリアリティーのなさや、物語の不可能性は、ここでも論証できるはずである。これらを前にして、逃げを撃つのは容易い。この「演技論」と「情報論」をまとめて情況論として語ればいいのである。もちろん逃げであつても、それが現代的な課題や思想的課題、あるいは演劇的課題に対し何らかの仮設を提示したものであれば、それは一つの営為であり、一つの可能性である。当たりをつけていえば、それでは現象学としての論にならないのである。このジレンマこそ『演技について（無観客試合と演劇）』という拙文であるということは言をまたない。

繰り言になるまえに「無観客試合」にかえろつ。であるが、これまたあるイメージになる。これを提出して終わりにしたい。

前述で、舞台の基点を卑弥呼の踵にもとめた。そこからの「無観客試合」のままでは、ついにそれは単なる総括に過ぎない。すでにお分かりのように「無観客試合」は総括の対象ではないのだ。それは課題であり、可能性である。そうであるなら、もつ一つの視点が必要であつた。仮に卑弥呼の踵が千年の向こうなら、千年のあちらが必要となる。来年のテント公演でも汲々しているのに、なんのホラだというのは請け

合いだ、これは大向こう受けを狙った法螺なので、勘弁願いたい。ここに「虚体」をおきたい。「虚体」といえば、壇谷雄高の自回律の不快としての「虚体」であるが、自回律の和解としての「虚体」を本歌取りするのである。たとえば「わたくしが蝶であるとするとき、わたしは蝶である」としての、自回律の和解としての「虚体」である。向こうとこちらの幅のなかで、こちらの「無観客試合」を、自回律の和解としての「虚体」から見定めることを試行する。もつことは「無観客試合」でなくなるのはいたしかたない。

やはり最後にお詫びするしかないよつである。論拠や出典を示さないままの軽業師めいた展開は、当然鬱鬱をかつけない。ただ、ここで綴ったのは論文でも演劇論でもない。それは、未知座小劇場がする現場からの報告である。この一点は、最後まで手放さなかつたつもりである。この意味で黙許願えれば幸いである。

さてさてこのような中で、今回の公演『大阪物語』は、来年のテント公演を射程した、このいまの行為となっている。それは行きはぐれてしまった、テントという最も古典的な領域に視線を贈り、百花繚乱の情報論の海から、自殺行為にも似た綱渡りをしようという図であるから、もつこれは「あつは、ぷふい」というしかないのであった。

こうしてついに、この拙文も『大阪物語』で何らかの具体性を差し出すしかないということにたどり着いたよつである。一つの糧にと台本執筆中にもかかわらず「無観客試合」へ絡みとられてあるであろう情報論を見定めることを望み、

この『演技について（無観客試合と演劇）』を綴りはじめたのだが、その思いもまた、日々の稽古の中に切り刻むしかないよつである。
(2005.09.02 記)

：【注記・編集】『演技について（無観客試合と演劇）』の「添付資料」への掲載にあたり、纏巻責任で全体を各章に分け小見出しをつけた。初期発表時の文にはこの小見出しはない。

『大阪物語』とカンディンスキーの三日

本日は、ご来場いただきありがとうございます。

この一行で、拙文を閉じたい思いに偽りはない。『大阪物語』に触れるにはあまりにも、生々しい時点にいる。かとい

つて『大阪物語』のパンフレットを余文で汚すわけにはいかない。何カ月かの立ち稽古によって積み重ねられてきたものに、その現場で向かい合って来た者として、やはりそれは心が痛む。俳優たちの練習で身体を軋みの道程に見合う、何を、わたしは発酵させたのか。

ままよ。

本公演のサブタイトルは「コンポジション16」である。いわずもがなカンテンスキーである。

抽象絵画の祖といわれるカンテンスキー(1869-1944年)にコンポジション7(1913年)という作品がある。この圧倒的な迫力で迫りくる絵画(2000mm x 3000mm)には一つの逸話がある。出典は忘れたが、それは「構想三年の後、三日で仕上げた」というものだ。さて、この逸話をどう読むのか？

コンポジション7の前に立つと、この「三日」ということがコケオドシだということがわかるのはわたしだけではないであろう。その上でも、この「三日」を受け入れてみるには「構想三年」をどうイメージすればいいのか。

まずこの「構想三年」を論理構築の日々だったと憶測しよう。もちろん根拠はない。そのように仮設することで「三日」は究極可能となる、と台本執筆の経験上いえる。論理性を言葉に預けることで可能だ。しかしここで繰り広げられているのは「抽象」である。一般論からすれば具体の対極にあるものにほかならない。いわば、具体こそ論理であろう。さらについてなら、構想という論理を、抽象化し全体とするのだ。しかし、台本の場合、一概にいつでも仕方がないが、構想とい

う論理を、具体化し全体とする。こうなると、単に「論理構築の日々」といつたところでその内実がまったく違つたのであると仮説するしかない。だが実はわたしは、このカンテンスキーの「構想という論理を、抽象化し全体とする」作業は、カンテンスキーの具体であると予断している。

さて、この仮説はわたしがカンテンスキーに接近する場合の、かろうじて手に入れている出発としての命題でしかない。具体性はなんら模索されていない。しかし一つの可能性を、現時点でする一つの可能性を『大阪物語』に預けることにするとどうなるのか。その夢想の結果は、やがて『大阪物語』が上演され、舞台上で行為されるか、あるいは行為されないか、ということになるのであるが、いま初日を前に言及することはできない。ここでは、「構想という論理を、抽象化し全体とする」ことはどういうことなのか、という整理を『大阪物語』を踏まえ、それにそつて試みようとするだけである。あるいは、自身にその賭場口を指し示すことができるか。

素人がするカンテンスキーへの思いから離れるために、コンポジション7の製作年である一九一三年にふれよう。この年はフェルディナンド・ソシユール(1857-1913年)が亡くなった年として記憶する。カンテンスキーのコンポジション7の構想が三年と受け売るなら、このカンテンスキーの構想の期間に、ソシユールはスイスのジユネーヴ大学で数人の聴講生を前に、あの「一般言語学講義・第三講」を行つていたことになる。この符号になんら歴史的な事柄が絡むものではないが、妄想が広がるのも事実だ。これは得意な分野

である。そしてもうすでにお分りのように、カンティンスキーの「抽象」とソシユールの「記号」とを対置させたいのである。

ソシユールの弟子たちによって編まれた『一般言語学講義』やその手稿で彼は、まだ存在しないが、言語学を包み込む記号学を予見し、次のようにいつている。

「人々は、言語学が自然科学の次元に属するのか歴史科学の次元に属するのかをを知らうとして議論を重ねた。言語学はその二つのいずれにも属さず、未だ存在しないとはいえ、記号学という名のもとに存在すべき科学の一部門に属している。」

カンティンスキーの「抽象」を「記号」としてイメージし、その想いを、稚拙な理解で素描して差し出すには、どうしても無理があるのは承知だが、それでもなお試みるなら、信号の「赤」や「黄」はさておき、ソシユールのいう「言語記号」とは、「馬」などという指し示す言葉は、その「意味される内容」とで表裏一体に記号として成り立っている、と。たぶんこの関係こそ文化であるのだろうが、この「馬」は恣意的である、と。さらに、これらの記号は独立しているのではなく、システムとして、「馬」は「猫」や「犬」等との差異によって成立する、と。社会科学などに親しんできたものとしては、これを「真理」などないと論証した一例、と驚愕しながら読まざるえなかつたのですが……。

ともあれ、カンティンスキーのコンボジションだ。文意

の脈絡をふまえるなら、その全体はシステムである、ということになる。パーツ(記号)が全体の中で相互に軋みあっている。この運動を成立させる手立てこそ論理である。コンボジションのカンティンスキーはそのために三年を要した事になる。という独断が、ソシユールの「記号」を援用することによって成立する。そしてついに、コンボジションという全体は、情報に物語であるか？またそのように呼ぶことに意味はあるか？老婆心ながらお断りしておきたいが、またこの様な場で好みを持ち出す非礼を詫びながらではあるが、これらの思いは、あの啞しかつたテクスト論とは最も遠いぬところにある。

さて、とおこがましくも続けよう。

これから御覧いただく『大阪物語』には、二人の女優が登場する。彼女たちは、舞台上に上り役者たらんとし、相互に意味するものであるのか、あるいは指し示すものとなるのか。はたまた、相互に記号として軋み合うことになるのか。そうして役者となるのか。それらはすべて観てのお楽しみとなる。

最後までお楽しみ頂ければ幸いであり、望外の喜びです。
(05.11.23 記)

：【注記・編集】この「演技について」『大阪物語』とカンティンスキーの「白く」は二〇〇五年十一月、十二月に未知座小劇場で行われた公演当日のパンフレットに掲載されたものをここに転載した

オ－ティシヨノ募集要項

上演履歷

表題・未知座小劇場第39回三ノ上興業上演台本
著者・{心とやみくろみつ} 團圓光{心と}
編集・未知座小劇場
編責任・河野明
発行・大阪演劇情報センター電子出版
発行所・株式会社エッセント
発行日・2006年6月21日・初版
頒価・3000円
連絡先・〒581-0816 大阪府八尾市佐野町2-2-17

TEL ・072-996-5078
URL ・<http://未知座小劇場.jp/>
資料一本の取組は田中あやののり にご協力ください。